

平成14年度研究報告書

児童虐待に対する情緒障害児短期治療施設の
有効活用に関する縦断研究

研究代表者	滝川 一廣	大正大学
共同研究者	四方 燿子	子どもの虹情報研究センター
	高田 治	横浜いずみ学園

社会福祉法人 横浜博萌会

子どもの虹情報研修センター

(日本虐待・思春期問題情報研修センター)

平成14年度研究報告書

児童虐待に対する情緒障害児短期治療施設の
有効活用に関する縦断研究

子どもの虹 情報研修センター

児童虐待に対する情緒障害児短期治療施設の 有効活用に関する縦断研究

(中間報告1)

1、目的

本研究は児童虐待に対する情緒障害児短期治療施設でのケアの実態、有効性、問題点を調査をもとに分析し、情緒障害児短期治療施設の児童虐待への治療的課題を整理し今後の方向付けを目的とするものである。先に行われた滝川他(2001)「児童虐待に対する情緒障害児短期治療施設の有効利用に関する調査研究」(「平成12年度児童環境づくり等総合調査研究事業報告書」恩賜財団母子愛育会 所収)に続く縦断研究である。

深刻化する児童虐待に対する情緒障害児短期治療施設(以下、情短と記す)の具体的な活用のあり方についての研究は未だ不十分であり、特にその治療効果については実証的研究は少ない。先の調査研究においても入所児童の退所時の状態や治療効果については明らかにできなかったため、被虐待児のケアの実態、有効性、問題点をとらえる上で課題が残された。本研究は児童の在所中の状態を縦断的に調査し、退所時の状態の調査結果と併せて分析し、虐待問題への情短の治療的課題を整理し現実的かつ具体的な指針を示すことを目的とする。

また、被虐待児の状態を理解するための調査質問項目について、性別、虐待の種別等の各要因との相関研究などを通して分析をし、今後の調査研究の資料とすることも目的とする。

2、調査方法

滝川他(2001)の調査は、全国情緒障害児短期治療施設協議会の協力のもとに行われた。

全国の情短の入所部門に2000年9月1日現在在籍していた子ども全員を対象とし、調査用紙を各施設に郵送し、2000年10月から11月にかけて、各施設の職員が各子どもについて「入所後6ヶ月程度に見られた状態像」と「調査時点での状態像」を評定してもらった(入所して6ヶ月経たない子は入所後の状態像のみ評定を求めた)。返送された回答をチェックし回答漏れを指摘し、ほぼ返答が得られた。

本研究の縦断研究においても全国情緒障害児短期治療施設協議会の協力のもとに行われ、滝川他(2001)で調査した全国の情短17施設の対象児童について、2004年まで毎年10月に同一項目の状態像の調査を同様の手順で行う。また、退所した児童については退所時の状態等の調査も行い、併せて分析を行う。

調査質問項目の分析については、滝川他(2001)のデータおよび上記のデータを用いる。

3、調査項目

(1) 子どもの状態像に関する調査(資料1)

性別、入所年齢、被虐待児か否か、入所年月日の他、以下の調査項目を設けた。

「睡眠」「食欲」「排泄」「身体感覚」「身体運動」「身体発育」「情動の傾向」「大人(スタッフ)に対す

る態度」「大人（スタッフ）に対して目立つ行動」「他の子どもに対する目立った行動」「社会的なルールや約束」「特定の大人との関係」「特定の子どもとの関係」「自分自身に対する構え」「認知能力（知的能力）と基本的な学習能力」「生活上の様子」「いわゆる問題行動」「主たる養育者に示す愛着と拒否」「児童精神科領域についての医学的ケア」の19領域、計166項目に、各領域に「その他（自由記述）」を加えた185項目からなる。被虐待児には上記項目に「主たる虐待養育者に示す愛着と拒否」10項目を加えている。

筆者らの経験をもとに項目を書き出し、各領域に整理したものである。3人の合議であり、抜け落ちている項目がある可能性も高いが、項目の恣意的な選定は殆ど行われていない。回答は、例えば、「1、ねつきが悪い」という項目が該当すれば、項目番号1に○を付けるという方法で、2件法とした。ただし「問題行動」だけは頻度によって「毎日のように」「週に1～2度くらい」「月に1～2度くらい」「何カ月に1度くらい」「ない」の5件法の回答を求めた。各領域には「特に問題がない」というような項目があり、各領域の中で少なくとも1つは○が付くようになっている。

（2）リスクアセスメント指標（資料2）

被虐待児には入所時点での家庭状況等を調べるため、加藤他（2000）の「リスクアセスメント指標」を児童相談所の記録等をもとに回答してもらった。

（3）退園児に関する調査（資料3）

退園児の退園時点での状況を調べるために、「治療効果」「退所の形態」「転帰」「進路」「退園後の援助」について回答を求めた。

（4）評定の信頼性の限界

評定には以下の事由により信頼性の限界がある。

評定は実態が出来るだけ把握されることを条件に、各施設に任せた。心理職の者が一人で評定した施設も、数人が合議で行った施設もあると思われ統制はされていない。回答は殆どが2件法であるため評定誤差は多件法に比べ少ないと思われるものの、評定者間の一致率等は求めている。回答の信頼性には問題が残る。

また、「入所後6カ月」、入所時の「リスクアセスメント」の回答は子どもによっては数年前の状態の評定であり、当時の担当職員が現在いない場合もあり、記録と回想の不確かさにより回答の信頼性は落ちる。

また、縦断調査時に担当職員が変わっていることも多く、変化が評定者間の相違よる部分が混ざり込んでいる可能性は否めない。

4、結 果

（1）2000年調査の対象集団とその特徴

17施設571名。男子59.5%、女子40.5%。入所年齢は男子平均10.86歳（標準偏差2.58歳）、女子平均11.28歳（標準偏差2.62歳）で、男女の有意差はない。

① 性別と入所年齢

被虐待児は300名、全体の52.7%（うち男子56.4%、女子43.6%）

被虐待児でない者は271名、全体の47.3%（うち男子63.1% 女子36.9%）

被虐待児か否かの別による入所年齢の平均（標準偏差、人数）は

	男	女
被虐待児	9.86歳（2.41歳 168名）	10.69歳（2.70歳 130名）
非被虐待児	11.86歳（2.35歳 169名）	12.05歳（2.29歳 99名）

男子では被虐待児か否の間に有意差がある（t値は7.70）。

女子では平均値と分散に有意差がある（t値は4.11 F値4.58）。

被虐待児の男女の平均値の間には有意差がある（t値は2.81）。

被虐待他児でない場合の男女の平均値の間には有意差はない。

被虐待児の方が入所年齢が低いのは、緊急の対応を迫られて年少時期に家庭から離れて入所したためと想像できる。不登校などの問題が時期を経て行き詰まってから入所に至るのとの違いであろう。

② 虐待の種別

虐待の種別の人数は以下の通りである。ただし重複がある。

身体的虐待	192名（被虐待児の64.0%、総数の33.6%）
ネグレクト	159名（被虐待児の53.0%、総数の27.8%）
心理的虐待	115名（被虐待児の38.3%、総数の20.1%）
性的虐待	18名（被虐待児の6.0%、総数の3.2%）

重複しているケース、重複のないケースの度数は表1 aに示す。

各種の虐待が認められる者の平均入所年齢を示す（表1 b）。

身体的虐待の認められるものと認められない者の平均の差が大きい一方、心理的虐待では差はほとんど無いことがわかる。身体的虐待が特に緊急の保護が必要となることによる結果であろう。

③ 虐待の発生前年齢

虐待の種別で分けない全体の平均年齢は、男子5.31歳（標準偏差3.56歳）、女子5.87歳（標準偏差3.92歳）である。

以下に、虐待の種類別にその虐待が認められる者の発生前年齢の平均（標準偏差、人数）を示すが、例えばネグレクトと身体的虐待が重複している場合、どちらか早くから出現した方の年齢となる。従って、ネグレクトの群でも実際は身体的虐待の発生前年齢が含まれている場合があり、厳密な統計ではない。

身体的虐待	男子5.15歳（3.62歳 110名）、女子5.34歳（3.89歳 65名）
性的虐待	男子3.00歳（なし 1名）、女子6.67歳（4.75歳 15名）
ネグレクト	男子4.91歳（3.47歳 79名）、女子5.50歳（3.87歳 58名）
心理的虐待	男子5.34歳（3.95歳 59名）、女子6.23歳（3.74歳 48名）

参考までに各虐待の種類が単独で発生している者の平均を示すが、標本数が小さいという問題がある。

身体的虐待	男子6.22歳（3.23歳 32名）、女子4.75歳（3.22歳 12名）
性的虐待	男子3.00歳（なし 1名）、女子8.00歳（4.76歳 7名）
ネグレクト	男子5.06歳（3.44歳 18名）、女子5.59歳（3.80歳 22名）

心理的虐待 男子 6.88 歳 (2.70 歳 8 名)、女子 8.25 歳 (3.39 歳 12 名)

全体に就学前に虐待が発生しており、入所までに数年が経過している事が推測される。

性的虐待の女子の平均年齢が若干高いのは理解に難くない。心理的虐待の発生年齢が若干身体的虐待、ネグレクトに比して高いようである。

④ 養育者 (表 2)

両親のそろっている家庭が少なく、母子家庭が多い。父子家庭も 1 割近く見られる。実母-継父 (養父)、実父-継母 (養母) など再婚家庭も多く、複雑な家庭事情がうかがわれる。

⑤ 虐待者 (表 3)

実母からの虐待 (実父母、実母のみ、実母-継父など) が半数を越える。実父からの虐待が 3 割強である。

継母 (養母) の数は少ないが、養育者に挙げられた数 (男子 11 名、女子 11 人) に対して、虐待者に挙げられた数は男子 11 名、女子 11 名となっている。継父 (義父、養父、内夫) は男子 18 名、女子 16 名に対して、虐待者に挙げられた数は男子 25 名、女子 17 名である。過去の虐待 (継母、継父とも離婚したため養育者に数えられていない) が含まれているため、実数は大きくなるが、高率で継母、継父が虐待に加担していると推測される。

⑥ 子どもの負因 (表 4)

知的な遅れ、脳波異常、未熟児、慢性疾患、身体障害など、子育てが難しく虐待を誘発しやすいと考えられる項目の該当率は低い。情緒障害児短期治療施設の対象が、知的な遅れや身体障害などを除くことから、この数字になったと思われる。精神薄弱児施設や肢体不自由児施設の実態を参考とすべきである。本調査の母集団ではこのような要因の影響は大きくないと考えられる。

⑦ 入所前の環境、様子 (リスクアセスメント (表 5) より)

家庭の状況として、半数以上に経済的な問題があり、6 割以上が夫婦間に問題があり、過半数が社会的サポートが得られず、半数近くが孤立的であるという状況で、生活そのものが安定していない様子が窺われる。そして、半数以上の養育者は養育知識にも問題があり、虐待の自覚も乏しく、中流階級の育児不安といった様相とは異なるようで、生活状況を含めた養育環境の問題の大きさが窺われる。そのような家庭に対する援助として、ケースワークの必要性は大きく、ケースワーカーの配置が望まれる。

しばしば指摘される世代間連鎖が見られるのは 3 割程度であり、アルコール依存も 2 割を切っており、この数字を大きいと捉えるかは議論の余地がある。

(2) 施設の違いについて

施設別の性別、年齢構成、被虐待児の人数は表 6 の通りである。

17 施設は個々に独自の運営方針をもっており、施設による違いが大きい。表に示したように、全員が小学生の被虐待児である施設がある一方で、被虐待児が 25 名中 2 名しかいない施設もある。本来は施設間の差異を分析し、その要因を考慮して全体像を作ることが必要であるが、個々の施設は 12 名から 54 名までの集団で、標本数が小さく各施設の特徴を統計的に同定するには無理があり、分析も複雑になる。今回の目的は情緒障害児短期治療施設に在籍している子どもの実態の素描であるので、17 施設を併せた標

本で分析を進めるが、施設による差異をコントロール出来ていないという限定が大きい。

(3) 項目分析

多くの項目は1か0の2項で分析するが、「問題行動」の領域の項目は頻度によって0から4の5段階の順序尺度とする。

① 各項目の該当人数（○をつけられた人数）

入所後6カ月の全項目について、被虐待児とそうでない者を分け、該当した割合（出現率）（例えば「寝付きが悪い」の項目に○のついた人数）をクロス表にした（表7）。

各領域での「問題のない」とされる項目をみると、「睡眠領域」「食欲」「排泄」「身体運動」「身体発育」「特定の大人との関係」「生活上の問題」ではほぼ半数以上の子どもが問題がないと評定されている。一方、「情動の傾向」「大人に対する態度」「他の子どもに対する目立った行動」「自分自身に対する構え」といった領域では大半の子どもが何らかの問題があると評定されている。情緒障害児が心理的問題、対人関係の問題が主であることを裏付けている。

個々の項目では全体として該等人数（出現率）が小さい項目が多い。「情動の傾向」などで3割近い項目もある（表7 a）が、2割以下の項目が多い。性別、被虐待児か否かでわけた4群のすべてで度数が総数の10%に満たない項目も多い。被虐待児の特徴としてよく挙げられる項目に関しても、過半数の被虐待児には見られないという結果である。

表7を見ると、殆んど項目で被虐待児の方が非被虐待児よりも出現率が高く、虐待体験の影響が全般にわたることが予想される。出現率を被虐待児か否かで比較するだけでは他の要因の影響が介在している可能性も大きいため、より詳しい検討を行う。

② 状態像の項目と性別等の因子との関連（ロジスティック回帰分析、標本数529）

各項目の状態の出現に影響する因子を推定するため、虐待の有無、身体的、ネグレクト、心理的、性的虐待の有無、入所年齢、虐待の発生年齢（非被虐待児は入所時年齢としてた）、性別との関係を解析した。状態像の項目の殆どは2項のカテゴリ尺度であり、各因子との連関を調べる場合、カイ二乗検定が適当な方法である。本研究では多数の因子が相互に関連していると考えられるため、ロジスティック回帰分析のステップワイズ法を用いた。

表8に、各状態の出現に有意に影響する因子として有意水準5%で推定された因子と回帰係数を示す（各項目は表7に示した略語で記されている）。回帰係数はその因子の値が1変化した時の対数オッズ比であり、A睡眠の「寝付き」は虐待を受けた子ども（虐待=1）は受けていない子ども（虐待=0）の2.77倍出現しやすいことを意味する。同様に「浅眠」は入所年齢が1歳上がると1.22倍（5歳上がれば、1.22の5乗）出現しやすい。表9に各症状の出現に関与する因子（有意水準5%）をまとめた。以下に特徴的な面を記す。

a、虐待経験の影響

虐待の種類にかかわらず虐待的養育は、「睡眠」「食欲」「大人に対する態度」「大人に対する行動」「生活上の問題」の各領域に何らかの問題を出現させる率が高く、生理的な面と大人への態度といった生活の基本的な面に影響を与えるようだ。「夜尿」「痛覚の敏感さ」「情動の過敏さ」「衝動性」、大人に対する「不自然さ」、「浮き沈み」、大人との関係「不安定さ」「手のひらを返したよ

うな態度」「両価的な態度」といった、過敏さ不安定さを示す項目に影響を与えている。特に「自分に無関心」「自分の外見」「将来」「他者から好かれること」に対するなげやり、諦めの態度への影響は特徴的である。虐待体験を受けたことにより、自分を大切にできないなげやりの生き方に傾くことが示されており、虐待の根本的な問題が浮き彫りになっていると思われる。

b 身体的虐待の影響

「約束を守れない」「嘘」など「社会的ルールや約束」の問題、多動、衝動性、粗暴行為、大人に対する反発や操作的な態度と他の子どもに対する喧嘩、妬みなど、虐待との関係でよく指摘される面は身体的虐待経験に影響される面である。さらに「痛覚の敏感さ」「鈍感さ」「温度感覚の鈍感さ」など「身体感覚」の問題への影響が特徴的である。

c ネグレクトの影響

ネグレクト経験の有無で出現率が影響を受ける項目は少ない。ネグレクトを受けた子どもは著しい問題を生じないため、このような結果になったと思われるが、根深い問題が現場では関知されている。「浅眠」「悪夢」「苛められ」といったあまり目立たない状態との関連は示されており、職員、友人との関係が安定しないことなども気になるところである。

d 心理的虐待の影響

心理的虐待は基準が曖昧で認定しづらい虐待であるが、それでも認定された程親の態度が問題であったということであろうか、「不活発」「意識の解離」「感情の解離」「自傷」「養育者への拒否感」といった問題に影響している。意識、感情の解離は養育者の関わりにより傷つくことを防衛する方略と考えられる。

e 性的虐待の影響

性的虐待が認められる子どもの数が少なく、特徴の推測には限界があるが、今回の調査では性的虐待経験が広範な影響を示すことが推測される。身体的虐待と同様の問題行動や攻撃的な様子に加え、「抑鬱」「不安」といった情緒の問題や、「自分」「未来」に対する諦めの様子、「自信のなさ」、他人に対する攻撃だけでなく自傷行為も見られ、幅広い領域に影響を与えている。特に、解離については、痛覚の鈍さと感情面での解離が見られ、性的虐待体験の影響が窺われる

f 入所年齢

年齢的要因であるが、「夜泣き」「夜尿」「遺尿」「転びやすい」「多動」「注意の持続ができない」といった問題や「生活上の問題」に影響していることは理解しやすい。

g 虐待の発生年齢

虐待を早い時期から受けた方が、大人に対する態度、行動、他の子どもに対する行動、ルール違反といった問題を呈しやすい。人間不信が強く窺われる結果であり、基本的信頼を形成する乳幼児期の養育者との安定した応答的関係の欠如の結果と予想される。

h 性差

多動、衝動的、暴力、物品の破壊など粗暴傾向は男子であることと関連が示される一方、女子は憂鬱、悲哀、感情の浮き沈みなど情緒面の問題や職員に対してのかかわりの問題を出現しやすいことが示されている。

上記のように、虐待の種別の特徴などが顕著に見られる一方、種別を越えて虐待経験に共通す

る特徴もある。虐待経験で一括りにした議論が散見されるが、今後は虐待の種別などを分けて論じる必要が示されている。

(4) 入所による変化

5年間の縦断調査の中途であり、縦断調査の終了を待って報告する予定であるが、仮説の生成をかねて中間報告を行う。

① 退所児について (中間報告)

a 治療効果、転帰、退所理由、退所後の援助形態

2002年10月までに退所した児童、被虐待児183名(男子103名、女子80名)、非被虐待児204名(男子129名、女子75名)の治療効果、転帰を示す。退所時期は中学卒業時が最も多く、次に小学校卒業時が多い。

退所した児童の在所期間(図1)(2000年11月から翌年10月まで)の平均は被虐待児男子28.2ヶ月(59名)、女子26.2ヶ月(45名)、非被虐待児男子27.4ヶ月(88名)、女子23.7ヶ月(50名)である。入所して半年から3年以内の子が大きな割合を占めていた。

治療効果(図2)、転帰(図3)ともに、2001年10月までの一年に退所した児童、2002年10月までの1年に退所した児童の間で大きな差はない。効果については「やや改善」、「改善」が8割近くを占めており、虐待経験による大きな差はない。被虐待児の約31%が「改善」、54%が「やや改善」で、それなりの治療効果が上がっているといえる。興味深いのは、非被虐待児の改善度もあまり変わらないことで、虐待でもないのに家庭から離して入所ケアに及ばねばならなかった児童は、それだけ重い問題を抱えており、虐待だけが深刻な問題ではないことを示している。

被虐待児の117名(59%)は、最初の調査時点から2年以上経てもなお退所できない児童で、非被虐待児の67名(25%)と大きな差があり、平均在所期間の差も広がると予想される。非被虐待児も被虐待児も1、2年を越えるケアが必要だが、被虐待児の方が改善の勾配がずっと緩やかでより長期にわたる粘り強いケアが必要であることを示唆している。

転帰については、約半数は家庭復帰ができていますが、半数はやはり家庭復帰は困難である。注目したいのは非被虐待児においても、退所後、家庭復帰できず他の福祉施設を受け皿とするケースが10~15%でてくることで、児童養護施設から入所して児童養護施設に戻った事例などがあるのかもしれないが、家庭基盤の脆弱な子どもが非被虐待児にも一定の割合いることを示している。

退所の理由(表10)については、結果からはっきりとした傾向は解釈しにくい。中断が少ないことは示されているが、被虐待児男子の逸脱行為のための中断が1割近くいることが注目される。

退所後の援助(表11)に関しては、「援助なし」が2割から3割程度であり、7割以上が退所後も何らかの援助を必要としていることが分かる。問題が完治し治療が終結するというモデルには当てはまらない子どもが多く、何らかの問題をかかえながらも援助を受けながら生活していくという援助モデルが必要であることを示している。

b 退所時の状態

2001年の調査で得られた退所児の状態と2002年の調査で得られた退所児の状態を虐待の有無、性別の4群に分け、T検定を行った。166項目中、5%水準で有意差のある項目は被虐待児男子で

9項目、非被虐待児男子で10項目、被虐待児女子で6項目、非被虐待児女子で4項目であり、4群に共通する項目は無い。このように大きな差はないので、以下は2年分のデータで結果を示す(表12)。

退所の時点ではどのような状態が期待されるのか。この結果からは、ある状態が改善されて退所しているという程、退所のめどとなる状態は見られない。

被虐待児によく見られる睡眠障害、過食異食、遺尿遺糞、身体感覚や身体運動のアンバランスなど身体にまつわる障害は早期に改善し、退所時点での改善率も高い。また安定した対人関係を培うことの困難さも被虐待児の特徴だが、そのなかにあつて担当スタッフなど「特定の大人との関係」も高い改善率を示していることは注目される。一対一の個別的なかわりを重視する情短の伝統と、そのなかで身の回りのこまやかな保護的なケアを大切するという方法が、被虐待児の治療に有効なことを示唆する。それに支えられるように食事、洗面、トイレ、着替えなど基本的な生活習慣も退園時にはかなりの改善率をみせている。「生活の問題」「社会的ルールや約束」「大人に対して目立った行動」「特定の大人との関係」「特定の子どもとの関係」「問題行動」などが50%近くまで改善されており、集団生活を営む上での大事にされていることが、退所の判断や治療効果の評価に関与しているのかもしれない。

激しい暴力などに代表される問題行動や社会ルールの逸脱も入所6ヶ月目に比べると退所時にはかなり改善しているが、なお「問題あり」が半数いる。ここに被虐待児特有の攻撃性の深さという問題と、この改善率をさらに高めるにはどうすればよいかの課題が浮かび上がる。ただ、「有無」だけでなく頻度によって重みをつけた経過(下記②、図6-5)を見れば治療期間とともに特に対職員暴力は明らかに軽度化しており、これは「特定の大人)との関係」の改善と相関している可能性があり、治療のヒントがありそうである。

これに対して子ども同士の関係のあり方は、それ程改善しない。「特定の子どもとの安定した関係」を持てている割合をみると(下記②、図5)、非被虐待児では、在所期間と共に増えていくのに対して、被虐待児は1、2年は増えても後は横ばいになってしまうことが示されている。虐待の再現現象でどうしても傷つけあったり、大人を奪いあったりで親密な友人関係が育ちにくいことが推測される。こうした際などには職員が手数をかけて介在し、子ども集団が否定的な影響を与えあう集団にならないようにして、子ども同士の親密な関係を育て上げることが必要だが、現実にはそこまで手がまわらず、大きな課題となっていると思われる。

これに併せて自己評価の低さと、その改善率の悪さも気になる。下位項目(表12-3)を見ると、自己評価のうち、被虐待児がしばしば抱く「なげやりで自分に無関心(どうでもよい)」「未来へ関心、希望を持たない」といった自己存在に対する否定感は改善しているが、「自分に対する自信」が非常に伸び悩んで自己評価を低めていることがわかる。学力の低さなどが、端的な自信のなさにつながっている可能性が大きい。また一般家庭の子どもに比べたとき、物心ともども恵まれていない施設生活を余儀なくされている事実自体、子どもにプライドや自信を育むのを妨げている現実を無視できない。最低基準の見直しは、こうした観点からも重要だろう。また、先に施設内で学校教育が受けられることの利点を述べたが、そのことは反面、子どもたちの社会経験を狭め、地域社会への復帰の自信を育みにくいという問題もある。子どもの育ちに合わせて、地

域の学校に登校ができるようにするなどの工夫が必要となろう。加えて、子どもたちが治療対象であることから、普通の子より劣っている面に職員は注目しがちであるが、普通の子とは違う成長の道筋ではありながらも、子どもたちの生き抜いてきた力に信頼と畏敬の念を持つことが、子どもたちの自己評価を高める上では必要となろう。

対養育者との関係の改善の低さは、虐待という問題の性質のしからしめるところで、家庭復帰の困難さにつながっている問題である。しかし、この改善率の低さの割には約半数の子どもが家庭復帰していることは注目される。上記の他の領域の改善率を考慮すると、情短ケアのなかで子ども自身が改善し成長し、養育者との直接的な関係改善が得られなくても、それなりに折り合いをつけて家庭復帰をしてゆく子どもが少なくないことが十分に推測される。退所時点の家庭環境のデータがないため推測の域をでないが、彼らが虐待体験による傷を抱えながら歩む道は容易でない。退所後の援助について先に述べたように、家庭復帰後のアフターフォローの必要性を示唆している。

② 被虐待児の在所中の変化について

入所から各調査時までの月数（在所月数）をもとに在所期間別に各状態の出現率を求め、線形性の検定を行った。在所期間は在所月数により、0 - 6月、7 - 18月、19 - 30月、31 - 42月、43 - 54月に分けた。各領域の「問題なし」に関しては、被虐待児と非被虐待児に分けて結果を示す（表13、図5）。各項目については、本研究が被虐待児の援助に関するものであることから、被虐待児についてのみ示す（表14、図6）。線形の検定（5時点の変化を直線で近似させた場合の、傾きが0でない検定）を行い、5%水準で有意な項目を示した。

①で挙げた結果と、大きな相違は見られない。今後縦断調査が進めば、在所期間による変化の様子、どのくらいたてば改善が始まるかといった特徴が推定できると思われる。

③ 被虐待児の有する各状態の改善に影響する因子の推定

被虐待児が入所6ヶ月以内に有していた各項目の状態の消失にどのような因子が影響を与えているかを検討するために、各状態別に、状態を有する被虐待児の最終調査時までの状態の消失の有無と、身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待、性的虐待、最終年齢（調査時年齢）、虐待発生年齢、性別との関係をCoxの回帰分析のステップワイズ法を用いて推定した。「問題なし」の項目については、「問題なし」にチェックされなかった児童が「問題なし」となるかについて関係する因子を推定した。5%水準で有意に影響を与える推定された因子とexp（回帰係数）を示す（表15）。ロジスティック回帰分析と同様に、回帰係数はその因子の取る値が1増えたときに、改善率が何倍になるかを示す。また、各状態の消失に関係する因子をまとめたもの（表16）を示す。

この解析法は各項目で入所から6ヶ月時点でその状態であった被虐待児が母集団となる。従って、出現率の低い項目では標本数が少なく、一人の値に左右されやすい。極端に大きな値が見られるのも、標本数の少なさの問題であり、今後の縦断研究でデータが集まればより精度の高い推定が可能になる。

年齢が低い程、改善率が上がるという結果は歴然としており、早期援助の必要性は言うまでもない。また、虐待発生年齢が遅い程改善率が上がる（早期に虐待を受ける程改善率が下がる）という結果も予想されるとおりであり、乳児期からの虐待が及ぼす深刻さが見て取れる。

性的虐待は人数が少なく推定に限界があるが、先に述べたように広範な問題に影響を与えている反面、改善率も良いことが示されている。

結 語

本報告では、2000年10月のデータを用いて、母集団の特徴を考察し、ロジスティック回帰分析により各項目（状態）に影響を与える要因（性別、虐待の種別等）を探った。性差や虐待種別の特徴など興味深い結果も見られた。また、中間報告として、改善の様子も探ってみた。縦断調査のデータが揃えば、各項目の変化の様子などが探れ、情緒障害児短期治療施設の治療経過についての考察が深められ手応えが得られた。今後の縦断調査の重要性が確認され、その成果が期待される。

追 記

統計的解析は、国立成育医療センター研究所成育社会医学研究部長谷村雅子先生と同研究部共同研究員大熊加奈子さんの協力を得た。また、統計解析にはSPSS11.0Jを用いた。

〈参考文献〉

滝川一廣、新保幸男、生島博之、四方耀子（2001）「児童虐待に対する情緒障害児短期治療施設の有効利用に関する調査研究」（恩賜財団母子愛育会「平成12年度児童環境づくり等総合調査研究事業報告書」所収）

加藤曜子、佐藤拓代、吉川敬子、津崎哲郎（2000）「重症度判断と危険度について」（子どもの虐待とネグレクト2（1）79 - 86

表 1 a 虐待の種類と出現度数

	総 数 (被虐待児における%)	男 子 (被虐待男児における%)	女 子 (被虐待女児における%)
身体的虐待を主とする者	130名 (43.3%)	87名 (51.8%)	43名 (33.1%)
ネグレクトを主とする者	97名 (32.3%)	50名 (29.8%)	46名 (35.4%)
心理的虐待を主とする者	55名 (18.3%)	28名 (16.7%)	26名 (20.0%)
性的虐待を主とする者	15名 (5.0%)	1名 (0.6%)	14名 (10.8%)
身体的虐待が認められる者	191名 (63.7%)	119名 (70.8%)	72名 (55.4%)
ネグレクトが認められる者	158名 (52.7%)	91名 (54.2%)	67名 (51.5%)
心理的虐待が認められる者	114名 (38.0%)	63名 (37.5%)	51名 (39.2%)
性的虐待が認められる者	18名 (6.0%)	1名 (0.6%)	17名 (13.1%)
身体的虐待のみ	53名 (17.7%)	38名 (22.6%)	15名 (11.5%)
ネグレクトのみ	54名 (18.0%)	26名 (15.5%)	28名 (21.5%)
心理的虐待のみ	20名 (6.7%)	8名 (4.8%)	12名 (9.2%)
性的虐待のみ	8名 (2.7%)	1名 (0.6%)	7名 (5.4%)
身体的虐待と ネグレクトの2つの重複	60名 (20.0%)	38名 (22.6%)	22名 (16.9%)
身体的虐待と 心理的虐待の2つの重複	51名 (17.0%)	28名 (16.7%)	23名 (17.7%)
身体的虐待と 性的虐待の2つの重複	5名 (1.7%)		5名 (3.8%)
ネグレクトと 心理的虐待の2つの重複	18名 (6.0%)	11名 (6.5%)	7名 (5.4%)
ネグレクトと 性的虐待の2つの重複	4名 (1.3%)		4名 (3.1%)
心理的虐待と 性的虐待の2つの重複	3名 (1.0%)		3名 (2.3%)
身体的虐待と心理的虐待と ネグレクトの3つの重複	24名 (8.0%)	16名 (9.5%)	8名 (6.2%)
身体的虐待と心理的虐待と 性的虐待の3つの重複	1名 (0.3%)		1名 (0.8%)

表 1 b 虐待の種類別の入所年齢の平均（標準偏差）（n＝標本数）

	身体的虐待が主たる虐待の者	身体的虐待が認められない者	T検定（t値（有意確率））
男子	9.63 (2.41) (n=86)	11.43 (2.52) (n=217)	5.67 (0.1%以下)
女子	9.09 (2.37) (n=43)	11.83 (2.40) (n=157)	6.64 (0.1%以下)
	身体的虐待が認められる者	同上	
男子	9.83 (2.17) (n=119)		5.67 (0.1%以下)
女子	10.08 (2.68) (n= 72)		4.91 (0.1%以下)
	ネグレクトが主たる虐待の者	ネグレクトが認められない者	T検定（t値（有意確率））
男子	9.86 (2.49) (n=50)	11.22 (2.57) (n=245)	3.91 (0.5%以下)
女子	10.93 (2.50) (n=46)	11.59 (2.59) (n=162)	差なし（ 5%以上）
	ネグレクトが認められる者	同上	
男子	9.91 (2.36) (n=91)		4.22 (0.1%以下)
女子	10.54 (2.54) (n=67)		2.80（ 1%以下）
	心理的虐待が主たる虐待の者	心理的虐待が認められない者	T検定（t値（有意確率））
男子	10.71 (2.32) (n=28)	11.01 (2.58) (n=273)	差なし（ 5%以上）
女子	11.42 (2.59) (n=26)	11.37 (2.58) (n=178)	差なし（ 5%以上）
	心理的虐待が認められる者	同上	
男子	10.24 (2.49) (n=63)		2.15（ 5%以下）
女子	10.98 (2.74) (n=51)		差なし（ 5%以上）
	性的虐待が主たる虐待の者	性的虐待が認められない者	T検定（t値（有意確率））
女子	13.21 (1.53) (n=14)	11.12 (2.62) (n=212)	4.69 (0.1%以下)
	性的虐待が認められる者	同上	
女子	13.24 (1.64) (n=17)		4.84 (0.1%以下)

表2 被虐待児の養育者

	男子(168名)	女子(130名)		男子(168名)	女子(130名)
実父母	16.1% (27)	18.5% (24)	実母-継父	4.2% (7)	8.5% (11)
実母のみ	45.7% (63)	32.3% (42)	実母-養父	2.4% (4)	2.3% (3)
実父のみ	9.5% (16)	9.2% (12)	実母-義父	0.6% (1)	
継母のみ	0.6% (1)	1.5% (2)	実母-内夫	0.6% (1)	
継父のみ	0.6% (1)	0.8% (1)	実母-祖母	1.2% (2)	
義母のみ	0.6% (1)		実母-姉		0.8% (1)
義父のみ	0.6% (1)		実父-継母	4.2% (7)	5.4% (7)
養母のみ			実父-養母	0.6% (1)	1.5% (2)
養父のみ	1.8% (3)	0.8% (1)	実父-祖母	0.6% (1)	
祖母のみ	6.5% (11)	0.8% (1)	養父-養母	0.6% (1)	
祖父のみ		0.8% (1)	祖父母	1.2% (2)	3.1% (4)
叔父のみ	0.8% (1)	0.8% (1)	祖母-叔母		0.8% (1)
実姉		1.5% (2)			
里母		0.8% (1)			
養育代行者	0.8% (1)				
施設	3.0% (5)	2.3% (3)			

表3 虐待者

	男子(168名)	女子(130名)		男子(168名)	女子(130名)
実父母	17.3% (29)	16.9% (22)	実母-継父	3.6% (6)	4.6% (6)
実母のみ	30.4% (51)	33.8% (44)	実母-養父	0.6% (1)	2.3% (3)
実父のみ	16.1% (27)	16.2% (21)	実母-義父	0.6% (1)	
継母のみ	2.4% (4)	3.1% (4)	実母-内夫		0.8% (1)
継父のみ	3.0% (5)	3.1% (4)	実母-祖母		1.5% (2)
義母のみ	0.6% (1)		実母-兄	0.6% (1)	
義父のみ	1.2% (2)		実父-継母	2.4% (4)	2.3% (3)
養母のみ	0.6% (1)	0.8% (1)	実父-養母		
養父のみ	3.0% (5)	2.3% (3)	実父-祖母	0.6% (1)	
祖母のみ	1.2% (2)		養父-養母		
母方祖母のみ	0.6% (1)		祖父母		0.8% (1)
養育代行者	1.8% (3)		実母-継母		1.5% (2)
内夫	1.2% (2)		実母-元養父	0.6% (1)	
兄	1.2% (2)		実母-同居人		0.8% (1)
			実母-知人	0.6% (1)	
			実父-養父		0.8% (1)
			義兄-義姉	0.6% (1)	
			継父-里母		0.8% (1)
			実母-実父-叔父	1.2% (2)	
			実母-実父-祖母	1.2% (2)	
			実母-実父-継母	1.2% (2)	0.8% (1)
			実母-祖母-祖父		0.8% (1)
			実母-実父-祖母-兄	0.6% (1)	
			実母-継父-継祖母	1.2% (2)	

表4 被虐待児の特徴

	該 当 率 (度 数)	
	男子(168名)	女子(130名)
知的な遅れ	4.2% (7)	10.0% (13)
脳波異常	6.0% (10)	2.3% (3)
未熟児	3.6% (6)	4.8% (8)
慢性疾患	1.8% (3)	2.3% (3)
身体障害	3.0% (5)	0.8% (1)

表5-1 リスクアセスメントの該当率

		該当率(度数)		該当率(度数)			
		男子(168名)	女子(130名)	男子(168名)	女子(130名)		
1. 傷の程度	生命/重度	6.0% (10)	9.2% (12)	中 度	19.6% (33)	10.8% (14)	
	軽 度	27.8% (47)	15.4% (20)	不 明	28.4% (48)	42.3% (55)	
	部 位	頭 部	14.2% (24)	13.1% (17)	顔 面	17.2% (29)	11.5% (15)
		性 器	0% (0)	0.8% (1)	頸 部	0.6% (1)	1.5% (2)
		内 蔵	0.6% (1)	0% (0)	臀 部	1.2% (2)	3.1% (4)
		上 肢	14.3% (24)	11.5% (15)	下 肢	10.1% (17)	9.2% (12)
		状 態	血 腫	1.8% (3)	1.5% (2)	骨 折	1.8% (3)
		裂 傷	4.2% (7)	2.3% (3)	火 傷	5.4% (9)	3.8% (5)
		打 撲	14.3% (24)	10.0% (13)	脱水症状	0% (0)	0.8% (1)
		あ ざ	16.7% (28)	14.6% (19)	みみずばれ	1.4% (4)	1.5% (2)
		皮膚疾患	0% (0)	0% (0)			
2. 虐待の継続	は い	62.5% (105)	66.2% (86)	や や	22.0% (37)	13.8% (18)	
	いいえ	7.7% (13)	6.9% (9)	不 明	6.0% (10)	8.5% (11)	
	繰り返す	29.8% (50)	36.2% (47)	常 習	17.3% (29)	21.5% (28)	
	子を何日も放置する	8.3% (14)	3.8% (5)				
3. 虐待歴	は い	33.6% (57)	26.9% (35)	や や	7.7% (13)	7.7% (10)	
	いいえ	46.4% (78)	50.8% (66)	不 明	6.5% (11)	3.8% (5)	
	入 院	4.8% (8)	6.2% (8)	施設歴	16.7% (28)	11.5% (15)	
4. 性的虐待	は い	0% (0)	13.8% (18)	や や	0% (0)	3.1% (4)	
	いいえ	87.5% (147)	66.9% (87)	不 明	6.5% (11)	10.0% (13)	
	擬	0.6% (1)	12.3% (16)	性 病	0% (0)	0% (0)	
	妊娠等	0% (0)	0.8% (1)				
5. 関係機関からの情報	は い	60.7% (102)	68.5% (89)	や や	10.7% (18)	6.9% (9)	
	いいえ	22.0% (37)	19.2% (25)	不 明	1.8% (3)	1.5% (2)	
	医 療	6.5% (11)	10.8% (14)	警 察	13.1% (22)	10.0% (13)	
	保 健	0% (0)	0.8% (1)	学 校	47.6% (80)	45.4% (59)	
	保健所	4.2% (7)	3.1% (4)	福祉事務所	12.5% (21)	15.4% (20)	
	民生児童委員	10.1% (17)	10.0% (13)	再三の近隣報告	5.4% (9)	7.7% (10)	
6. 身体状態(子ども)	は い	32.7% (55)	26.2% (34)	や や	10.1% (17)	6.9% (9)	
	いいえ	50.0% (84)	57.7% (75)	不 明	1.8% (3)	0.8% (1)	
	障 害	4.2% (7)	1.5% (2)	持 病	5.4% (9)	5.4% (7)	
	発達遅れ	10.1% (17)	9.2% (12)	発育不全	11.3% (19)	7.7% (10)	
	アレルギー体質	7.7% (13)	4.6% (6)				
7. 精神的状態(子ども)	は い	59.5% (100)	66.9% (87)	や や	29.2% (49)	20.8% (27)	
	いいえ	8.9% (15)	12.3% (16)	不 明	1.2% (2)	0% (0)	
	不 安	26.2% (44)	40.0% (52)	恐 れ	17.3% (29)	18.5% (24)	
	鬱 的	4.8% (8)	7.7% (10)	チ ック	7.7% (13)	1.5% (2)	
	脱 毛	1.8% (3)	3.1% (4)	夜 尿	11.9% (20)	17.7% (23)	
	遺 尿	3.6% (6)	10.0% (13)	異 食	1.2% (2)	0.8% (1)	
	無表情	10.1% (17)	14.6% (19)	攻撃的	41.1% (69)	30.0% (39)	
	暗い表情	14.9% (25)	30.8% (40)				

表5-2 リスクアセスメントの該当率

	該当率(度数)			該当率(度数)	
	男子(168名)	女子(130名)		男子(168名)	女子(130名)
8. 日常的状態 (子ども)	はい	41.7% (70)	やや	22.6% (38)	25.4% (33)
	いいえ	30.4% (51)	不明	3.6% (6)	3.8% (5)
	衣食住の監護なし	17.3% (29)	非衛生、不潔	18.5% (31)	18.5% (24)
	医療の放置	8.3% (14)	監督不十分	41.7% (70)	25.4% (33)
9. 問題行動 (子ども)	はい	66.7% (112)	やや	14.3% (24)	6.2% (8)
	いいえ	16.7% (28)	不明	1.2% (2)	1.5% (2)
	暴力	25.0% (42)	盗み	36.9% (62)	33.8% (44)
	家出	24.4% (41)	虚言	19.0% (32)	27.7% (36)
	性的逸脱	3.6% (6)	自傷行為	3.0% (5)	7.7% (10)
	深夜徘徊	14.3% (24)	怠学	13.7% (23)	6.2% (8)
10. 意思・気持ち (子ども)	はい	57.7% (97)	やや	14.3% (24)	15.4% (20)
	いいえ	19.0% (32)	不明	8.3% (14)	5.4% (7)
	親を嫌う	14.9% (25)	帰りがらない	20.8% (35)	23.1% (30)
	アンビバレントな気持ち	35.7% (60)			
11. 精神的状態 (養育者)	はい	25.0% (42)	やや	8.9% (15)	10.0% (13)
	いいえ	50.6% (85)	不明	11.3% (19)	12.3% (16)
	鬱的	6.5% (11)	精神症状	8.9% (15)	18.5% (24)
	通院	12.5% (21)	服薬	8.9% (15)	13.8% (18)
疑いはあるが通院歴なし	8.9% (15)				
12. 性格的問題 (養育者)	はい	61.3% (103)	やや	19.6% (33)	18.5% (24)
	いいえ	7.1% (12)	不明	10.7% (18)	7.7% (10)
	衝動的	25.6% (43)	未熟	39.3% (66)	40.0% (52)
	攻撃的	26.2% (44)	偏り	17.9% (30)	22.3% (29)
	共感性欠如	16.1% (27)			
13. アルコール/ 薬物(養育者)	はい	16.1% (27)	やや	6.0% (10)	5.4% (7)
	いいえ	53.0% (89)	不明	22.6% (38)	21.5% (28)
	依存	8.3% (14)	酔うと暴力	8.9% (15)	10.8% (14)
			有機溶剤や覚醒剤乱用の疑い	1.2% (2)	4.6% (6)
14. 被虐待歴 (養育者)	はい	28.6% (48)	やや	7.1% (12)	3.1% (4)
	いいえ	15.5% (26)	不明	46.4% (78)	55.4% (72)
	被虐待歴	12.5% (21)	愛されなかった思い	19.6% (33)	21.5% (28)
15. 子感情/態度	はい	32.7% (55)	やや	13.1% (22)	14.6% (19)
	いいえ	32.7% (55)	不明	19.6% (33)	23.1% (30)
	子ども嫌い	4.8% (8)	産まなければ	4.2% (7)	6.2% (8)
	アンビバレントな気持ち	25.6% (43)			
16. 虐待自覚なし	はい	51.8% (87)	やや	22.6% (38)	17.7% (23)
	いいえ	16.7% (28)	不明	8.3% (14)	6.2% (8)
	問題意識なし	31.0% (52)	体罰容認	14.9% (25)	11.5% (15)
	しつけ主張	25.6% (43)			

表5-3 リスクアセスメントの該当率

	該当率(度数)			該当率(度数)	
	男子(168名)	女子(130名)		男子(168名)	女子(130名)
17. 養育意欲/能力	はい	32.1% (54)	やや	25.0% (42)	13.1% (17)
	いいえ	34.5% (58)	不明	6.5% (11)	3.8% (5)
	意欲なし	21.4% (36)	能力低下	19.6% (33)	32.3% (42)
	知的障害	4.2% (7)			
18. 養育知識	はい	55.4% (93)	やや	20.8% (35)	10.8% (14)
	いいえ	16.7% (28)	不明	5.4% (9)	5.4% (7)
	若年親	8.9% (15)	知識不足	16.7% (28)	20.0% (26)
	不適切	48.8% (82)	期待過剰	13.7% (23)	13.1% (17)
19. 社会的サポート	はい	52.4% (88)	やや	23.2% (39)	11.5% (15)
	いいえ	17.9% (30)	不明	6.0% (10)	9.2% (12)
	孤立的	50.6% (85)	親族の対立	15.5% (26)	16.2% (21)
	親族過干渉	3.6% (6)	保育なし	1.8% (3)	2.3% (3)
	転居	7.7% (13)			
20. 夫婦問題	はい	68.5% (115)	やや	9.5% (16)	8.5% (11)
	いいえ	14.3% (24)	不明	6.5% (11)	6.2% (8)
	夫婦不和	20.8% (35)	夫婦間暴力	15.5% (26)	14.6% (19)
	別居	8.9% (15)	家出	6.0% (10)	7.7% (10)
	離婚問題	39.9% (67)			
21. 経済問題	はい	54.2% (91)	やや	12.5% (21)	16.2% (21)
	いいえ	27.4% (46)	不明	5.4% (9)	8.5% (11)
	ローン	10.7% (18)	生活苦	42.3% (71)	37.7% (49)
	失業	6.0% (10)	転居	7.1% (12)	3.8% (5)
	計画性欠如	23.2% (39)			
22. 生活環境	はい	23.2% (39)	やや	16.7% (28)	13.1% (17)
	いいえ	47.6% (80)	不明	8.3% (14)	12.3% (16)
	劣悪住居	20.2% (34)	安全確保への配慮なし	8.9% (15)	13.8% (18)
23. 協力態度なし	はい	13.1% (22)	やや	17.9% (30)	25.4% (33)
	いいえ	61.3% (103)	不明	1.2% (2)	2.3% (3)
	機関介入拒否	7.1% (12)	接触困難	11.9% (20)	14.6% (19)
24. 援助効果なし	はい	21.4% (36)	やや	31.5% (53)	32.3% (42)
	いいえ	39.3% (66)	不明	1.8% (3)	6.2% (8)
			調整改善期待できない	10.1% (17)	7.7% (10)
25. 子を守る人なし	はい	36.9% (62)	やや	23.8% (40)	16.9% (22)
	いいえ	29.2% (49)	不明	4.2% (7)	6.9% (9)
			日常的に子供を危険から守る人がいない	16.1% (27)	16.2% (21)
		危険な時、子の逃げ場がない	11.3% (19)	16.2% (21)	

表6 施設別の人数

施設番号	男子	女子	計	被虐待児	入所年齢	
					平均値 (標準偏差)	年齢の範囲
1	17	18	35	19	10.66 (2.65)	6~16
2	20	21	41	28	10.64 (2.24)	7~14
3	31	18	49	24	10.10 (2.30)	6~14
4	14	4	18	6	9.06 (1.66)	6~12
5	20	23	43	30	10.93 (1.66)	6~14
6	14	14	28	22	9.14 (1.98)	6~13
7	25	23	48	23	13.40 (2.12)	7~17
8	11	1	12	7	11.50 (1.98)	8~14
9	17	3	20	20	8.00 (1.60)	6~11
10	33	20	53	29	10.33 (2.56)	5~14
11	21	14	35	19	12.17 (2.09)	7~15
12	19	17	36	18	9.19 (2.55)	5~16
13	12	11	23	13	12.04 (2.64)	7~17
14	14	11	25	2	13.16 (1.82)	8~17
15	21	16	37	14	11.89 (2.00)	7~14
16	18	5	23	12	12.22 (2.56)	7~16
17	30	10	40	14	11.83 (1.87)	8~14

表7-1 各項目の出現率

領域	項目	略語	出現率(%)			
			男子		女子	
			被虐待児 168名	非 169名	被虐待児 130名	非 99名
A. 睡眠領域						
	特に問題なし	なし	56.0	66.3	56.2	66.7
	ねつきが悪い	寝付	26.2	20.7	27.7	11.1
	夜中に目を覚ましやすい、眠りが浅い	浅眠	13.7	13.0	23.8	16.2
	早朝に目が覚めてしまう	早朝覚	5.4	4.7	5.4	3.0
	夜泣き、激しい寝ぼけ、夜驚	夜泣	4.8	0.6	6.2	2.0
	悪夢の訴え	悪夢	6.0	0.6	15.4	5.1
	その他		8.9	7.7	7.7	6.1
B. 食欲						
	特に問題なし	なし	48.2	72.8	64.6	70.7
	食欲がない、拒食傾向	拒食	7.1	7.1	8.5	7.1
	異常なほどの食欲、過食傾向	過食	13.1	4.7	5.4	8.1
	むさぼり食い	貪り食	10.7	1.2	3.1	0.0
	極端な偏食	偏食	13.7	5.3	10.8	14.1
	極端な味付け（調味料のかけすぎなど）	過味付	11.9	3.0	5.4	1.0
	盗み食い	盗食	5.4	0.0	3.8	0.0
	異食症（食べられないものを食べてしまう）	異食	0.6	0.6	0.8	0.0
	食欲の極端なむら	食むら	13.1	7.1	10.8	7.1
	その他		9.5	7.1	9.2	4.0
C. 排泄						
	特に問題なし	なし	73.2	79.9	65.4	82.8
	頻尿	頻尿	3.6	2.4	6.9	3.0
	遺尿もしくは遺糞	遺尿	7.1	3.6	10.8	2.0
	頻繁な夜尿	夜尿	14.3	3.6	14.6	2.0
	トイレ以外（居室など）での排尿便	他所尿	5.4	1.2	5.4	0.0
	頻繁な便秘	便秘	0.6	2.4	5.4	5.1
	頻繁な下痢	下痢	0.6	3.0	0.8	2.0
	その他		7.7	7.1	4.6	5.1
D. 身体感覚						
	特に問題なし	なし	62.5	72.2	63.1	80.8
	痛みに敏感（わずかな痛みも大きく訴える、わずかな怪我にもパニックなど）	痛覚敏	12.5	6.5	20.8	2.0
	痛みに鈍感（痛みを感じないかのよう、怪我に気づかないなど）	痛覚鈍	6.0	3.6	8.5	0.0
	暑さ・寒さに敏感（極端に暑がる、寒がる）	温覚敏	1.2	2.4	3.1	3.0
	暑さ・寒さに鈍感（夏でも平気で厚着、冬でも平気で薄着など）	温覚鈍	20.2	10.1	4.6	3.0
	過敏さと鈍感さが混在していて、ちくはく（身体感覚の異常）	敏覚鈍	2.4	3.6	4.6	6.1
	その他		1.8	5.3	5.4	5.1

表 7-2 各項目の出現率

領域	項目	略語	出現率(%)			
			男子		女子	
			被虐待児 168名	非 169名	被虐待児 130名	非 99名
E. 身体運動						
	特に問題なし	なし	78.6	79.2	82.3	86.9
	大きな運動機能のまずさ（転びやすい、ボールがよけられないなど）	易転倒	7.7	7.7	6.2	2.0
	微細な運動機能のまずさ（極端な手先の不器用さ）	不器用	13.1	11.3	8.5	7.1
	運動発達の遅れ（極端に足が遅いなど年齢に比して著しい運動発達の遅れ）	遅発達	8.3	3.0	2.3	5.1
	その他		3.0	3.6	0.8	3.0
F. 身体発育						
	特に問題なし	なし	62.5	79.3	76.9	76.8
	その年齢の標準に比して低身長・低体重	低身長	28.6	11.2	16.2	12.1
	その他の身体発達上の問題		7.7	9.5	8.5	11.1
G. 情動の傾向						
	特に問題なし	なし	7.7	17.8	4.6	28.3
	元気がない、ふさぎ込み（抑うつが目立つ）	抑鬱	8.3	14.2	22.3	23.2
	表情が乏しい、もしくは不活発で硬い表情が目立つ	不活発	24.4	26.6	34.6	26.3
	すぐ泣き出す、すぐ涙ぐむ、悲しげ（悲哀が目立つ）	悲哀	6.5	5.9	16.9	20.2
	不安、もしくは怯えの表情が目立つ	不安	13.7	10.7	24.6	15.2
	過敏な反応（ぎくっと驚愕したり、怯えを示すなど）	過敏	12.5	9.5	19.2	8.1
	過度の落ち着きのなさ（多動傾向）	多動	39.3	17.8	15.4	5.1
	注意の集中や持続の困難が目立つ	注意	45.2	27.2	27.7	24.1
	衝動性が目立つ、衝動のコントロールが困難	衝動	48.8	25.4	33.1	11.1
	不自然なはしゃぎやハイテンションが目立つ	不自然	26.2	16.0	42.3	24.2
	気分の浮き沈みが激しい、感情が移ろいやすい	浮沈	11.9	12.4	29.2	25.3
	些細な刺激やきっかけで痙攣やパニックが起きる	痙攣	31.5	13.6	23.1	7.1
	周りには訳が分からないことで、突然キレたり激しい痙攣を起こしたりパニックを起こす	キレル	14.2	8.3	9.2	1.0
	ぼーっとして、心がどこかに行ってしまったような表情を示す、叱られたり注意されたときに起きやすい、その間のことはほとんど頭に入っていない（意識の解離）	意解離	9.5	4.7	10.8	4.0
	ふつうなら激しい感情反応（泣くとか怖がるとか）が引き出されるはずの状況で、まるで何も感じてないかのような無反応さ・無感情さを示す（感情の解離）	感解離	6.5	4.1	11.5	3.0
	些細なことへのこだわりが目立つ	拘り	19.0	20.7	10.8	17.2
	その他		6.0	8.3	7.7	8.1

表 7-3 各項目の出現率

領域	項目	略語	出現率(%)			
			男子		女子	
			被虐待児 168名	非 169名	被虐待児 130名	非 99名
<u>H. 大人（スタッフ）に対する態度</u>						
	特に気づく点はない	なし	8.9	16.0	6.2	15.2
	無関心で関わりを持とうとしない、或いはどうでもよいという様子	無関心	8.9	11.8	6.9	5.1
	拒否的で関わりを拒む、或いは放っておいて欲しいという様子	拒否	9.5	7.7	9.2	7.1
	攻撃的で怒りやイライラをぶつけてくる、或いはつっぱった態度	攻撃	30.4	8.9	23.8	10.1
	凍りついたような目つきや様子	凍り付	6.0	1.2	11.5	3.0
	表面的で、心を開かない様子	表面	20.2	20.7	23.8	16.2
	おずおずとした態度、おどおどとした態度	オドオド	17.3	17.2	16.9	12.1
	近づきたい様子はあるが、うまく近づけない	難接近	23.2	20.7	22.3	26.3
	過剰に接近しがち（べたべたする、過度なじゃれつきなど）	過接近	27.4	11.2	36.9	19.2
	そのときそのときで近づいたり離れたり不安定（安定しない距離の取り方）	不定	19.6	7.7	21.5	10.1
	極端な依存や見捨てられ不安がうかがわれる態度（つきまとい、しがみつき）	過依存	7.7	3.0	20.8	8.1
	オーバーな甘え方と手のひらを返したような無視の態度	両極	2.4	1.8	15.4	4.0
	大人に合わせてできるだけ「いい子」として受け入れられようとする態度（不自然にこやかさ）	いい子	17.3	12.4	26.2	17.2
	相手の様子にお構いなく身勝手に近づいてくる	勝手	19.0	15.4	30.8	19.0
	その他		4.2	6.5	2.3	4.0
<u>I. 大人（スタッフ）に対して目立つ行動</u>						
	特に気づく点はない	なし	17.3	38.5	13.1	39.4
	スタッフの注意を引こうとする（逸脱した振る舞いなどによって）	気引く	26.8	9.5	32.3	13.1
	思いどおりに動かそうとする（操作的）	操作	20.8	6.5	19.2	14.1
	裏表のある言動、相手によってまったく異なる言動	裏表	15.5	6.5	18.5	12.1
	反発や攻撃	反発	23.2	10.7	23.1	6.1
	神経を逆なでしたり、かっとならせるような言動	逆撫	23.8	14.2	16.9	5.1
	独りじめしようとする	独占	19.0	3.6	26.9	8.1
	顔をうかがう	顔窺	39.9	22.5	36.9	25.3
	甘え（依存）と反発（拒否）が入り混じる（アンビバレンツ）	両価	29.2	12.4	28.5	19.2
	スタッフへの好意や愛着を強く示そうとする（過剰なサービス）	過好意	10.7	8.9	21.5	10.1
	その他		3.6	6.5	6.2	2.0

表 7-4 各項目の出現率

領域	項目	略語	出現率(%)			
			男子		女子	
			被虐待児 168名	非 169名	被虐待児 130名	非 99名
<u>J. 他の子どもに対する目立った行動</u>						
	特に目立つ行動に気づかない	なし	7.1	21.9	6.9	15.2
	一緒に遊べず、孤立している	孤立	28.6	28.4	35.4	26.3
	すぐに喧嘩や衝突になる	喧嘩	38.1	13.0	33.1	14.1
	すぐいじめる	苛め	16.1	6.5	18.5	3.0
	いじめられやすい	被苛め	33.3	22.5	21.5	11.1
	ねたみやすい、嫉妬心が強い、すぐうらむ	妬み	17.9	8.9	25.4	6.1
	ひがみやすい	僻み	22.6	11.8	33.1	10.1
	攻撃的、他の子を口でやっつけたり、或いは暴力に訴えやすい	子攻撃	36.9	16.0	28.5	10.1
	支配的、他の子を思うように動かそうとする	支配	17.3	7.1	14.6	7.1
	他の子の言うがままになりやすい	被支配	16.7	16.0	18.5	20.2
	競争心が強くすぐはりあう	張合う	13.7	4.7	23.8	8.1
	競争を避ける、しり込みする	避競争	11.3	14.8	13.1	17.2
	独占欲が強い、物や人を独り占めにしたがる	子独占	14.3	3.6	23.1	7.1
	物への執着が薄く、すぐ他児に譲ったり取られても気にしない	無物執	4.2	3.6	6.9	0.0
	依存的で他の子に頼る、一人ではできない	依存	3.6	10.1	10.0	10.1
	物品などで他の子の好意や関心を得ようとする	物で釣	8.3	4.7	7.7	4.0
	神経を逆なでするような、かっとなさせるような言動	子逆撫	23.2	13.0	20.0	6.1
	その場の様子を気にせず、勝手なので嫌われる(傍若無人)	子勝手	20.8	16.6	24.6	17.2
	他の子が叱られるのを喜ぶ	喜他叱	5.4	0.6	6.2	0.0
	告げ口が多い	告口	13.7	5.9	17.7	7.1
	性的な遊びをする(同性と)	性的遊	3.0	1.2	8.5	0.0
	その他		8.9	5.9	5.4	8.1
<u>K. 社会的なルールや約束</u>						
	特に気づく点はない	なし	25.0	46.7	38.5	60.6
	わかっても自己コントロールができず守れない	守れず	43.5	26.6	30.0	14.1
	反抗や反発からわざと破る	反抗	15.5	6.5	14.6	5.1
	注意されたり指示されたことが残らない、ルールや約束をすぐ忘れる	忘	29.8	18.9	16.9	5.1
	虚言が多い 責められることを避けようとしての嘘	嘘逃げ	21.4	8.3	16.9	2.0
	関心を引こうとしての嘘	嘘気引	4.2	1.2	5.4	3.0
	空想やファンタジーがいりまっじた嘘	嘘空想	6.0	0.6	6.2	1.0
	その他	嘘他	1.2	0.6	0.0	0.0
	ルールに過度に忠実、融通がきかない、強迫的にこだわる	強迫	7.7	7.7	3.1	8.1
	ルールに無頓着	無頓	15.5	13.6	13.1	5.1
	その他		6.5	3.0	6.9	7.1

表 7-5 各項目の出現率

領域	項目	略語	出現率(%)			
			男子		女子	
			被虐待児 168名	非 169名	被虐待児 130名	非 99名
<u>L. 特定の大人との関係</u>						
	特定の大人（スタッフ）と親しい関係を持ち、その関係は持続的で安定	職 持 続	50.6	56.2	47.7	59.6
	特定の大人（スタッフ）と親しい関係を持つが、その相手がよく替わり一定しない	職 不 定	22.9	6.5	13.8	7.1
	特定の大人（スタッフ）と親しい関係を持ちにくい	職 難 係	29.2	32.5	34.6	25.3
	その他		7.7	4.1	5.4	8.1
<u>M. 特定の子どもとの関係</u>						
	特定の子と親しい友人関係を持ち、その関係は持続的	友 持 続	27.4	41.4	30.8	39.4
	特定の子と親しい友人関係を持つが、その相手がよく替わり一定しない	友 不 定	13.7	17.2	19.2	13.1
	特定の子と親しい友人関係を持ちにくい	友 難 係	53.6	37.3	44.6	45.5
	その他		4.2	5.3	6.2	4.0
<u>N. 自分自身に対する構え</u>						
	特に気づく点はない	な し	11.3	14.8	11.5	19.2
	どうせ・・・となげやりで自分に無関心（どうでもよい）	自 無 関	32.7	16.6	30.0	13.1
	自分の外見や人目（身なり、服装や体の清潔など）に無関心で注意を払わない	外 見	26.2	13.6	20.0	9.1
	自分の健康や身体の状態に無関心で注意を払わない	健 康	11.9	4.7	11.5	3.0
	自分の未来への関心ないし希望を持たない	未 来	19.6	8.3	22.3	12.1
	自分が他の人から好かれる（愛される）とは思っていない、或いは好かれる努力を放棄している	棄 評 価	18.5	7.7	18.5	5.1
	自分にいろいろ自信がない	自 信 無	52.4	59.2	54.6	52.5
	自分のことしか考えない、自分のことで精一杯	自 の み	38.1	26.0	37.7	35.4
	その他		2.4	4.7	3.8	3.0
<u>O. 認知能力（知的能力）と基本的な学習能力（読み書き、計算など）</u>						
	知的発達は普通で、それ相応の学習能力がうかがわれる	普 普	35.7	34.3	37.7	45.5
	知的発達は普通なのに、それに比して学習能力の低下やバランスの悪さが目立つ	普 低	39.9	39.6	34.6	24.2
	境界～軽度の知的遅れがあり、それ相応の学習能力がうかがわれる	遅 普	11.3	16.0	14.6	17.2
	境界～軽度の知的遅れがあるが、それ以上の学習能力の低さやバランスの悪さが目立つ	遅 低	11.3	8.9	13.1	9.1
	中度以上の知的遅れがみられる	知 遅	0.0	0.0	2.3	2.0
	その他		3.0	1.8	3.1	4.0

表 7-6 各項目の出現率

領域	項目	略語	出現率(%)			
			男子		女子	
			被虐待児 168名	非 169名	被虐待児 130名	非 99名
P. 生活上の様子						
	特に目だった点はない	なし	35.1	66.3	53.1	73.7
	食事中ひどく落ち着かない	食多動	32.7	10.1	11.5	2.0
	だらだら食べていて、なかなか終わらない	食ダラダラ	20.8	8.3	19.2	7.1
	人の膝にのれない、爪切りをこわがる	膝乗	3.6	0.6	6.9	1.0
	入浴中背中を流させない	入浴	3.6	3.6	6.9	1.0
	下着を取り替えない	下着	8.3	2.4	8.5	1.0
	生理の始末ができない	生理	0.0	0.0	6.2	4.0
	トイレが怖い	WC怖	7.7	3.0	9.2	1.0
	トイレでお尻をふかない	不拭	7.1	3.0	4.6	0.0
	水が怖くて顔が洗えない	水怖	1.8	0.6	0.0	0.0
	時計が読めない	時計	9.5	5.9	10.0	3.0
	空想の世界に入りきっている姿が目立つ(踊ったり、学級委員などの役割与えられたときなど、何かのりうつっているような)	空想	3.0	4.1	6.2	4.0
	その他		15.5	12.4	7.7	13.1
R. 主たる養育者に示す愛着と拒否						
	自然な愛着や愛情欲求が示される	養自然	11.9	26.0	14.6	24.2
	愛着もしくは愛情欲求が過度に強い	養過度	14.3	17.8	20.0	17.8
	愛着や愛情欲求を示すが弱い(相手をうかがっているような)	養弱	23.2	18.9	15.4	15.2
	愛着や愛情欲求よりも不信や拒否感情の方が優位に示される	養不信	11.3	7.1	11.5	10.1
	愛着や愛情欲求はほとんど示されず、不信や拒否感情が強く示される	養拒否	8.9	3.6	10.8	3.6
	愛着や愛情欲求と不信や拒否感情との間で揺れたり混乱する(アンビバレンツ)	養両価	26.2	14.8	26.2	19.2
	あきらめたような、さめたような様子でいる	養諦め	12.5	7.7	16.9	14.1
	いずれも示さない、或いは無関心	養無関	4.2	4.1	1.5	3.0
	不明(よくつかめない)	養不明	4.2	4.7	2.3	3.0
	養育者がいない	養無	1.2	1.2	1.5	0.0
	その他		3.6	3.6	0.8	4.0
T. 児童精神科領域についての医学的ケア(投薬、診察、医師によるアドバイス)の必要性について						
	受ける必要がない	医不要	29.8	42.0	41.5	33.3
	常時、定期的に医学的ケアを受けている	医常時	14.9	10.7	10.0	15.2
	定期的に経過観察のために医学的ケアを受けている	医定期	10.1	16.0	6.2	11.1
	状態によって受けることがある	医不定	8.3	10.1	3.8	10.1
	受けていないが、適切な医療があれば受けたい	医希望	3.6	1.2	1.5	1.0
	子どもは直接医学的ケアを受けていないが、職員が児童精神科医師の指導助言を受けている	助言	30.4	10.1	31.5	13.1
	子どもは直接医学的ケアを受けていないが、職員が児童精神科医師の指導助言を受けたい	助言求	4.2	1.2	3.8	3.0
	その他		3.0	1.8	3.1	3.0

表7-7 各項目の出現率（Q問題行動）

頻度 4 しじゅう：毎日のように 3 しばしば：週に1～2度くらい 2 とくどき：月に1～2度くらい 1 たまに：何ヶ月に1度くらい			出現率（％）			
			男子		女子	
			被虐待児 168名	非 169名	被虐待児 130名	非 99名
大きな「問題行動」はない			27.4	54.4	46.2	67.7
項目	略語	頻度				
無断外出・無断外泊	無断泊	4	1.2	1.2	2.3	1.0
		3	2.4	0.0	2.3	4.0
		2	3.0	0.6	2.3	2.0
		1	10.1	6.5	11.5	2.0
窓ガラスを割るなど公共物・共有物への器物破壊	公破壊	4	1.8	0.6	0.8	0.0
		3	4.8	0.6	2.3	0.0
		2	9.5	3.6	1.5	2.0
		1	13.1	8.9	1.5	0.0
他の人の私有物への器物破壊	他破壊	4	0.0	1.2	0.0	0.0
		3	3.6	0.6	3.1	0.0
		2	8.3	2.4	3.1	1.0
		1	5.4	1.8	2.3	1.0
大人（スタッフ）への、けがを負わせる暴力	職傷害	4	0.0	0.6	0.0	1.0
		3	0.6	0.0	0.8	0.0
		2	2.4	0.0	0.8	0.0
		1	1.8	1.2	1.5	0.0
大人（スタッフ）への、けがを負わせない程度の暴力	職傷軽	4	6.5	0.6	0.8	1.0
		3	6.0	1.2	3.1	0.0
		2	4.2	1.2	3.1	1.0
		1	3.6	0.0	0.8	3.0
他の子への、けがを負わせる暴力	子傷害	4	0.6	0.6	0.0	0.0
		3	0.6	0.6	1.5	0.0
		2	4.2	1.2	0.0	0.0
		1	4.2	1.2	1.5	0.0
他の子への、けがを負わせない程度の暴力	子傷軽	4	6.5	1.8	0.8	0.0
		3	7.7	4.1	4.6	0.0
		2	14.9	5.9	3.8	4.0
		1	7.7	10.7	5.4	2.0

表 7-8 各項目の出現率 (Q問題行動)

頻度 4 しじゅう：毎日のように 3 しばしば：週に1～2度くらい 2 ときどき：月に1～2度くらい 1 たまに：何ヶ月に1度くらい			出現率 (%)			
			男子		女子	
項目	略語	頻度	被虐待児	非	被虐待児	非
			168名	169名	130名	99名
自傷行為	自傷	4	1.2	1.2	1.5	0.0
		3	0.0	0.6	4.6	0.0
		2	0.0	0.0	3.1	1.0
		1	2.4	0.0	3.1	4.0
自殺企図	自殺	4	0.0	0.6	0.0	0.0
		3	0.0	0.0	1.5	0.0
		2	0.6	0.6	0.0	0.0
		1	0.6	0.0	2.3	1.0
施設外での盗み、万引きなど	万引	4	0.0	0.6	0.0	0.0
		3	1.8	0.6	1.5	0.0
		2	1.8	1.8	3.8	2.0
		1	6.0	3.0	6.2	5.1
施設内での盗み	内盗	4	0.6	0.6	2.3	2.0
		3	5.4	1.8	4.6	0.0
		2	3.0	0.6	6.9	1.0
		1	4.8	4.1	6.2	2.0
喫煙	喫煙	4	0.6	3.6	0.8	0.0
		3	1.8	1.8	0.0	0.0
		2	0.0	1.8	0.8	1.0
		1	3.0	1.2	3.8	1.0
飲酒	飲酒	4	0.0	1.2	0.0	0.0
		3	0.6	0.6	0.8	0.0
		2	0.0	0.6	0.0	0.0
		1	0.0	1.2	0.8	0.0
性的な逸脱行為	性逸脱	4	1.8	1.2	0.8	1.0
		3	0.6	0.0	0.0	0.0
		2	2.4	0.6	4.6	0.0
		1	2.4	1.8	3.8	2.0
その他			11.1	5.9	8.5	7.1

表7a 該当率の高い項目（4群のうちいずれかで、30%以上の該当率が見られた項目）

領域 項目	該当率(%)			
	男子		女子	
	被虐待児 168名	非 169名	被虐待児 130名	非 99名
自分にいろいろ自信がない	52.4	59.2	54.6	52.5
特定の子と親しい友人関係を持ちにくい	53.6	37.3	44.6	45.5
衝動性が目立つ、衝動のコントロールが困難	48.8	25.4	33.1	11.1
注意の集中や持続の困難が目立つ	45.2	27.2	27.7	24.1
わかっているにもかかわらず自己コントロールができず守れない	43.5	26.6	30.0	14.1
不自然なはしゃぎやハイテンションが目立つ	26.2	16.0	42.3	24.2
知的発達はあるのに、それに比して学習能力の低下やバランスの悪さ が目立つ	39.9	39.6	34.6	24.2
顔をうかがう（大人に対して）	39.9	22.5	36.9	25.3
過度の落ち着きのなさ（多動傾向）	39.3	17.8	15.4	5.1
自分のことしか考えない、自分のことで精一杯	38.1	26.0	37.7	35.4
すぐに喧嘩や衝突になる	38.1	13.0	33.1	14.1
過剰に接近しがち（べたべたする、過度なじゃれつきなど）	27.4	11.2	36.9	19.2
攻撃的、他の子を口でやっつけたり、或いは暴力に訴えやすい	36.9	16.0	28.5	10.1
一緒に遊ばず、孤立している	28.6	28.4	35.4	26.3
表情が乏しい、もしくは不活発で硬い表情が目立つ	24.4	26.6	34.6	26.3
特定の大人（スタッフ）と親しい関係を持ちにくい	29.2	32.5	34.6	25.3
いじめられやすい	33.3	22.5	21.5	11.1
ひがみやすい	22.6	11.8	33.1	10.1
どうせ・・・となげやりで自分に無関心（どうでもよい）	32.7	16.6	30.0	13.1
食事中ひどく落ち着かない	32.7	10.1	11.5	2.0
スタッフの注意を引こうとする（逸脱した振る舞いなどによって）	26.8	9.5	32.3	13.1
些細な刺激やきっかけで癇癢やパニックが起きる	31.5	13.6	23.1	7.1
相手の様子にお構いなく身勝手に近づいてくる	19.0	15.4	30.8	19.0
子どもは直接医学的なケアを受けていないが、職員が児童精神科医師の 指導助言を受けている	30.4	10.1	31.5	13.1
攻撃的で怒りやイライラをぶつけてくる、或いはつっぱった態度	30.4	8.9	23.8	10.1
他の子への、けがを負わせない程度の暴力	4	6.5	1.8	0.8
	3	7.7	4.1	4.6
	2	14.9	5.9	3.8
	1	7.7	10.7	5.4

表 8-1 ロジスティック回帰分析の結果（有意水準 5 % で影響がある因子のオッズ比）

		虐待	身体的虐待	ネグレクト	心理的虐待	性的虐待	年齢	虐待発生年齢	性別
A	睡眠								
A 1	寝付 寝付きが悪い	2.77		0.46					
A 2	浅眠 眠りが浅い			2.03	1.86	3.03	1.22		
A 3	早朝覚 早朝覚醒								
A 4	夜泣 夜泣き	3.61		2.59			0.79		
A 5	悪夢 悪夢		2.19			5.37			0.32
A 6	なし 特になし	0.53					0.92		
B	食欲								
B 1	拒食 拒食								
B 2	過食 過食		4.18		0.36				
B 3	貪り食 貪り食い	12.00							2.76
B 4	偏食 偏食							0.92	
B 5	過味付 過度の味付け							0.85	
B 6	盗食 盗み食い	9646.64							
B 7	異食 異食						0.44		
B 8	食むら 食欲にむらがある								
B 9	なし 特になし	0.50					1.08		
C	排泄								
C 1	頻尿 頻尿								
C 2	遺尿 遺尿					9.90	0.58		
C 3	夜尿 夜尿	2.80					0.61		
C 4	他所排 トイレの他所で排泄		4.38				0.72		
C 5	便秘 便秘					4.62			0.33
C 6	下痢 下痢							1.26	
C 7	なし 特になし						1.39		
D	身体感覚								
D 1	痛覚敏 痛みに敏感	2.78	2.02						
D 2	痛覚鈍 痛みに鈍感		2.63			5.37			
D 3	温覚敏 暑さ寒さに敏感								
D 4	温覚鈍 暑さ寒さに鈍感		1.88						3.91
D 5	敏覚鈍 敏感さと鈍感が混在								
D 6	なし 特になし		0.38						
E	身体運動								
E 1	易転倒 転びやすい等				0.31		0.85		
E 2	不器用 微細な運動機能のおくれ						0.86		
E 3	遅発達 運動発達の遅れ						0.79		
E 4	なし 特になし						1.11		
F	身体成長								
F 1	低身長 低身長							0.91	
F 2	なし 特になし		0.54						
G	情動の傾向								
G 1	抑鬱 抑鬱					4.50	1.23		0.52
G 2	不活発 不活発		0.58		2.13				
G 3	悲哀 悲哀								0.28
G 4	不安 不安		1.87			2.78			0.47
G 5	過敏 過敏	2.19							
G 6	多動 多動、落ち着きのなさ		2.28				0.80		3.57
G 7	注意 注意持続困難		2.03			4.42	0.83		2.41
G 8	衝動 衝動的	2.09						0.93	2.35
G 9	不自然 不自然なはしゃぎ	2.15							0.59
G 10	浮沈 浮き沈み	1.87					1.29		0.43
G 11	癩癩 癩癩		2.98			11.53	0.80		1.97
G 12	キレル キレル		3.30			9.64			2.62
G 13	意解離 意識の解離				3.40				

表 8-2 ロジスティック回帰分析の結果（有意水準 5 % で影響がある因子のオッズ比）

		虐待	身体的虐待	ネグレクト	心理的虐待	性的虐待	年齢	虐待発生年齢	性別
G15 拘り	拘り								
G16 なし	特になし		0.18		0.17				
H	大人に対する態度								
H1 無関心	無関心								
H2 拒否	拒否								
H3 攻撃	攻撃		2.40			3.01		0.92	
H4 凍り付	凍り付き		2.66					0.90	0.31
H5 表面	表面的				1.95		1.10		
H6 オドオド	オドオド						1.30	0.92	
H7 難接近	うまく近づけない								
H8 過接近	過度に接近、ベタベタ		2.01	1.75			0.87		0.52
H9 不定	不安定な距離	2.67							
H10 過依存	過依存、見捨てられ不安					3.36		0.86	0.32
H11 両極	両極端	3.35							0.20
H12 いい子	いい子に振る舞う	2.62				2.45		1.08	
H13 身勝手	身勝手		1.71				0.89		0.62
H14 なし	特になし	0.41							
I	大人に対して目立つ行動								
I1 気引く	気を引く		1.89					0.89	
I2 操作	操作的		2.02					0.94	
I3 表裏	表裏のある態度							0.90	
I4 反発	反発、攻撃		2.72			3.76		0.94	
I5 逆撫	逆撫で				2.00			0.92	1.87
I6 独占	独り占め		2.41	2.22		8.85	0.81		0.58
I7 顔窺	顔色を窺う		2.05	1.89					
I8 両価	両価的、依存と拒否	2.48							
I9 過好意	過剰な好意、サービス					3.39		0.91	
I10 なし	特になし	0.40	0.42						
J	子どもに対する目立った行動								
J1 孤立	孤立					2.72			
J2 喧嘩	すぐに喧嘩をする		3.86			2.89	0.84		
J3 苛め	苛める							0.85	
J4 被苛め	苛められ			1.70				0.93	1.91
J5 妬み	妬み、嫉妬、恨む		4.34			5.18			
J6 僻み	僻み	3.05							
J7 子攻撃	攻撃的、他の子に		2.10	0.54				0.89	
J8 支配	支配的							0.90	
J9 被支配	支配され、いわれるがまま								
J10 張合う	張り合う							0.87	0.52
J11 避競争	競争を避ける、尻込み						1.15		
J12 子独占	独占欲、物や人		4.33			7.88	0.85		0.54
J13 無物執	物への執着薄い						0.78		
J14 依存	依存的、他の子に							1.11	
J15 物で釣	物で関心を釣る		2.32						
J16 子逆撫	逆撫で		2.54				0.87		
J17 子勝手	身勝手、傍若無人							0.95	
J18 喜他叱	他の子が叱られるのを喜ぶ	18.74							
J19 告口	告げ口							0.88	
J20 性的遊	性的遊び		20.37						0.33
J21 なし	特になし							1.19	
K	社会的なルールや約束								
K1 守れず	守れず、コントロールできない		1.65					0.93	1.99
K2 反抗	反抗、反発から破る		2.07					0.91	

表 8-3 ロジスティック回帰分析の結果（有意水準 5 % で影響がある因子のオッズ比）

		虐待	身体的虐待	ネグレクト	心理的虐待	性的虐待	年齢	虐待発生年齢	性別
K 3 忘	忘れる、注意されても							0.91	3.03
K 4a 嘘逃げ	責めを避けようとして嘘		2.35					0.91	
K 4b 嘘気引	気を引く嘘		5.35				1.22		
K 4c 嘘空想	空想の混じった嘘		5.54						
K 4d 嘘他	その他、嘘								
K 5 強迫	強迫的にこだわる								
K 6 無頓	無頓着						0.88		1.78
K 7 なし	特になし		0.32					1.06	0.49
L	特定の大人との関係								
L 1 職持続	持続的で安定				0.64				
L 2 職不定	一定しない			2.14					
L 3 職難係	関係を持ち難い								
M	特定の子どもとの関係								
M 1 友持続	持続的で安定							1.08	
M 2 友不定	一定しない			1.85	0.50				
M 3 友難係	関係を持ち難い							0.94	
N	自分自身に対する構え								
N 1 自無関	自分に無関心、投げやり	2.39				2.62			
N 2 外見	自分の外見や人目に無関心	2.24							
N 3 健康	健康に無関心							0.90	
N 4 未来	未来への関心、希望なし	2.01				8.53			
N 5 棄評価	好かれることを放棄	3.40							
N 6 自信無	自信がない					4.46	1.19		
N 7 自のみ	自分のことで精一杯							0.94	
N 8 なし	特になし								
O	認知能力と学習能力								
O 1 普普	知的に普通で、相応の学力			0.47	2.28				
O 2 普低	知的に普通で、学力が低い								1.67
O 3 遅普	知的に遅れ、相応の学力				0.42				
O 4 遅低	遅れ、それ以上の学力の低さ		1.99						
O 5 知遅	中度以上の知的遅れ								0.00
P	生活上の様子								
P 1 食多動	食事中落ち着かない						0.78	0.87	3.22
P 2 食タラダ	だらだら食べる					4.58	0.71		
P 3 膝乗	膝に乗れない				2.92			0.86	
P 4 入浴	入浴中背中を流させない				2.48		0.84		
P 5 下着	下着を取り替えない							0.84	
P 6 生理	生理の始末ができない								0.00
P 7 WC怖	トイレが怖い		2.24				0.72		
P 8 不拭	トイレでお尻を拭かない						0.63		
P 9 水怖	水が怖くて顔を洗えない								
P 10 時計	時計が読めない						0.64		
P 11 空想	空想に入りきっている姿								
P 12 なし	特になし	0.48					1.32		0.57
Q	いわゆる「問題行動」								
Q 1 無断泊	無断外出、無断外泊	2.75				2.61	1.14		
Q 2 公破壊	公共物への器物破壊		2.81			19.24			13.42
Q 3 他破壊	他の子の物への器物破壊		2.93			4.77			2.69
Q 4 職傷害	職員への怪我を負わせる暴力		5.16			9.82			
Q 5 職傷軽	職員への怪我に至らない暴力		3.49	2.01	9.78				2.67
Q 6 子傷害	他の子を怪我させる暴力		3.69						2.96
Q 7 子傷軽	他の子に怪我させない暴力		2.65			3.45			3.45
Q 8 自傷	自傷行為				3.18	4.36			0.28

表 8-4 ロジスティック回帰分析の結果（有意水準 5 % で影響がある因子のオッズ比）

		虐待	身体的虐待	ネグレクト	心理的虐待	性的虐待	年齢	虐待発生年齢	性別
Q 9 自殺	自殺企図					9.62			
Q 10 万引	施設外での盗み万引き		2.04			3.80			
Q 11 内盗	施設内での盗み							0.87	
Q 12 喫煙	喫煙						1.31		
Q 13 飲酒	飲酒						1.83		
Q 14 性逸脱	性的な逸脱行為							0.88	0.55
Q 16 なし	特になし		0.30						
R	主たる養育者に示す愛着								
R 1 養過度	愛情欲求が過度に強い						0.91		
R 2 養自然	自然な愛着				0.13				
R 3 養弱	弱い、窺っているような								
R 4 養不信	不信、拒否感が優位		1.89						
R 5 養拒否	不信、拒否感のみ強い		7.81		3.00			1.23	
R 6 養両価	両価的、揺れたり混乱	2.41					1.15		
R 7 養諦め	あきらめ、さめたような				1.98				0.58
R 8 養無関	無関心								
R 9 養不明	不明								
R 10 養無	いない								
S	虐待養育者に示す愛着								
S 1 虐過度	愛情欲求が過度に強い			2.16					
S 2 虐自然	自然な愛着				0.14				
S 3 虐弱	弱い、窺っているような							0.85	
S 4 虐不信	不信、拒否感が優位								
S 5 虐拒否	不信、拒否感のみ強い		3.17		2.23			1.19	
S 6 虐両価	両価的、揺れたり混乱						1.13		
S 7 虐諦め	あきらめ、さめたような								
S 8 虐無関	無関心								
S 9 虐不明	不明		0.17						
T	精神科領域の医学的ケア								
T 1 医常時	常時								
T 2 医定期	定期的に経過観察				0.18				
T 3 医不定	状態によって受ける。不定期	0.51							
T 4 医希望	受けたい		6.84	0.00					
T 5 助言	職員が指導助言を受けている	2.29	1.82						
T 6 助言希	職員が指導を受けたい		3.69			5.20			
T 7 医不要	必要がない		0.41	1.74					

表9-1 入所6ヶ月以内の状態像—各症状の出現に影響する因子—

(ロジスティック回帰分析で、虐待有無、年齢、発生年齢、性別が関与すると推定された症状)

(): 負の影響

症 状	虐待有無		身 体	ネ グ	心 理	性 的	入所年齢		発生年齢		性 別		
	虐 待	非					年 少	年 長	早 発	晩 発	男	女	
A.睡眠	寝付夜泣	なし	悪夢(寝付) 浅眠悪夢		浅眠 浅悪夢		夜泣なし	浅眠				悪夢	
B.食欲	貪り食盗食	なし	過食		(過食)		異食	なし	偏食 過味付			貪り食	
C.排泄	夜尿		他処排			遺尿 便秘	遺尿 夜尿 他処排	なし		下痢		便秘	
D.身体感覚	痛覚敏		痛覚敏 痛覚鈍 温覚鈍 (なし)			痛覚鈍						温覚鈍	
E.身体運動					(易転倒)		易転倒 不器用 遅発達	なし					
F.成長			(なし)						低身長				
G.情動傾向	過敏衝動 不自然 浮沈		(不活発) 不安 多動 注意 癇癩 キレル (なし)		不活発 意解離 感解離 (なし)	抑鬱 不安 注意 癇癩 キレル 意解離	多動 注意 癇癩	抑鬱 浮沈	衝動			多動 注意 衝動 癇癩 キレル	抑鬱 悲哀 不安 不自然 浮沈
H.対大人態度	不定両極 いい子	なし	攻撃凍り付 過接近 勝手	過接近	表面	攻撃過依存 いい子	過接近 勝手	表面 オドオド	攻撃 凍り付 オドオド 過依存	いい子		凍り付 過接近 過依存 両極 勝手	
I.対大人行動	両価	なし	気引く 操作 反発 独占 顔窺 (なし)	独占 顔窺	逆撫	反発 独占 過好意	独占		気引く 操作 裏表 反発 逆撫 過好意			逆撫 独占	

表 9-2 入所 6 ヶ月以内の状態像—各症状の出現に影響する因子—

(ロジスティック回帰分析で、虐待有無、年齢、発生年齢、性別が関与すると推定された症状)

(): 負の影響

症 状	虐待有無		身 体	ネ グ	心 理	性 的	入所年齢		発生年齢		性 別	
	虐 待	非					年 少	年 長	早 発	晩 発	男	女
J. 対子供	僻み 喜他叱		喧嘩 妬み 子攻撃 子独占 物で釣 子逆撫 性的遊	被苛め (子攻撃)		孤 立 喧嘩 妬み 子独占	喧嘩 子独占 無物執 子逆撫	避競争	苛め 被苛め 子攻撃 支 配 張合う 子勝手 告 口	依 存 な し	被苛め 子独占 性的遊 張合う	
K. 社 会 ルール			守れず 反 抗 嘘逃げ 嘘気引 嘘空想 (なし)				無 頓	嘘気引	守れず 反 抗 忘 嘘逃げ	な し	守れず 忘 無 頓	な し
L. 特 定 大 人				職不定 (職持続)								
M. 特 定 子				友不定 (友不定)					友難係	友持続		
N. 自 己	自無関 外 見 未 来 棄評価					自無関 未 来 自信無		自信無	健 康 自のみ			
O. 学 力			遅 低 (普普)	普 普 (遅普)							普 低	知 遅
P. 生 活		な し	WC 恐		膝 乗 入 浴	食ダラダラ 食ダラダラ 入 浴 WC 怖 不 拭 時 計	食多動 な し	食多動 膝 乗 下 着			食多動	生 理 な し
Q. 問 題 行 動	無断泊		公破壊 他破壊 職傷害 職傷軽 子傷害 子傷軽 万引き (なし)	職傷軽	自 傷	無断泊 公破壊 他破壊 職傷害 職傷軽 子傷軽 自 傷 自 殺 万 引		無断泊 喫 煙 飲 酒	内 盗 性逸脱		公破壊 他破壊 職傷軽 子傷害 子傷軽	自 傷 な し
R. 対養育	養両価		養不信 養拒否		(養自然) 養拒否 養諦め		養過度	養両価		養拒否		養諦め
S. 対虐待			虐拒否 (虐不明)	虐過度	(虐自然) 虐拒否			虐両価	虐 弱	虐拒否		
T. 医 療	助 言	医不定	医希望 助 言 助言求 (医不要)	(医希望) 医不要	(医定期)	助言求						

表10 退所の理由（重複回答）

	被虐待男子	非虐待男子	被虐待女子	非虐待女子
症状の軽減や改善が得られて	48%	53%	46%	55%
児の発達や成長を見届けて	38%	44%	34%	31%
家族の変容や成長が得られて	27%	23%	22%	20%
試行錯誤の用意や進路が整い	19%	38%	29%	36%
児にふさわしい居場所（他施設など）が整い	40%	27%	37%	12%
治療半ばであるが、児及び家族の希望に基づき	12%	14%	11%	13%
施設治療の力量の限界につき、他機関への紹介	3%	5%	5%	1%
治療の膠着や、展望が崩れて中断	3%	2%	0%	1%
児の激しい逸脱行為（暴力、性的逸脱など）のため中断	7%	4%	4%	4%
家族の激しい非協力的ないし拒絶のため中断	3%	0%	1%	0%
転居や年齢超過などの都合で中断	6%	1%	5%	3%
児側が治療にのれなくなり中断	2%	9%	4%	4%
家族側が治療にのれなくなり中断	2%	1%	0%	3%
通所措置に変更	3%	2%	6%	3%
その他	3%	4%	9%	5%

表11 退所後の援助（重複回答）

	被虐待男子	非虐待男子	被虐待女子	非虐待女子
施設で援助 通所による	4%	6%	14%	11%
施設で援助 通所によらない	38%	34%	43%	28%
児童相談所で援助	42%	19%	27%	23%
医療機関で援助 入院による	0%	1%	1%	0%
医療機関で援助 外来による	4%	10%	6%	19%
他の相談機関で援助	6%	4%	8%	4%
その他	16%	10%	15%	20%
退所後の援助 なし	20%	30%	18%	21%

表12-1 入所時の状態像と退所時の状態像

*は5%、**は1%水準で差が有意な対

		被虐待児男子		非被虐待児男子		被虐待児女子		非被虐待児女子	
		入所時	退所時	入所時	退所時	入所時	退所時	入所時	退所時
A	睡眠								
A 1	寝付 寝付きが悪い	0.29	**0.11	0.23	**0.10	0.24	0.14	0.12	0.05
A 2	浅眠 眠りが浅い	0.15	0.07	0.12	0.09	0.26	*0.15	0.16	0.08
A 3	早朝覚 早朝覚醒	0.09	**0.00	0.04	0.02	0.05	*0.00	0.01	0.01
A 4	夜泣 夜泣き	0.05	*0.00	0.01	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00
A 5	悪夢 悪夢	0.03	0.02	0.01	0.01	0.11	*0.04	0.04	0.04
A 6	なし 特になし	0.57	**0.78	0.67	**0.81	0.60	*0.71	0.71	*0.85
B	食欲								
B 1	拒食 拒食	0.08	*0.02	0.07	**0.01	0.08	0.03	0.07	0.04
B 2	過食 過食	0.13	0.10	0.05	0.03	0.04	0.06	0.09	0.08
B 3	貪り食 貪り食い	0.10	*0.01	0.01	0.04	0.03	0.03	0.00	0.01
B 4	偏食 偏食	0.13	*0.05	0.07	0.05	0.10	0.05	0.16	**0.01
B 5	過味付 過度の味付け	0.12	0.08	0.02	0.01	0.04	0.01	0.00	0.00
B 6	盗食 盗み食い	0.06	*0.01	0.00	0.01	0.05	0.00	0.00	0.00
B 7	異食 異食	0.00	0.00	0.01	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00
B 8	食むら 食欲にむらがある	0.17	0.09	0.06	0.05	0.11	0.15	0.08	0.04
B 9	なし 特になし	0.49	**0.67	0.74	*0.81	0.69	0.69	0.67	*0.83
C	排泄								
C 1	頻尿 頻尿	0.03	0.00	0.02	0.02	0.06	*0.01	0.04	0.01
C 2	遺尿 遺尿	0.08	0.02	0.04	*0.00	0.08	*0.00	0.03	0.01
C 3	夜尿 夜尿	0.12	*0.05	0.04	*0.00	0.16	**0.03	0.01	0.02
C 4	他所排 トイレの他所で排泄	0.07	*0.00	0.02	0.02	0.05	0.01	0.00	0.01
C 5	便秘 便秘	0.00	0.00	0.02	0.02	0.06	0.04	0.05	0.03
C 6	下痢 下痢	0.00	0.01	0.04	*0.00	0.00	0.00	0.03	0.01
C 7	なし 特になし	0.77	**0.91	0.78	**0.91	0.69	**0.90	0.81	0.91
D	身体感覚								
D 1	痛覚敏 痛みに敏感	0.12	0.10	0.05	0.06	0.18	*0.07	0.04	0.05
D 2	痛覚鈍 痛みに鈍感	0.06	0.06	0.04	0.02	0.06	*0.01	0.00	0.00
D 3	温覚敏 暑さ寒さに敏感	0.01	0.06	0.03	0.02	0.03	0.04	0.03	0.00
D 4	温覚鈍 暑さ寒さに鈍感	0.21	0.14	0.09	**0.03	0.05	0.03	0.03	0.00
D 5	敏覚鈍 敏感さと鈍感が混在	0.03	0.02	0.05	0.02	0.05	0.01	0.05	0.03
D 6	なし 特になし	0.63	0.70	0.73	**0.87	0.66	**0.85	0.81	0.91
E	身体運動								
E 1	易転倒 転びやすい等	0.10	0.06	0.06	0.06	0.03	0.03	0.03	0.03
E 2	不器用 微細な運動機能のおくれ	0.45	0.11	0.12	0.13	0.09	0.09	0.05	0.07
E 3	遅発達 運動発達の遅れ	0.08	*0.02	0.04	0.02	0.00	0.00	0.04	0.01
E 4	なし 特になし	0.80	0.86	0.79	0.82	0.88	0.87	0.88	0.91
F	身体成長								
F 1	低身長 低身長	0.33	**0.19	0.12	**0.04	0.18	0.10	0.11	0.07
F 2	なし 特になし	0.59	**0.75	0.78	**0.91	0.75	*0.89	0.75	**0.88
G	情動の傾向								
G 1	抑鬱 抑鬱	0.10	0.06	0.15	**0.06	0.26	*0.13	0.23	*0.11
G 2	不活発 不活発	0.20	**0.06	0.25	**0.13	0.33	**0.14	0.29	0.20
G 3	悲哀 悲哀	0.07	0.02	0.06	0.02	0.19	0.10	0.21	**0.07
G 4	不安 不安	0.13	**0.03	0.10	*0.03	0.20	*0.09	0.13	*0.04
G 5	過敏 過敏	0.11	*0.03	0.09	0.04	0.16	0.10	0.05	0.01
G 6	多動 多動、落ち着きのなさ	0.40	**0.08	0.17	**0.09	0.11	0.08	0.03	0.01
G 7	注意 注意持続困難	0.46	**0.28	0.27	*0.20	0.21	0.11	0.15	*0.05
G 8	衝動 衝動的	0.54	**0.33	0.28	*0.20	0.29	0.24	0.13	0.05
G 9	不自然 不自然なはしゃぎ	0.25	0.27	0.17	0.13	0.45	*0.31	0.27	0.17

表12-2 入所時の状態像と退所時の状態像

*は5%、**は1%水準で差が有意な対

		被虐待児男子		非虐待児男子		被虐待児女子		非虐待児女子		
		入所時	退所時	入所時	退所時	入所時	退所時	入所時	退所時	
G10	浮沈	浮き沈み	0.11	0.04	0.12	0.13	0.36	0.28	0.33	**0.17
G11	癩癩	癩癩	0.33	*0.17	0.15	0.13	0.16	0.12	0.07	0.05
G12	キレル	キレル	0.17	0.09	0.08	0.09	0.05	0.05	0.00	*0.04
G13	意解離	意識の解離	0.07	0.04	0.02	0.04	0.09	0.04	0.04	0.01
G14	感解離	感情の解離	0.04	0.03	0.04	0.02	0.10	0.03	0.03	0.01
G15	拘り	拘り	0.19	0.13	0.23	0.23	0.10	0.10	0.17	0.17
G16	なし	特になし	0.08	**0.27	0.21	*0.31	0.07	**0.36	0.28	0.37
H		大人に対する態度								
H1	無関心	無関心	0.07	0.02	0.13	0.08	0.06	0.03	0.04	0.03
H2	拒否	拒否	0.08	*0.02	0.10	0.05	0.10	0.09	0.05	0.04
H3	攻撃	攻撃	0.34	0.21	0.11	0.11	0.19	0.20	0.11	0.04
H4	凍り付	凍り付き	0.06	0.02	0.02	0.02	0.09	0.03	0.03	0.00
H5	表面	表面的	0.23	**0.03	0.23	**0.10	0.24	**0.06	0.20	0.11
H6	オドオド	オドオド	0.18	**0.03	0.16	*0.06	0.18	**0.05	0.13	0.07
H7	難接近	うまく近づけない	0.28	*0.14	0.19	0.13	0.19	0.15	0.21	0.17
H8	過接近	過度に接近、ベタベタ	0.25	0.17	0.10	*0.05	0.30	*0.16	0.17	0.11
H9	不定	不安定な距離	0.17	0.21	0.09	0.11	0.26	0.25	0.09	0.15
H10	過依存	過依存、見捨てられ不安	0.11	*0.03	0.02	0.02	0.16	0.14	0.04	0.04
H11	両極	両極端	0.03	0.08	0.02	0.02	0.11	0.15	0.03	0.03
H12	いい子	いい子に振る舞う	0.22	*0.12	0.12	0.07	0.24	*0.11	0.19	*0.05
H13	身勝手	身勝手	0.18	0.11	0.16	*0.09	0.30	*0.15	0.16	0.08
H14	なし	特になし	0.08	**0.34	0.13	**0.40	0.06	**0.28	0.13	**0.23
I		大人に対して目立つ行動								
I1	気引く	気を引く	0.28	**0.11	0.08	0.07	0.28	*0.16	0.15	0.11
I2	操作	操作的	0.18	0.11	0.06	0.08	0.18	0.20	0.13	0.11
I3	表裏	表裏のある態度	0.15	0.12	0.07	0.06	0.23	*0.14	0.11	0.04
I4	反発	反発、攻撃	0.24	**0.15	0.12	0.13	0.19	0.18	0.08	0.05
I5	逆撫	逆撫で	0.22	0.14	0.16	**0.07	0.11	0.19	0.03	0.05
I6	独占	独り占め	0.16	*0.06	0.04	0.02	0.23	*0.11	0.08	0.11
I7	顔窺	顔を窺う	0.41	**0.22	0.21	*0.11	0.38	**0.18	0.24	0.20
I8	両価	両価的、依存と拒否	0.34	0.25	0.12	0.15	0.26	0.29	0.17	0.19
I9	過好意	過剰な好意、サービス	0.11	0.08	0.08	0.05	0.16	0.14	0.09	0.04
I10	なし	特になし	0.16	**0.40	0.38	**0.51	0.15	**0.36	0.39	0.47
J		子どもに対する目立った行動								
J1	孤立	孤立	0.31	**0.13	0.30	**0.11	0.35	*0.21	0.27	0.23
J2	喧嘩	すぐに喧嘩をする	0.37	**0.19	0.13	0.11	0.24	0.19	0.16	0.07
J3	苛め	苛める	0.16	0.11	0.07	0.10	0.13	**0.04	0.04	0.00
J4	被苛め	苛められ	0.32	**0.10	0.22	*0.13	0.21	*0.11	0.12	*0.04
J5	妬み	妬み、嫉妬、恨む	0.17	0.12	0.10	0.07	0.19	0.16	0.09	0.08
J6	僻み	僻み	0.18	0.14	0.12	0.10	0.28	*0.16	0.16	0.15
J7	子攻撃	攻撃的、他の子に	0.43	*0.27	0.18	0.16	0.24	0.16	0.08	0.05
J8	支配	支配的	0.22	0.16	0.08	0.12	0.11	0.16	0.09	0.11
J9	被支配	支配され、いわれるがまま	0.17	**0.05	0.15	*0.07	0.17	0.11	0.21	**0.08
J10	張合う	張り合う	0.15	0.11	0.05	0.07	0.21	0.14	0.07	0.03
J11	避競争	競争を避ける、尻込み	0.10	0.06	0.18	*0.08	0.15	0.10	0.21	*0.12
J12	独占	独占欲、物や人	0.12	0.06	0.04	0.02	0.20	0.11	0.07	0.05
J13	無物執	物への執着薄い	0.02	0.04	0.03	0.02	0.04	0.05	0.00	0.00
J14	依存	依存的、他の子に	0.03	0.00	0.11	0.05	0.11	0.06	0.09	*0.01
J15	物で釣	物で関心を釣る	0.10	0.10	0.05	0.05	0.07	0.07	0.03	0.04
J16	子逆撫	逆撫で	0.19	0.15	0.12	0.09	0.18	0.13	0.05	0.07

表12-3 入所時の状態像と退所時の状態像

*は5%、**は1%水準で差が有意な対

		被虐待児男子		非虐待児男子		被虐待児女子		非虐待児女子	
		入所時	退所時	入所時	退所時	入所時	退所時	入所時	退所時
J 17	子勝手 身勝手、傍若無人	0.18	0.18	0.18	0.14	0.25	* 0.15	0.20	0.13
J 18	喜他叱 他の子が叱られるのを喜ぶ	0.05	0.03	0.01	0.03	0.01	0.01	0.00	0.00
J 19	告口 告げ口	0.14	0.07	0.06	0.04	0.09	0.10	0.08	0.00
J 20	性的遊 性的遊び	0.03	0.03	0.01	0.02	0.05	0.03	0.00	0.03
J 21	なし 特になし	0.07	** 0.30	0.25	0.29	0.09	** 0.27	0.12	** 0.29
K	社会的なルールや約束								
K 1	守れず 守れず、コントロールできない	0.50	** 0.30	0.27	0.23	0.29	0.30	0.17	0.17
K 2	反抗 反抗、反発から破る	0.14	0.18	0.08	0.11	0.14	0.10	0.07	0.05
K 3	忘 忘れる、注意されても	0.32	** 0.17	0.20	* 0.09	0.18	** 0.08	0.04	0.09
K 4a	嘘逃げ 責めを避けようとして嘘	0.23	** 0.11	0.08	0.08	0.14	0.13	0.01	0.03
K 4b	嘘気引 気を引く嘘	0.05	0.02	0.02	0.01	0.05	* 0.00	0.04	0.04
K 4c	嘘空想 空想の混じった嘘	0.05	0.02	0.01	0.00	0.04	0.00	0.01	0.01
K 4d	嘘他 その他、嘘	0.01	0.00	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00
K 5	強迫 強迫的にこだわる	0.08	0.03	0.09	* 0.02	0.01	0.00	0.11	0.04
K 6	無頓 無頓着	0.17	0.12	0.14	0.09	0.14	0.06	0.05	0.07
K 7	なし 特になし	0.25	** 0.44	0.44	0.52	0.44	0.50	0.55	0.60
L	特定の大人との関係								
L 1	職持続 持続的で安定	0.48	** 0.70	0.53	** 0.68	0.50	* 0.69	0.60	0.68
L 2	職不定 一定しない	0.12	0.08	0.05	0.05	0.14	0.06	0.04	0.11
L 3	職難係 関係を持ち難い	0.34	** 0.19	0.36	* 0.24	0.32	* 0.19	0.27	0.16
M	特定の子ともとの関係								
M 1	友持続 持続的で安定	0.24	** 0.46	0.36	** 0.63	0.36	* 0.50	0.40	0.47
M 2	友不定 一定しない	0.13	0.10	0.17	0.09	0.18	0.16	0.15	0.16
M 3	友難係 関係を持ち難い	0.58	** 0.37	0.41	** 0.23	0.41	0.34	0.44	0.36
N	自分自身に対する構え								
N 1	自無関 自分に無関心、投げやり	0.30	** 0.17	0.17	0.12	0.31	** 0.15	0.13	0.09
N 2	外見 自分の外見や目に無関心	0.24	0.16	0.12	0.07	0.23	** 0.07	0.05	0.01
N 3	健康 健康に無関心	0.13	* 0.05	0.06	0.03	0.14	0.06	0.03	0.01
N 4	未来 未来への関心、希望なし	0.22	0.14	0.09	0.09	0.26	** 0.09	0.12	0.05
N 5	棄評価 好かれることを放棄	0.18	* 0.08	0.09	0.06	0.19	0.12	0.05	0.07
N 6	自信無 自信がない	0.60	0.50	0.59	0.51	0.52	0.51	0.55	0.49
N 7	自のみ 自分のことで精一杯	0.40	0.27	0.30	0.25	0.36	0.32	0.44	0.35
N 8	なし 特になし	0.09	* 0.21	0.14	** 0.26	0.11	** 0.26	0.20	0.24
O	認知能力と学習能力								
O 1	普普 知的に普通で、相応の学力	0.32	0.29	0.34	0.35	0.43	0.40	0.45	0.45
O 2	普低 知的に普通で、学力が低い	0.43	0.47	0.41	0.40	0.31	0.30	0.23	0.29
O 3	遅普 知的に遅れ、相応の学力	0.10	0.11	0.14	0.16	0.15	0.18	0.17	0.20
O 4	遅低 遅れ、それ以上の学力の低さ	0.16	0.11	0.09	0.09	0.11	0.10	0.13	* 0.03
O 5	知遅 中度以上の知的遅れ	0.00	0.01	0.00	0.00	0.04	0.01	0.03	0.03
P	生活上の様子								
P 1	食多動 食事中落ち着かない	0.31	** 0.11	0.11	* 0.03	0.08	0.04	0.00	0.00
P 2	食ダラダ だらだら食べる	0.17	0.10	0.08	0.05	0.15	* 0.05	0.07	0.07
P 3	膝乗 膝に乗れない	0.02	0.01	0.01	0.00	0.05	* 0.00	0.01	0.00
P 4	入浴 入浴中背中を流させない	0.02	0.01	0.04	0.01	0.07	* 0.01	0.01	0.00
P 5	下着 下着を取り替えない	0.08	* 0.01	0.02	0.01	0.06	0.03	0.00	0.03
P 6	生理 生理の始末ができない	0.00	0.01	0.00	0.00	0.08	* 0.01	0.07	* 0.00
P 7	WC怖 トイレが怖い	0.03	0.02	0.03	0.01	0.06	* 0.01	0.00	0.00
P 8	不拭 トイレでお尻を拭かない	0.04	0.03	0.04	0.00	0.04	0.01	0.00	0.00
P 9	水怖 水が怖くて顔を洗えない	0.01	0.01	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
P 10	時計 時計が読めない	0.09	0.05	0.06	0.03	0.06	0.04	0.04	0.01

表12-4 入所時の状態像と退所時の状態像

*は5%、**は1%水準で差が有意な対

		被虐待児男子		非虐待児男子		被虐待児女子		非虐待児女子	
		入所時	退所時	入所時	退所時	入所時	退所時	入所時	退所時
P11	空想 空想に入りきっている姿	0.02	0.04	0.05	0.02	0.05	0.06	0.07	0.01
P12	なし 特になし	0.39	**0.70	0.65	*0.75	0.61	**0.80	0.72	0.87
Q	いわゆる「問題行動」								
Q1	無断泊 無断外出、無断外泊	0.23	0.20	0.16	0.18	0.34	0.35	0.25	0.23
Q2	公破壊 公共物への器物破壊	0.62	*0.37	0.22	0.20	0.16	0.19	0.03	0.00
Q3	他破壊 他の子の物への器物破壊	0.29	0.21	0.16	0.14	0.13	0.08	0.04	0.01
Q4	職傷害 職員への怪我を負わせる暴力	0.08	0.10	0.05	0.08	0.03	0.04	0.05	0.00
Q5	職傷軽 職員への怪我に至らない暴力	0.53	**0.24	0.09	0.12	0.15	0.14	0.09	0.04
Q6	子傷害 他の子を怪我させる暴力	0.18	0.14	0.10	0.10	0.06	0.05	0.00	0.00
Q7	子傷軽 他の子に怪我させない暴力	0.91	0.68	0.49	0.45	0.25	0.16	0.12	0.05
Q8	自傷 自傷行為	0.06	0.02	0.09	0.03	0.26	0.20	0.05	0.12
Q9	自殺 自殺企図	0.02	0.01	0.05	0.01	0.07	0.05	0.01	0.03
Q10	万引 施設外での盗み万引き	0.17	0.08	0.12	0.02	0.21	*0.05	0.12	0.08
Q11	内盗 施設内での盗み	0.34	0.22	0.13	0.07	0.39	0.18	0.05	0.07
Q12	喫煙 喫煙	0.16	0.21	0.26	0.28	0.09	*0.32	0.08	0.21
Q13	飲酒 飲酒	0.03	0.02	0.07	0.10	0.05	0.13	0.00	0.00
Q14	性逸脱 性的な逸脱行為	0.22	0.17	0.08	0.06	0.13	0.15	0.08	0.17
Q16	なし 特になし	0.22	**0.39	0.50	0.51	0.53	**0.56	0.64	0.64
R	主たる養育者に示す愛着								
R1	養過度 愛情欲求が過度に強い	0.17	**0.08	0.18	*0.11	0.25	*0.10	0.09	0.11
R2	養自然 自然な愛着	0.13	0.09	0.26	0.30	0.19	0.22	0.21	0.27
R3	養弱 弱い、窺っているような	0.18	0.25	0.19	**0.08	0.13	0.16	0.16	0.17
R4	養不信 不信、拒否感が優位	0.08	0.10	0.07	0.05	0.14	0.10	0.09	0.11
R5	養拒否 不信、拒否感のみ強い	0.09	0.03	0.05	0.02	0.11	0.11	0.04	0.01
R6	養両価 両価的、揺れたり混乱	0.34	0.24	0.16	*0.27	0.30	0.32	0.24	0.20
R7	養諦め あきらめ、さめたような	0.13	0.12	0.08	0.11	0.18	0.11	0.15	0.11
R8	養無関 無関心	0.04	0.04	0.03	0.03	0.00	0.01	0.03	0.04
R9	養不明 不明	0.01	0.01	0.06	0.01	0.01	0.00	0.05	0.04
R10	養無 いない	0.02	0.04	0.02	0.02	0.03	0.03	0.00	0.00
S	虐待養育者に示す愛着								
S1	虐過度 愛情欲求が過度に強い	0.12	0.10			0.19	0.09		
S2	虐自然 自然な愛着	0.11	0.09			0.06	*0.15		
S3	虐弱 弱い、窺っているような	0.17	0.20			0.13	0.14		
S4	虐不信 不信、拒否感が優位	0.14	0.15			0.15	0.11		
S5	虐拒否 不信、拒否感のみ強い	0.09	0.07			0.24	0.16		
S6	虐両価 両価的、揺れたり混乱	0.30	0.24			0.26	0.31		
S7	虐諦め あきらめ、さめたような	0.12	0.15			0.14	0.11		
S8	虐無関 無関心	0.04	0.06			0.03	0.04		
S9	虐不明 不明	0.02	0.03			0.03	0.00		
T	精神科領域の医学的ケア								
T1	医常時 常時	0.13	0.10	0.10	0.12	0.07	0.11	0.15	0.13
T2	医定期 定期的に経過観察	0.08	0.13	0.16	0.09	0.06	0.05	0.11	0.11
T3	医不定 状態によって受ける。不定期	0.10	0.16	0.10	0.18	0.06	0.10	0.12	0.15
T4	医希望 受けたい	0.05	0.01	0.02	0.02	0.03	0.03	0.01	0.03
T5	助言 職員が指導助言を受けている	0.30	0.27	0.12	0.13	0.31	0.25	0.16	0.13
T6	助言希 職員が指導を受けたい	0.04	0.04	0.02	0.00	0.01	0.01	0.03	0.01
T7	医不要 必要がない	0.31	0.34	0.41	0.51	0.43	0.05	0.33	0.43

表13-1 被虐待児における在所期間別、「問題なし」の出現率

		0-6ヶ月	7-18ヶ月	19-30ヶ月	31-42ヶ月	43-54ヶ月	*(5%水準で有意)
A	睡眠	0.58	0.76	0.74	0.71	0.77	*
B	食欲	0.57	0.64	0.71	0.69	0.73	*
C	排泄	0.70	0.83	0.83	0.81	0.87	*
D	身体感覚	0.64	0.72	0.74	0.69	0.77	*
E	身体運動	0.80	0.86	0.84	0.86	0.86	
F	身体成長	0.70	0.76	0.81	0.77	0.85	*
G	情動の傾向	0.08	0.24	0.23	0.25	0.32	*
H	大人に対する態度	0.09	0.31	0.30	0.22	0.37	*
I	大人に対して目立つ行動	0.16	0.34	0.36	0.28	0.41	*
J	子どもに対する目立った行動	0.08	0.19	0.20	0.24	0.25	*
K	社会的なルールや約束	0.31	0.41	0.44	0.37	0.51	*
L	特定の大人との関係	0.50	0.73	0.69	0.68	0.73	*
M	特定の子どもとの関係	0.28	0.49	0.47	0.40	0.42	*
N	自分自身に対する構え	0.13	0.21	0.20	0.19	0.16	*
O	認知能力と学習能力	0.37	0.40	0.32	0.33	0.38	
P	生活上の様子	0.43	0.59	0.64	0.65	0.68	*
Q	いわゆる「問題行動」	0.35	0.46	0.45	0.42	0.49	*
R	主たる養育者に示す愛着	0.14	0.21	0.20	0.18	0.18	
S	虐待養育者に示す愛着	0.07	0.14	0.13	0.08	0.08	
T	精神科領域の医学的ケア	0.36	0.29	0.39	0.32	0.46	

表13-2 被虐待児における在所期間別、「問題なし」の出現率

		0-6ヶ月	7-18ヶ月	19-30ヶ月	31-42ヶ月	43-54ヶ月	*(5%水準で有意)
A	睡眠	0.68	0.85	0.82	0.79	0.79	*
B	食欲	0.73	0.84	0.79	0.78	0.81	
C	排泄	0.81	0.92	0.96	0.91	0.89	*
D	身体感覚	0.75	0.87	0.88	0.82	0.87	*
E	身体運動	0.82	0.90	0.86	0.85	0.84	
F	身体成長	0.79	0.88	0.88	0.84	0.82	
G	情動の傾向	0.22	0.38	0.39	0.35	0.44	*
H	大人に対する態度	0.17	0.34	0.42	0.46	0.52	*
I	大人に対して目立つ行動	0.40	0.43	0.56	0.57	0.63	*
J	子どもに対する目立った行動	0.21	0.22	0.30	0.39	0.44	*
K	社会的なルールや約束	0.53	0.52	0.59	0.53	0.66	*
L	特定の大人との関係	0.56	0.71	0.76	0.69	0.79	*
M	特定の子どもとの関係	0.41	0.46	0.54	0.57	0.71	*
N	自分自身に対する構え	0.17	0.26	0.26	0.28	0.45	*
O	認知能力と学習能力	0.40	0.35	0.43	0.39	0.37	
P	生活上の様子	0.70	0.80	0.79	0.78	0.79	*
Q	いわゆる「問題行動」	0.59	0.59	0.63	0.58	0.66	
R	主たる養育者に示す愛着	0.25	0.31	0.31	0.36	0.32	
S	虐待養育者に示す愛着	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
T	精神科領域の医学的ケア	0.40	0.43	0.43	0.47	0.48	

表14-1 被虐待児の在所期間別の各状態の出現率

		0-6ヶ月	7-18ヶ月	19-30ヶ月	31-42ヶ月	43-54ヶ月	*(5%水準で有意)
A	睡眠						
A 1	寝付 寝付きが悪い	0.25	0.15	0.15	0.14	0.11	*
A 2	浅眠 眠りが浅い	0.17	0.08	0.09	0.05	0.08	*
A 3	早朝覚 早朝覚醒	0.05	0.02	0.00	0.02	0.01	*
A 4	夜泣 夜泣き	0.05	0.01	0.00	0.01	0.01	*
A 5	悪夢 悪夢	0.09	0.03	0.05	0.01	0.04	*
A 6	なし 特になし	0.58	0.76	0.74	0.71	0.77	*
B	食欲						
B 1	拒食 拒食	0.07	0.03	0.02	0.03	0.03	*
B 2	過食 過食	0.09	0.03	0.07	0.07	0.04	
B 3	貪り食 貪り食い	0.07	0.04	0.01	0.03	0.06	*
B 4	偏食 偏食	0.12	0.09	0.06	0.03	0.08	*
B 5	過味付 過度の味付け	0.08	0.07	0.05	0.10	0.05	
B 6	盗食 盗み食い	0.04	0.03	0.02	0.01	0.00	*
B 7	異食 異食	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	
B 8	食むら 食欲にむらがある	0.11	0.09	0.06	0.10	0.10	
B 9	なし 特になし	0.57	0.64	0.71	0.69	0.73	*
C	排泄						
C 1	頻尿 頻尿	0.05	0.03	0.02	0.01	0.00	*
C 2	遺尿 遺尿	0.08	0.05	0.03	0.02	0.00	*
C 3	夜尿 夜尿	0.14	0.07	0.06	0.10	0.04	*
C 4	他所排 トイレの他所で排泄	0.05	0.02	0.03	0.01	0.00	*
C 5	便秘 便秘	0.03	0.03	0.02	0.03	0.01	
C 6	下痢 下痢	0.01	0.01	0.01	0.03	0.00	
C 7	なし 特になし	0.70	0.83	0.83	0.81	0.87	*
D	身体感覚						
D 1	痛覚敏 痛みに敏感	0.16	0.12	0.09	0.13	0.10	*
D 2	痛覚鈍 痛みに鈍感	0.07	0.04	0.03	0.05	0.01	
D 3	温覚敏 暑さ寒さに敏感	0.02	0.03	0.03	0.04	0.03	
D 4	温覚鈍 暑さ寒さに鈍感	0.12	0.08	0.12	0.11	0.09	
D 5	敏覚鈍 敏感さと鈍感が混在	0.03	0.05	0.04	0.01	0.03	
D 6	なし 特になし	0.64	0.72	0.74	0.69	0.77	*
E	身体運動						
E 1	易転倒 転びやすい等	0.07	0.06	0.06	0.04	0.04	
E 2	不器用 微細な運動機能のおくれ	0.11	0.07	0.08	0.09	0.04	
E 3	遅発達 運動発達の遅れ	0.06	0.02	0.03	0.01	0.08	
E 4	なし 特になし	0.80	0.86	0.84	0.86	0.86	
F	身体成長						
F 1	低身長 低身長	0.22	0.21	0.14	0.18	0.09	*
F 2	なし 特になし	0.70	0.76	0.81	0.77	0.85	*
G	情動の傾向						
G 1	抑鬱 抑鬱	0.14	0.09	0.08	0.05	0.10	*
G 2	不活発 不活発	0.28	0.07	0.08	0.11	0.09	*
G 3	悲哀 悲哀	0.11	0.03	0.05	0.05	0.03	*
G 4	不安 不安	0.17	0.06	0.06	0.07	0.03	*
G 5	過敏 過敏	0.15	0.06	0.06	0.05	0.06	*
G 6	多動 多動、落ち着きのなさ	0.28	0.17	0.14	0.12	0.08	*
G 7	注意 注意持続困難	0.37	0.28	0.27	0.23	0.20	*
G 8	衝動 衝動的	0.42	0.28	0.24	0.28	0.22	*
G 9	不自然 不自然なはしゃぎ	0.33	0.30	0.26	0.18	0.27	*
G 10	浮沈 浮き沈み	0.19	0.16	0.14	0.15	0.16	

表14-2 被虐待児の在所期間別の各状態の出現率

		0-6ヶ月	7-18ヶ月	19-30ヶ月	31-42ヶ月	43-54ヶ月	*(5%水準で有意)
G11	癩癩	0.27	0.24	0.17	0.21	0.14	*
G12	キレル	0.13	0.09	0.09	0.05	0.05	*
G13	意識の解離	0.09	0.08	0.09	0.05	0.06	
G14	感情の解離	0.08	0.07	0.03	0.04	0.03	*
G15	拘り	0.15	0.11	0.15	0.16	0.14	
G16	特になし	0.08	0.24	0.23	0.25	0.32	*
H 大人に対する態度							
H1	無関心	0.08	0.02	0.03	0.02	0.03	*
H2	拒否	0.09	0.03	0.04	0.05	0.08	
H3	攻撃	0.28	0.23	0.21	0.20	0.19	*
H4	凍り付き	0.08	0.05	0.02	0.02	0.01	*
H5	表面的	0.21	0.08	0.07	0.09	0.06	*
H6	オドオド	0.16	0.05	0.02	0.03	0.01	*
H7	うまく近づけない	0.23	0.11	0.14	0.20	0.18	
H8	過度に接近、べたべた	0.30	0.25	0.21	0.24	0.09	*
H9	不安定な距離	0.20	0.18	0.17	0.19	0.15	
H10	過依存、見捨てられ不安	0.13	0.11	0.09	0.06	0.06	*
H11	両極端	0.08	0.06	0.08	0.12	0.06	
H12	いい子に振る舞う	0.21	0.14	0.15	0.08	0.09	*
H13	身勝手	0.24	0.19	0.16	0.13	0.10	*
H14	特になし	0.09	0.31	0.30	0.22	0.37	*
I 大人に対して目立つ行動							
I1	気を引く	0.29	0.17	0.18	0.16	0.11	*
I2	操作的	0.19	0.16	0.13	0.14	0.19	
I3	表裏のある態度	0.17	0.11	0.11	0.15	0.13	
I4	反発、攻撃	0.23	0.18	0.17	0.15	0.10	*
I5	逆撫で	0.20	0.17	0.14	0.16	0.15	*
I6	独り占め	0.23	0.13	0.15	0.08	0.08	*
I7	顔窺	0.38	0.23	0.20	0.19	0.19	*
I8	両価的、依存と拒否	0.29	0.28	0.29	0.29	0.24	
I9	過剰な好意、サービス	0.15	0.09	0.10	0.12	0.10	
I10	特になし	0.16	0.34	0.36	0.28	0.41	*
J 子どもに対する目立った行動							
J1	孤立	0.30	0.14	0.15	0.18	0.15	*
J2	すぐに喧嘩をする	0.36	0.24	0.21	0.16	0.08	*
J3	苛める	0.17	0.16	0.10	0.10	0.06	*
J4	苛められ	0.29	0.17	0.13	0.09	0.11	*
J5	妬み、嫉妬、恨む	0.21	0.16	0.18	0.16	0.14	*
J6	僻み	0.27	0.19	0.18	0.20	0.15	*
J7	攻撃的、他の子に	0.33	0.27	0.30	0.28	0.18	*
J8	支配的	0.15	0.16	0.20	0.19	0.19	
J9	被支配	0.18	0.11	0.07	0.06	0.09	*
J10	張り合う	0.17	0.17	0.15	0.11	0.09	*
J11	競争を避ける、尻込み	0.13	0.08	0.08	0.08	0.11	
J12	独占欲、物や人	0.18	0.13	0.09	0.07	0.10	*
J13	物への執着薄い	0.05	0.03	0.05	0.03	0.01	
J14	依存的、他の子に	0.06	0.04	0.02	0.05	0.06	
J15	物で釣	0.08	0.05	0.05	0.13	0.09	
J16	逆撫で	0.20	0.22	0.15	0.20	0.13	*
J17	身勝手、傍若無人	0.24	0.21	0.20	0.23	0.10	*
J18	他の子が叱られるのを喜ぶ	0.06	0.05	0.04	0.07	0.03	

表14-3 被虐待児の在所期間別の各状態の出現率

		0-6ヶ月	7-18ヶ月	19-30ヶ月	31-42ヶ月	43-54ヶ月	*(5%水準で有意)
J 19	告げ口 告げ口	0.15	0.13	0.11	0.09	0.08	*
J 20	性的遊 性的遊び	0.05	0.04	0.03	0.03	0.01	
J 21	なし 特になし	0.08	0.19	0.20	0.24	0.25	*
K 社会的なルールや約束							
K 1	守れず 守れず、コントロールできない	0.38	0.30	0.33	0.32	0.24	*
K 2	反抗 反抗、反発から破る	0.15	0.14	0.13	0.18	0.09	
K 3	忘 忘れる、注意されても	0.24	0.16	0.15	0.17	0.08	*
K 4a	嘘逃げ 責めを避けようとして嘘	0.20	0.10	0.14	0.17	0.10	
K 4b	嘘気引 気を引く嘘	0.04	0.04	0.03	0.03	0.01	
K 4c	嘘空想 空想の混じった嘘	0.06	0.03	0.02	0.04	0.04	
K 4d	嘘他 その他、嘘	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00	
K 5	強迫 強迫的にこだわる	0.05	0.03	0.02	0.05	0.08	
K 6	無頓 無頓着	0.14	0.09	0.09	0.09	0.08	*
K 7	なし 特になし	0.31	0.41	0.44	0.37	0.51	*
L 特定の大人との関係							
L 1	職持続 持続的で安定	0.50	0.73	0.69	0.68	0.73	*
L 2	職不定 一定しない	0.12	0.08	0.10	0.14	0.03	
L 3	職難係 関係を持ち難い	0.32	0.16	0.16	0.14	0.16	*
M 特定の子もとの関係							
M 1	友持続 持続的で安定	0.28	0.49	0.47	0.40	0.42	*
M 2	友不定 一定しない	0.16	0.13	0.16	0.17	0.20	
M 3	友難係 関係を持ち難い	0.51	0.36	0.36	0.41	0.32	*
N 自分自身に対する構え							
N 1	自無関 自分に無関心、投げやり	0.29	0.16	0.19	0.16	0.13	*
N 2	外見 自分の外見や人目に無関心	0.21	0.15	0.11	0.12	0.06	*
N 3	健康 健康に無関心	0.10	0.07	0.06	0.05	0.09	
N 4	未来 未来への関心、希望なし	0.20	0.09	0.12	0.12	0.13	*
N 5	棄評価 好かれることを放棄	0.17	0.06	0.09	0.10	0.13	*
N 6	自信無 自信がない	0.52	0.47	0.52	0.54	0.56	
N 7	自のみ 自分のことで精一杯	0.38	0.28	0.30	0.27	0.20	*
N 8	なし 特になし	0.13	0.21	0.20	0.19	0.16	*
O 認知能力と学習能力							
O 1	普普 知的に普通で、相応の学力	0.37	0.40	0.32	0.33	0.38	
O 2	普低 知的に普通で、学力が低い	0.38	0.35	0.45	0.37	0.35	
O 3	遅普 知的に遅れ、相応の学力	0.13	0.15	0.11	0.14	0.18	
O 4	遅低 遅れ、それ以上の学力の低さ	0.11	0.09	0.10	0.14	0.09	
O 5	知遅 中度以上の知的遅れ	0.01	0.00	0.01	0.00	0.00	
P 生活上の様子							
P 1	食多動 食事中落ち着かない	0.23	0.12	0.10	0.11	0.06	*
P 2	食ダラダ だらだら食べる	0.19	0.15	0.14	0.16	0.06	*
P 3	膝乗 膝に乗れない	0.05	0.01	0.01	0.01	0.03	
P 4	入浴 入浴中背中を流させない	0.05	0.02	0.00	0.01	0.01	*
P 5	下着 下着を取り替えない	0.08	0.03	0.02	0.04	0.00	*
P 6	生理 生理の始末ができない	0.03	0.01	0.01	0.03	0.04	
P 7	WC怖 トイレが怖い	0.08	0.05	0.04	0.01	0.00	*
P 8	不拭 トイレでお尻を拭かない	0.05	0.01	0.01	0.02	0.00	*
P 9	水怖 水が怖くて顔を洗えない	0.01	0.01	0.00	0.01	0.00	
P 10	時計 時計が読めない	0.10	0.04	0.04	0.04	0.05	*
P 11	空想 空想に入りきっている姿	0.05	0.05	0.05	0.03	0.08	
P 12	なし 特になし	0.43	0.59	0.64	0.65	0.68	*

表14-4 被虐待児の在所期間別の各状態の出現率

		0-6ヶ月	7-18ヶ月	19-30ヶ月	31-42ヶ月	43-54ヶ月	*(5%水準で有意)
Q	いわゆる「問題行動」						
Q 1	無断泊 無断外出、無断外泊	0.28	0.35	0.27	0.29	0.21	
Q 2	公破壊 公共物への器物破壊	0.35	0.22	0.29	0.32	0.19	*
Q 3	他破壊 他の子の物への器物破壊	0.26	0.15	0.13	0.21	0.09	*
Q 4	職傷害 職員への怪我を負わせる暴力	0.08	0.06	0.02	0.03	0.01	*
Q 5	職傷軽 職員への怪我に至らない暴力	0.41	0.32	0.20	0.18	0.13	*
Q 6	子傷害 他の子を怪我させる暴力	0.13	0.08	0.10	0.08	0.01	*
Q 7	子傷軽 他の子に怪我させない暴力	0.62	0.58	0.50	0.59	0.33	*
Q 8	自傷 自傷行為	0.15	0.07	0.14	0.06	0.08	
Q 9	自殺 自殺企図	0.04	0.01	0.05	0.01	0.00	
Q10	万引 施設外での盗み万引き	0.15	0.07	0.05	0.14	0.12	
Q11	内盗 施設内での盗み	0.34	0.22	0.16	0.39	0.09	*
Q12	喫煙 喫煙	0.09	0.06	0.21	0.16	0.22	*
Q13	飲酒 飲酒	0.02	0.02	0.07	0.07	0.04	
Q14	性逸脱 性的な逸脱行為	0.16	0.09	0.10	0.21	0.12	
Q16	なし 特になし	0.35	0.46	0.45	0.42	0.49	*
R	主たる養育者に示す愛着						
R 1	養過度 愛情欲求が過度に強い	0.17	0.11	0.09	0.08	0.09	*
R 2	養自然 自然な愛着	0.14	0.21	0.20	0.18	0.18	
R 3	養弱 弱い、窺っているような	0.20	0.27	0.24	0.23	0.21	
R 4	養不信 不信、拒否感が優位	0.11	0.07	0.07	0.10	0.06	
R 5	養拒否 不信、拒否感のみ強い	0.09	0.07	0.06	0.05	0.05	*
R 6	養両価 両価的、揺れたり混乱	0.27	0.19	0.24	0.25	0.33	
R 7	養諦め あきらめ、さめたような	0.14	0.14	0.10	0.10	0.10	
R 8	養無関 無関心	0.03	0.03	0.02	0.03	0.03	
R 9	養不明 不明	0.03	0.03	0.04	0.04	0.00	
R10	養無 いない	0.01	0.02	0.02	0.03	0.04	
S	虐待養育者に示す愛着						
S 1	虐過度 愛情欲求が過度に強い	0.13	0.09	0.08	0.09	0.05	*
S 2	虐自然 自然な愛着	0.07	0.14	0.13	0.08	0.08	
S 3	虐弱 弱い、窺っているような	0.19	0.23	0.19	0.21	0.24	
S 4	虐不信 不信、拒否感が優位	0.15	0.08	0.12	0.12	0.11	
S 5	虐拒否 不信、拒否感のみ強い	0.15	0.12	0.12	0.12	0.08	*
S 6	虐両価 両価的、揺れたり混乱	0.26	0.20	0.23	0.21	0.30	
S 7	虐諦め あきらめ、さめたような	0.10	0.15	0.11	0.12	0.20	
S 8	虐無関 無関心	0.04	0.05	0.03	0.04	0.05	
S 9	虐不明 不明	0.04	0.04	0.05	0.08	0.03	
T	精神科領域の医学的ケア						
T 1	医常時 常時	0.12	0.13	0.15	0.17	0.13	
T 2	医定期 定期的に経過観察	0.08	0.09	0.10	0.11	0.05	
T 3	医不定 状態によって受ける。不定期	0.06	0.14	0.10	0.12	0.12	
T 4	医希望 受けたい	0.03	0.02	0.01	0.01	0.00	
T 5	助言 職員が指導助言を受けている	0.31	0.35	0.23	0.25	0.22	*
T 6	助言希 職員が指導を受けたい	0.04	0.04	0.02	0.01	0.03	
T 7	医不要 必要がない	0.36	0.29	0.39	0.32	0.46	

表15-1 改善に関する因子

(Coxの回帰分析 有意水準5%で回帰係数)

		身体的虐待	ネグレクト	心理的虐待	性的虐待	年齢	虐待発生年齢	性別
A	睡眠							
A 1	寝付 寝付きが悪い				3.29	0.69	1.13	
A 2	浅眠 眠りが浅い					0.84		
A 3	早朝覚 早朝覚醒							
A 4	夜泣 夜泣き					0.80		
A 5	悪夢 悪夢							
A 6	なし 特になし				2.41	0.68	1.18	
B	食欲							
B 1	拒食 拒食							
B 2	過食 過食							
B 3	貪り食 貪り食い				11.54	0.75		
B 4	偏食 偏食							
B 5	過味付 過度の味付け		4.20					
B 6	盗食 盗み食い							
B 7	異食 異食							
B 8	食むら 食欲にむらがある					0.58	1.21	
B 9	なし 特になし					0.79	1.11	
C	排泄							
C 1	頻尿 頻尿		6.35					
C 2	遺尿 遺尿					0.76		
C 3	夜尿 夜尿					0.65	1.22	
C 4	他所排 トイレの他所で排泄					0.65		
C 5	便秘 便秘				250.34			
C 6	下痢 下痢							
C 7	なし 特になし				3.87	0.83		
D	身体感覚							
D 1	痛覚敏 痛みに敏感					0.79		
D 2	痛覚鈍 痛みに鈍感							
D 3	温覚敏 暑さ寒さに敏感	0.00						
D 4	温覚鈍 暑さ寒さに鈍感							
D 5	敏覚鈍 敏感さと鈍感が混在			88.92				
D 6	なし 特になし				2.77	0.79		
E	身体運動							
E 1	易転倒 転びやすい等	166741.50			179741.99			
E 2	不器用 微細な運動機能のおくれ	9.57						
E 3	遅発達 運動発達の遅れ							
E 4	なし 特になし							
F	身体成長							
F 1	低身長 低身長					0.61	1.43	
F 2	なし 特になし					0.70	1.30	
G	情動の傾向							
G 1	抑鬱 抑鬱		2.22					
G 2	不活発 不活発					0.77	1.17	
G 3	悲哀 悲哀				17.40	0.74		
G 4	不安 不安							
G 5	過敏 過敏					0.84		
G 6	多動 多動、落ち着きのなさ					0.81		
G 7	注意 注意持続困難				4.30	0.79		
G 8	衝動 衝動的				2.99	0.78	1.12	
G 9	不自然 不自然なはしゃぎ					0.83		
G 10	浮沈 浮き沈み	0.44	0.41			0.82		
G 11	癩癩 癩癩							

表15-2 改善に関する因子

(Coxの回帰分析 有意水準5%で回帰係数)

		身体的虐待	ネグレクト	心理的虐待	性的虐待	年 齢	虐待発生年齢	性 別
G12	キレル							
G13	意識の解離				9.99	0.77		
G14	感情の解離					0.76		
G15	拘り				5.96	0.81		
G16	特になし				3.37	0.87		
H	大人に対する態度							
H1	無関心							
H2	拒否			0.31				
H3	攻撃				2.96	0.74		
H4	凍り付き					0.70	1.23	
H5	表面的					0.79	1.11	
H6	オドオド				4.24	0.86		
H7	うまく近づけない					0.87		
H8	過度に接近、ベタベタ				6.14	0.67		
H9	不安定な距離							
H10	過依存、見捨てられ不安				3.13	0.73		
H11	両極端			0.09	7.29	0.75		
H12	いい子に振る舞う	0.39				0.80		
H13	身勝手				16.22	0.73		
H14	特になし	0.60				0.76	1.16	
I	大人に対して目立つ行動							
I1	気を引く					0.80		
I2	操作的							
I3	表裏のある態度				19.04	0.63		0.44
I4	反発、攻撃				3.97	0.75		
I5	逆撫で				3.05	0.76		
I6	独り占め				3.53	0.77		
I7	顔色を窺う					0.78	1.09	
I8	両価的、依存と拒否				4.03	0.82		1.94
I9	過剰な好意、サービス					0.76		
I10	特になし				2.45	0.78	1.16	
J	子どもに対する目立った行動							
J1	孤立	0.53				0.81		
J2	すぐに喧嘩をする					0.79		
J3	苛める				3.43	0.76		
J4	被苛め				34.57	0.77		
J5	妬み、嫉妬、恨む				2.55			
J6	僻み				2.83	0.82		
J7	攻撃的、他の子に				4.12	0.64	1.15	
J8	支配的				3.06	0.74		
J9	被支配					0.81		
J10	張り合う					0.81		
J11	競争を避ける、尻込み							
J12	独占欲、物や人				4.12	0.62		
J13	物への執着薄い					0.54		
J14	依存的、他の子に					0.64		
J15	物で釣					0.68		
J16	逆撫で				3.85	0.77		
J17	身勝手、傍若無人			0.46		0.77		
J18	他の子が叱られるのを喜ぶ							
J19	告げ口					0.77		
J20	性的遊び							

表15-3 改善に係る因子

(Coxの回帰分析 有意水準5%で回帰係数)

		身体的虐待	ネグレクト	心理的虐待	性的虐待	年 齢	虐待発生年齢	性 別
J 21なし	特になし	0.49						
K	社会的なルールや約束守れず、							
K 1 守れず	コントロールできない	0.52				0.72	1.10	
K 2 反抗	反抗、反発から破る				24.96	0.65		0.40
K 3 忘	忘れる、注意されても					0.73		
K 4a嘘逃げ	責めを避けようとして嘘							
K 4b嘘気引	気を引く嘘							
K 4c嘘空想	空想の混じった嘘				251969.09			148973.38
K 4d嘘他	その他、嘘							
K 5 強迫	強迫的にこだわる		0.12					
K 6 無頓	無頓着			0.28		0.70	1.17	
K 7 なし	特になし				3.36	0.69	1.20	
L	特定の大人との関係							
L 1 職持続	持続的で安定				2.32	0.78		
L 2 職不定	一定しない							
L 3 職難係	関係を持ち難い				2.79	0.78		
M								
M 1 友持続	持続的で安定				3.44	0.78	1.16	
M 2 友不定	一定しない							
M 3 友難係	関係を持ち難い				3.49	0.81		
N	自分自身に対する構え							
N 1 自無関	自分に無関心、投げやり	0.54				0.82		
N 2 外見	自分の外見や人目に無関心	1.99			3.57	0.80		
N 3 健康	健康に無関心	3.28			41.58	0.71		
N 4 未来	未来への関心、希望なし	0.46						
N 5 棄評価	好かれることを放棄					0.76		
N 6 自信無	自信がない					0.88		
N 7 自のみ	自分のことで精一杯					0.78		
N 8 なし	特になし				3.72	0.74	1.13	
O	認知能力と学習能力							
O 1 普普	知的に普通で、相応の学力				5.98	0.75		
O 2 普低	知的に普通で、学力が低い				9.30	0.73		
O 3 遅普	知的に遅れ、相応の学力							
O 4 遅低	遅れ、それ以上の学力の低さ				485.72	0.67	0.67	7.62
O 5 知遅	中度以上の知的遅れ							
P	生活上の様子							
P 1 食多動	食事中落ち着かない				21.06	0.74		
P 2 食ダラダ	だらだら食べる							
P 3 膝乗	膝に乗れない					0.59		
P 4 入浴	入浴中背中を流させない							
P 5 下着	下着を取り替えない				15.88	0.79		
P 6 生理	生理の始末ができない							
P 7 WC怖	トイレが怖い					0.61	1.27	
P 8 不拭	トイレでお尻を拭かない						1.32	0.07
P 9 水怖	水が怖くて顔を洗えない							
P 10時計	時計が読めない	3.91			44.41	0.66		
P 11空想	空想に入りきっている姿	0.03					0.58	
P 12なし	特になし					0.85		
Q	いわゆる「問題行動」							
Q 1 無断泊	無断外出、無断外泊					0.85		
Q 2 公破壊	公共物への器物破壊					0.70		0.26
Q 3 他破壊	他の子の物への器物破壊					0.73		

表15-4 改善に関係する因子

(Coxの回帰分析 有意水準5%で回帰係数)

		身体的虐待	ネグレクト	心理的虐待	性的虐待	年 齢	虐待発生年齢	性 別
Q 4 職傷害	職員への怪我を負わせる暴力							
Q 5 職傷軽	職員への怪我に至らない暴力				4.29	0.70		
Q 6 子傷害	他の子を怪我させる暴力		8.82					
Q 7 子傷軽	他の子に怪我させない暴力		2.81		3.53			
Q 8 自傷	自傷行為							
Q 9 自殺	自殺企図							
Q10万引	施設外での盗み万引き					0.66		
Q11内盗	施設内での盗み					0.66	1.22	
Q12喫煙	喫煙							
Q13飲酒	飲酒							
Q14性逸脱	性的な逸脱行為							
Q16なし	特になし					0.82		
R	主たる養育者に示す愛着							
R 1 養過度	愛情欲求が過度に強い			0.23			1.16	
R 2 養自然	自然な愛着					0.61	1.30	
R 3 養弱	弱い、窺っているような							
R 4 養不信	不信、拒否感が優位					0.78		
R 5 養拒否	不信、拒否感のみ強い			0.15				3.57
R 6 養両価	両価的、揺れたり混乱	0.38				0.79		2.07
R 7 養諦め	あきらめ、さめたような					0.81		
R 8 養無関	無関心							
R 9 養不明	不明						1.42	
R10養無	いない							
S	虐待養育者に示す愛着							
S 1 虐過度	愛情欲求が過度に強い			0.27			1.36	
S 2 虐自然	自然な愛着					0.74		
S 3 虐弱	弱い、窺っているような					0.78		
S 4 虐不信	不信、拒否感が優位					0.82	1.20	
S 5 虐拒否	不信、拒否感のみ強い					0.74	1.27	
S 6 虐両価	両価的、揺れたり混乱	0.30			7.50	0.75		2.52
S 7 虐諦め	あきらめ、さめたような							
S 8 虐無関	無関心							
S 9 虐不明	不明							
T	精神科領域の医学的ケア							
T 1 医常時	常時				6.60			
T 2 医定期	定期的に経過観察	4.16						
T 3 医不定	状態によって受ける。不定期							
T 4 医希望	受けたい					0.32	1.54	
T 5 助言	職員が指導助言を受けている				9.55			
T 6 助言希	職員が指導を受けたい							
T 7 医不要	必要がない				4.88	0.74	1.22	

表16-1 入所6ヶ月から最終観察時までの改善各症状の改善に関係する因子

(Coxの回帰分析結果)

症 状	身 体	ネ グ	心 理	性 的	最 終 年 齢		発 生 年 齢		性 別	
					年 少	年 長	早 発	晩 発	男	女
A. 睡 眠				寝付り あ	寝付り 浅眠 夜泣り あ			寝付り あ		
B. 食 欲		過味付		貧り食	貧り食 食むら あ			食むら あ		
C. 排 泄		頻 尿		便 秘 あ	遺尿 夜他処 あ			夜 尿		
D. 身 体 感 覚	(温感敏)		敏覚鈍	あ り	痛覚敏 あ					
E. 運 動	易転倒 不器用			易転倒						
F. 成 長					低身長 あ			低身長 あ		
G. 情 動 傾 向	(浮沈)	抑 鬱 (浮沈)		悲 哀 注 意 衝 意 意 解 拘 離 あ り	不活発 不悲過 多注衝 不自然 浮意解 意感解 拘離 あ			不活発 不衝動		
H. 対大人 態 度	(いい子 あり)		(拒否) (両極)	攻 撃 オドオド 過接近 過依極 両勝 手	攻 撃 凍り付 表 面 オドオド 難接近 過接近 過依極 両いい 勝 子 あ 手 り			凍り付 表 面 あ		
I. 対大人 行 動				裏 表 反 発 逆 撫 独 占 両 価 あ り	気引く 裏 表 反 発 逆 撫 独 占 顔 窺 両 価 過好意 あ			顔 窺 あ り	両 価	裏 表

表16-2 入所6ヶ月から最終観察時までの改善各症状の改善に関する因子

(Coxの回帰分析結果)

症 状	身 体	ネ グ	心 理	性 的	最 終 年 齢		発 生 年 齢		性 別	
					年 少	年 長	早 発	晩 発	男	女
J.	(孤立) (あり)		(子勝手)	苛め 被苛め 妬み 僻み 子攻撃 支配 子独占 子逆撫	孤立 喧嘩 苛め 被苛め 僻み 子攻撃 支配 被支配 張合う 子独占 無物執 依存 物で釣 子逆撫 子勝手 告口			子攻撃		
K. 社 会 ル ー ル	(守れず)	(強迫)	(無頓)	反 抗 嘘 空 あ り	守れず 反 抗 無 頓 あ り			守れず 無 頓 あ り	嘘 空 想	反 抗
L. 特 定 大 人				職 持 続 職 難 係	職 持 続 職 難 係					
M. 特 定 子 供				友 持 続 友 難 係	友 持 続 友 難 係			友 持 続		
N. 自 己	(自無関) 外 見 健 康 (未来)			外 見 健 康 あ り	自無関 外 見 健 康 棄 評 価 自 信 無 自 の み あ り			あ り		
O. 学 力				普 普 普 遅 食 多 下 時	普 普 普 遅 食 多 膝 下 W C 時 計 あ り			遅 低	遅 低	
P. 生 活	時 計 (空想)			食 多 膝 下 W C 時 計 あ り	食 多 動 乗 着 着 怖 怖 計 計 り り			空 想	W C 怖 不 拭	不 拭
Q. 問 題 行 動		子 傷 害 子 傷 軽		職 傷 軽 子 傷 軽	無 断 泊 公 破 壊 他 破 壊 職 傷 軽 万 引 盗 内 盗 り 盗 り 盗 り 盗 り 盗			内 盗		公 破 壊
R. 対 養 育	(養 兩 価)		(養 過 度) (養 拒 否)		養 自 然 養 養 不 養 兩 価 養 諦 め			養 過 度 養 自 然 養 不 明	養 拒 否 養 兩 価	
S. 対 虐 待	(虐 兩 価)		(虐 過 度)	虐 兩 価	虐 自 然 虐 弱 虐 不 信 虐 拒 否 虐 兩 価			虐 過 度 虐 不 信 虐 拒 否	虐 兩 価	
T. 医 療	医 定 期			医 常 時 助 言 医 不 要	医 希 望 医 不 要			医 希 望 医 不 要		

図 1

2000.11から2001.10に退園した児童の在所期間

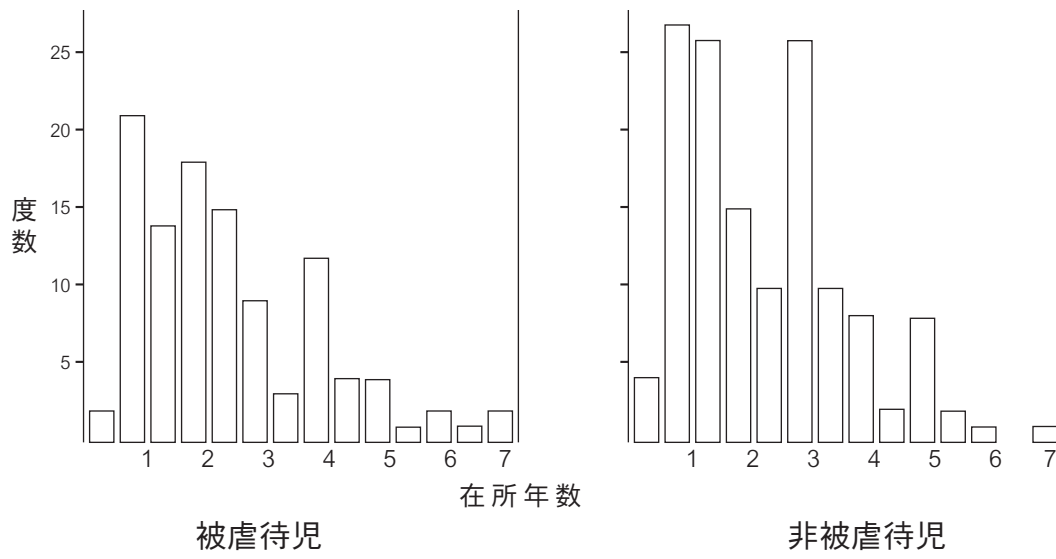


図 2

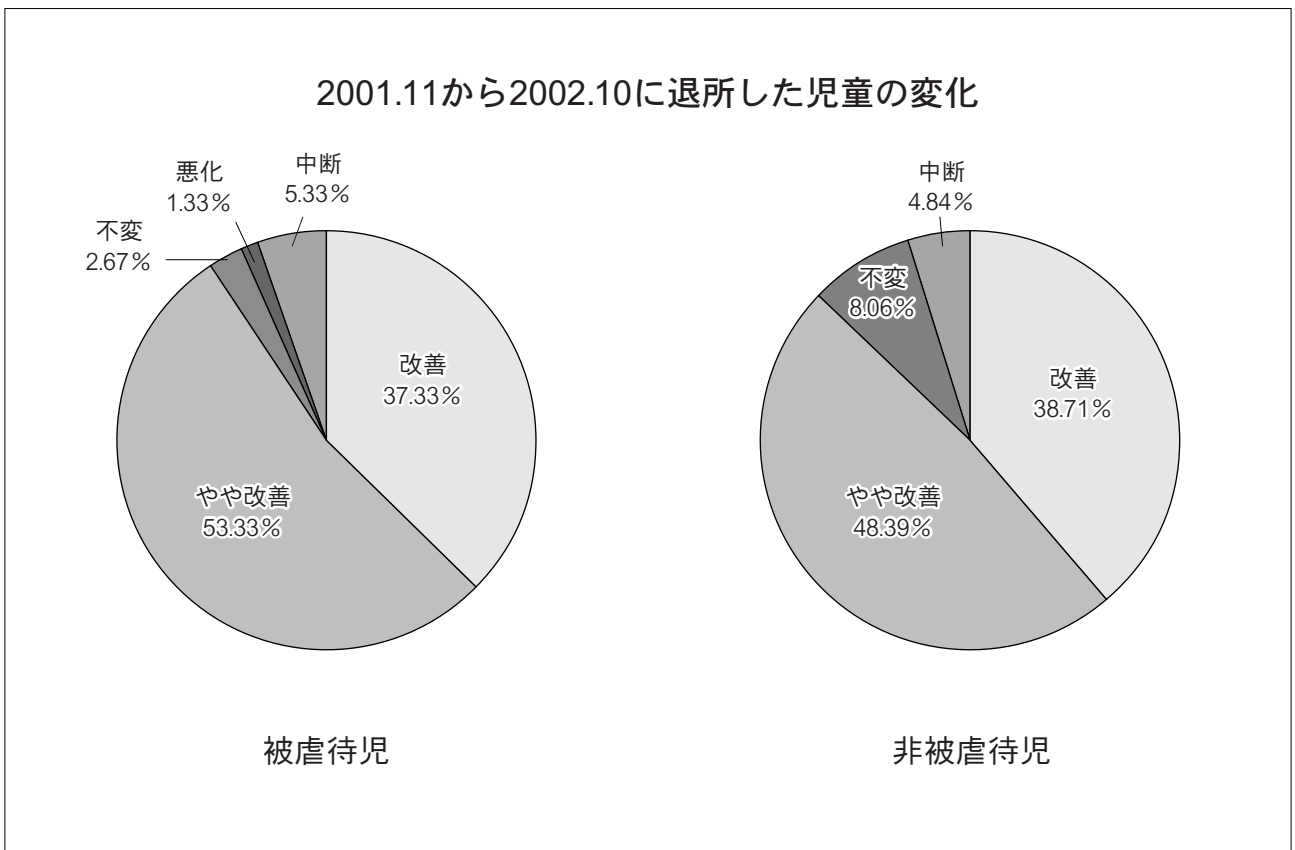
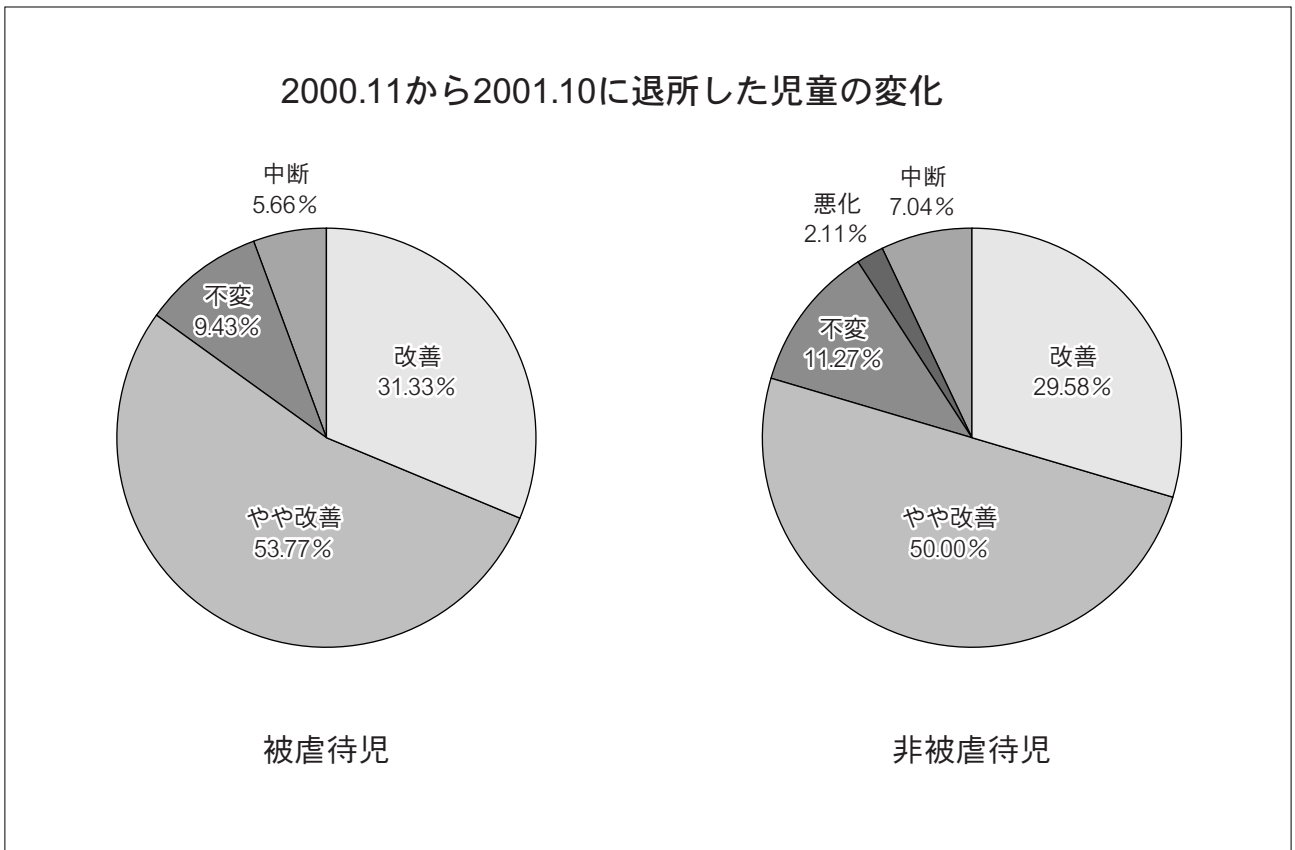


図 3

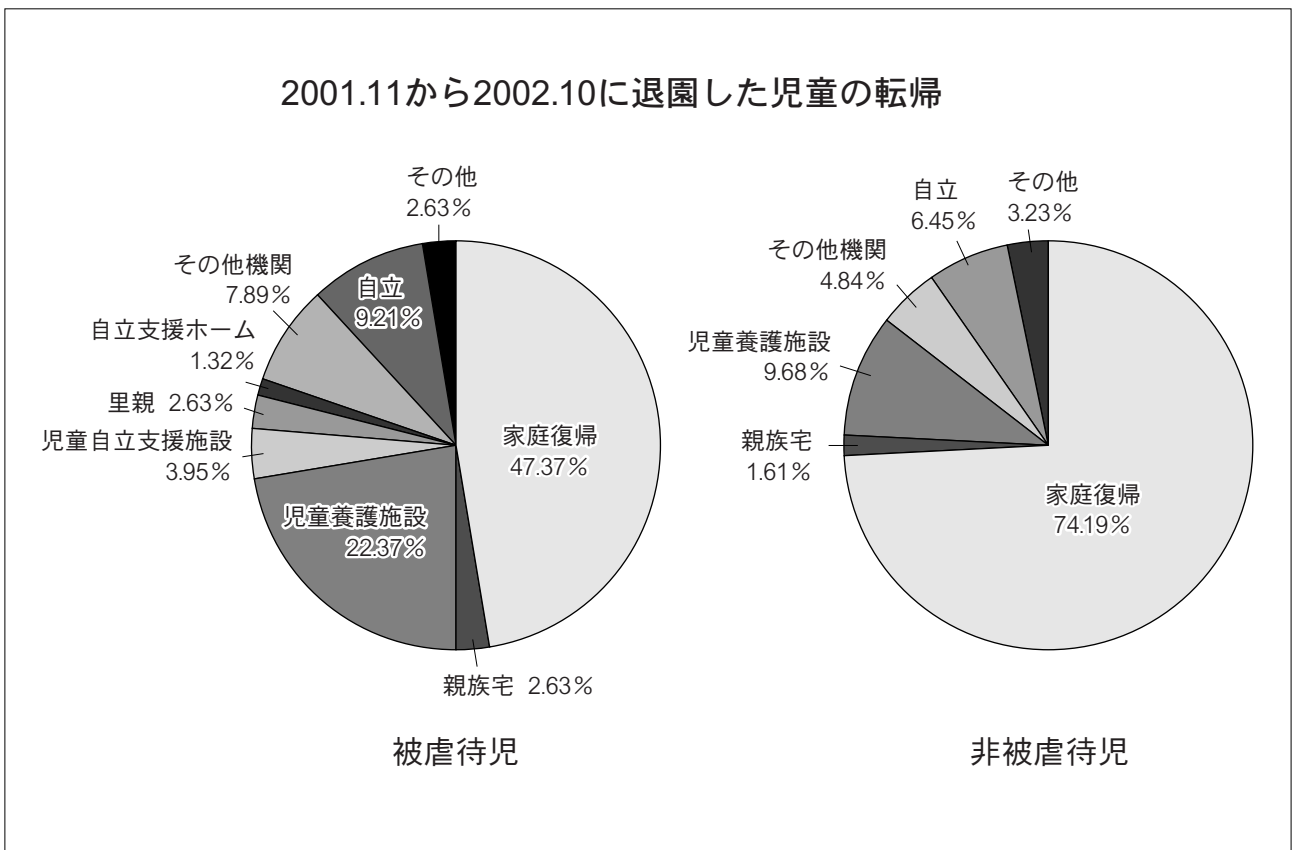
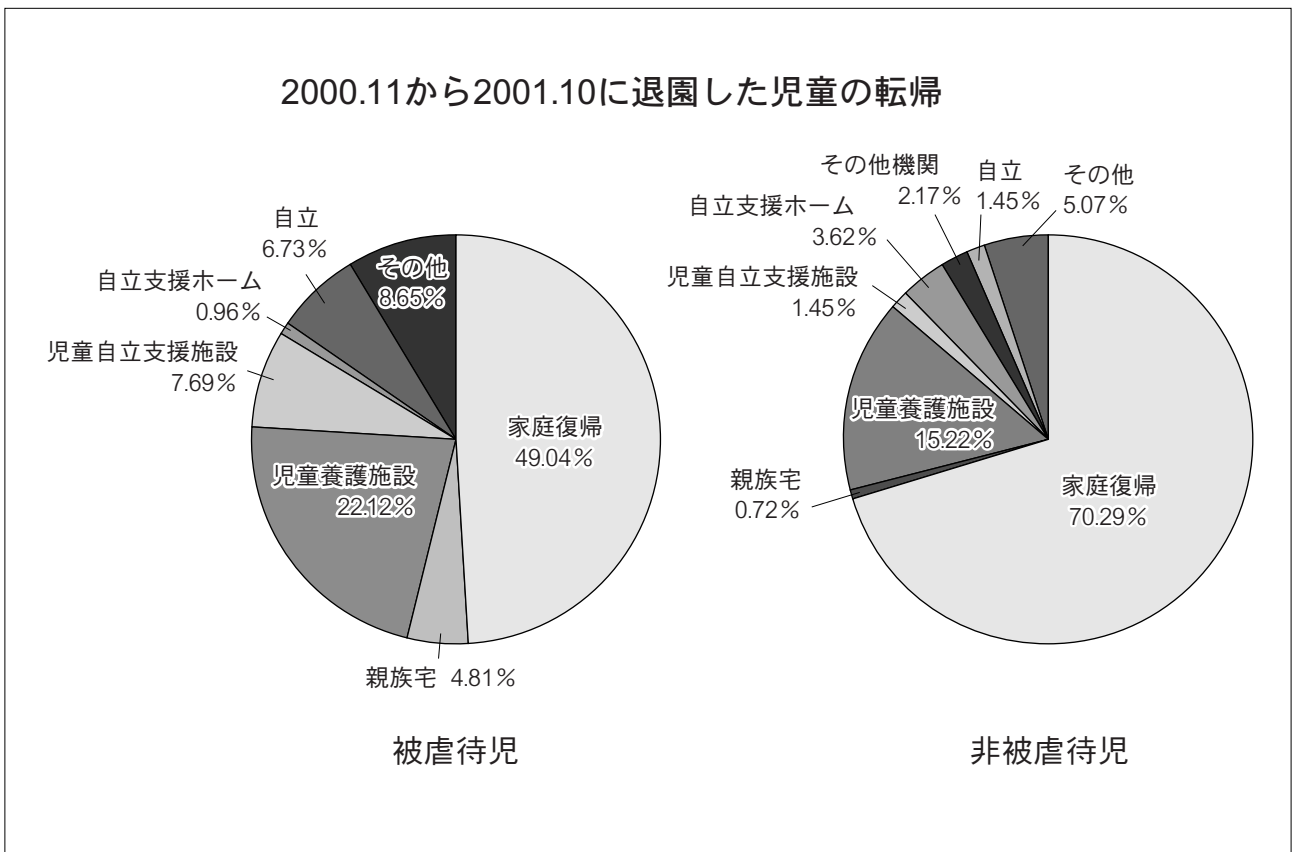
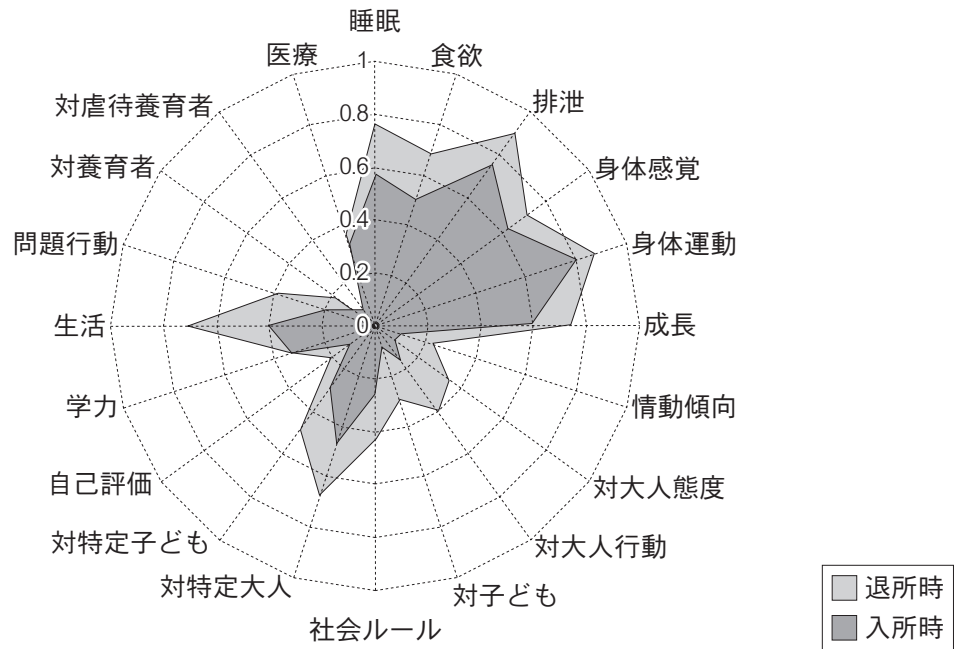


図 4 - 1

被虐待児男子の退所時の症状の改善
 (入所時と退所時の「問題なし」の児童の比率の割合)



非被虐待児男子の退所時の症状の改善
 (入所時と退所時の「問題なし」の児童の比率の割合)

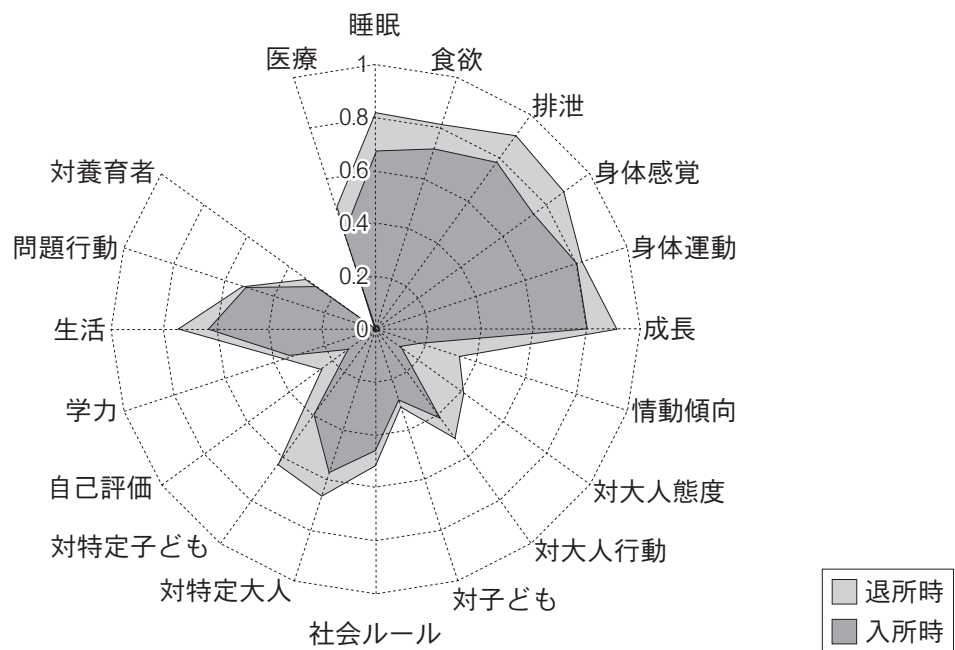
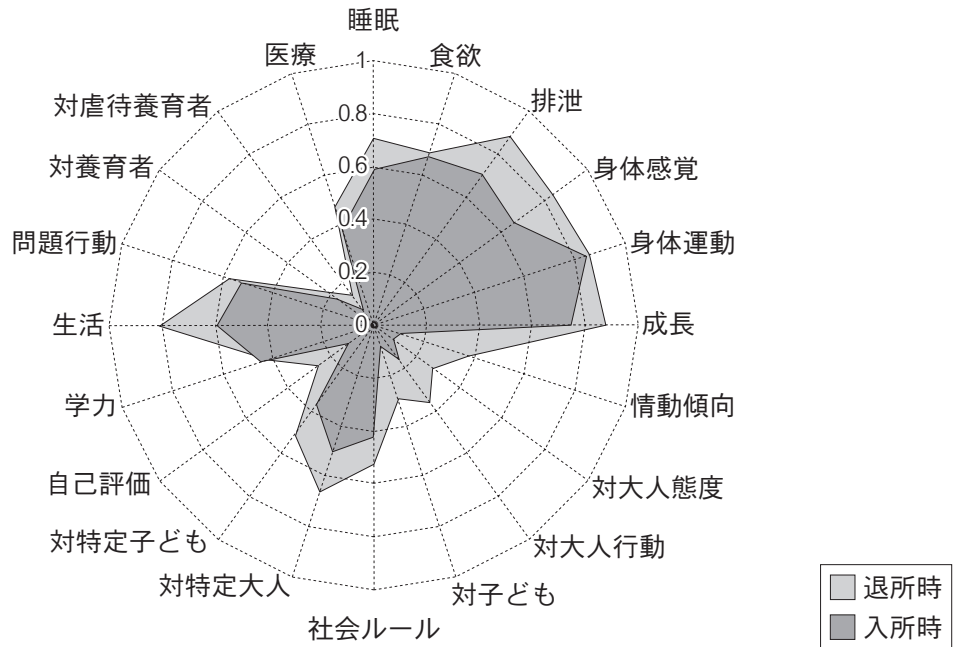


図 4 - 2

被虐待児女子の退所時の症状の改善
 (入所時と退所時の「問題なし」の児童の比率の割合)



非被虐待児女子の退所時の症状の改善
 (入所時と退所時の「問題なし」の児童の比率の割合)

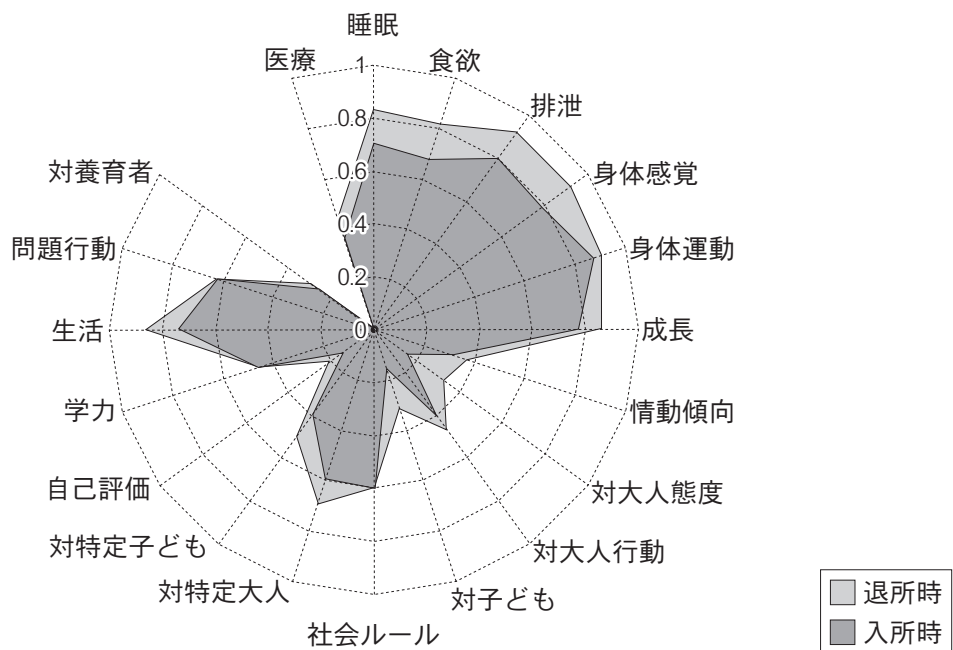


図 5-1

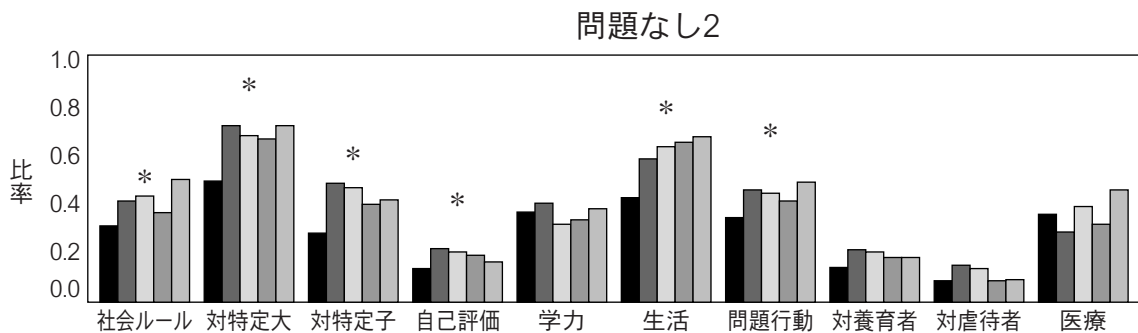
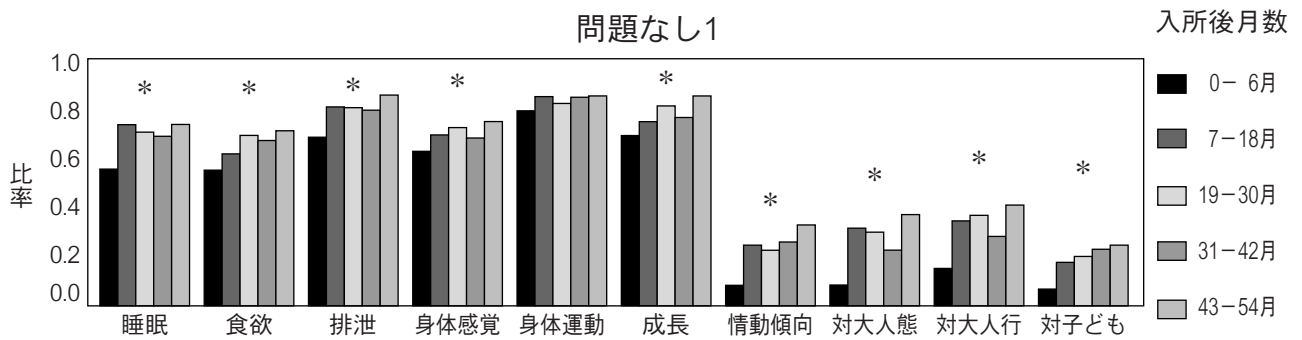
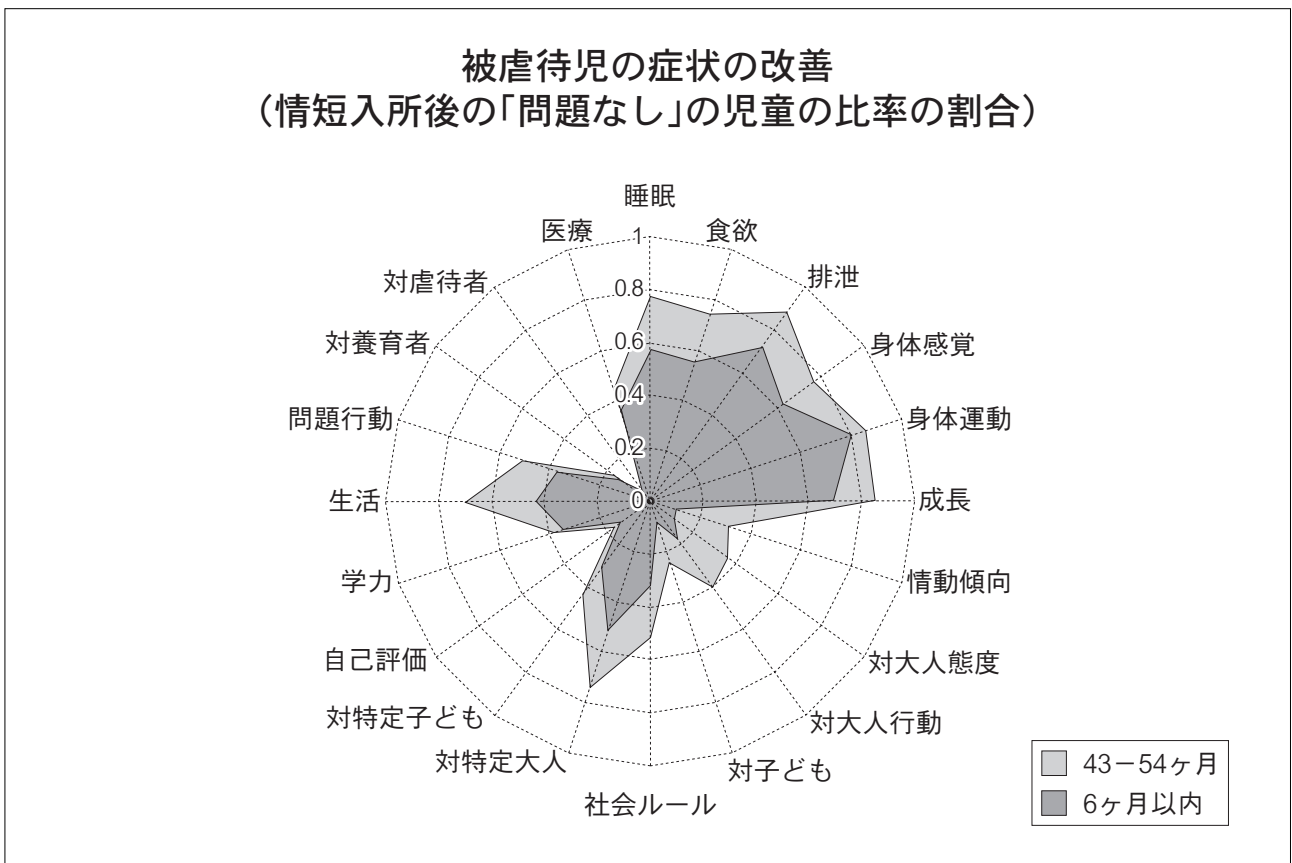


図 5 - 2

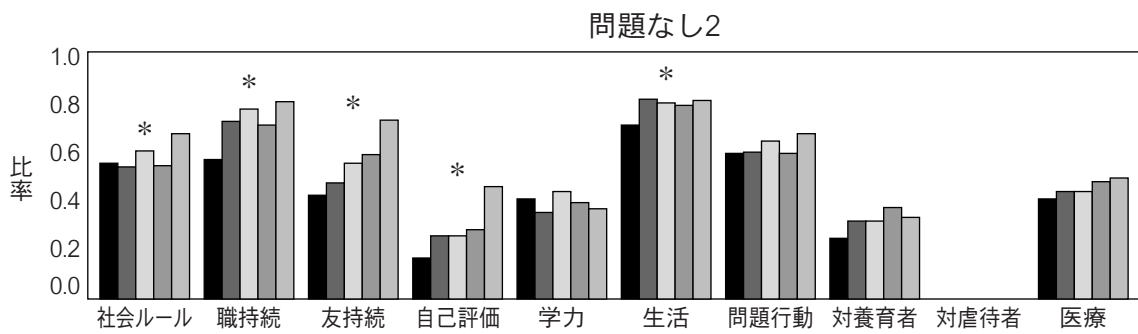
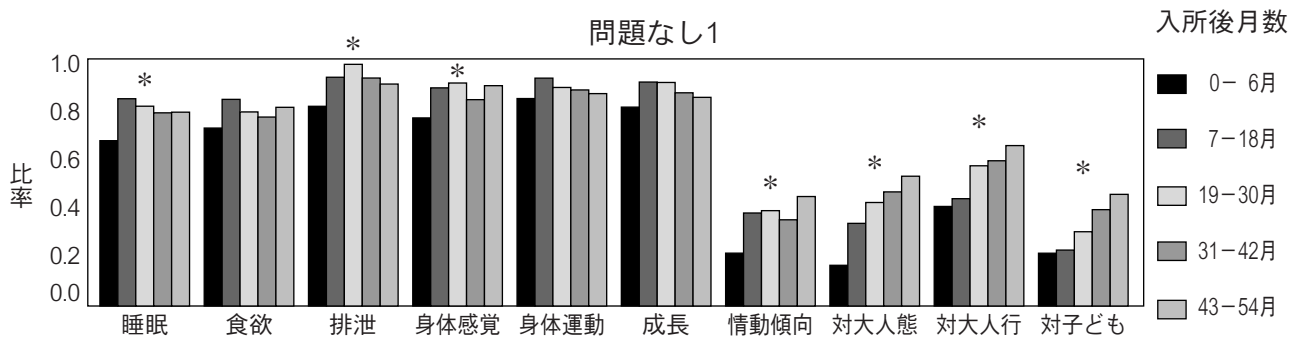
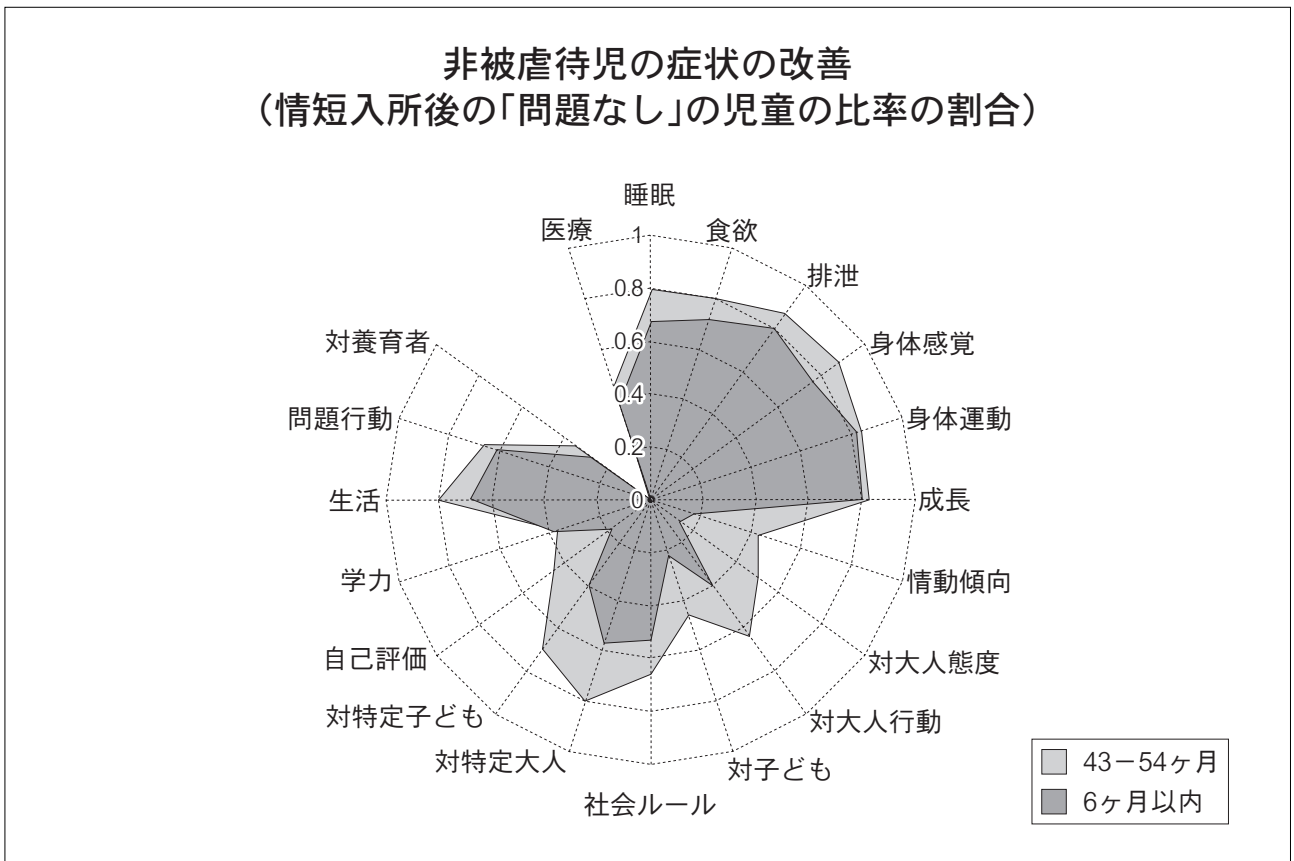


図 6-1

在所期間別、出現率

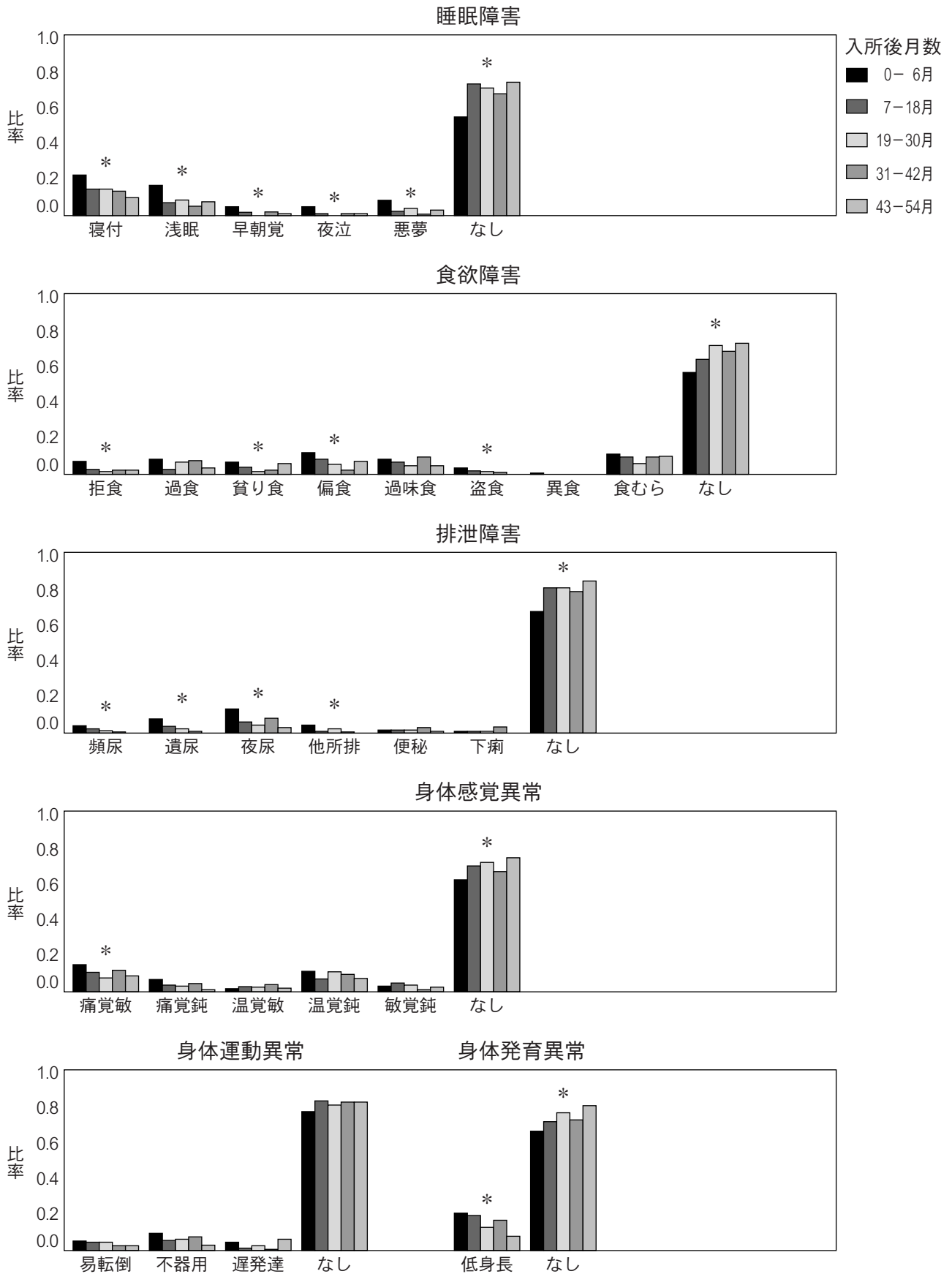


図 6-2

在所期間別、出現率

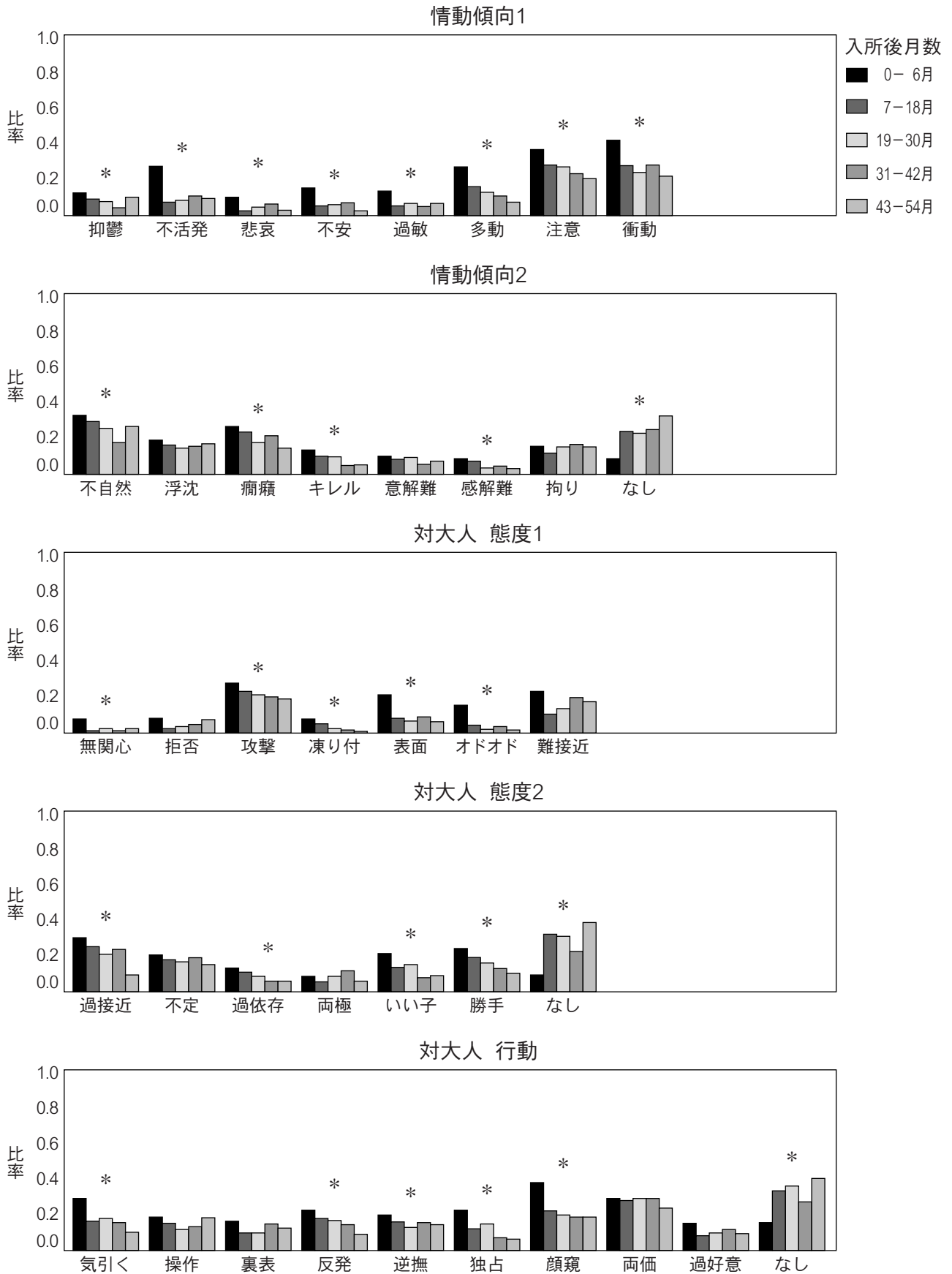


図 6-3

在所期間別、出現率

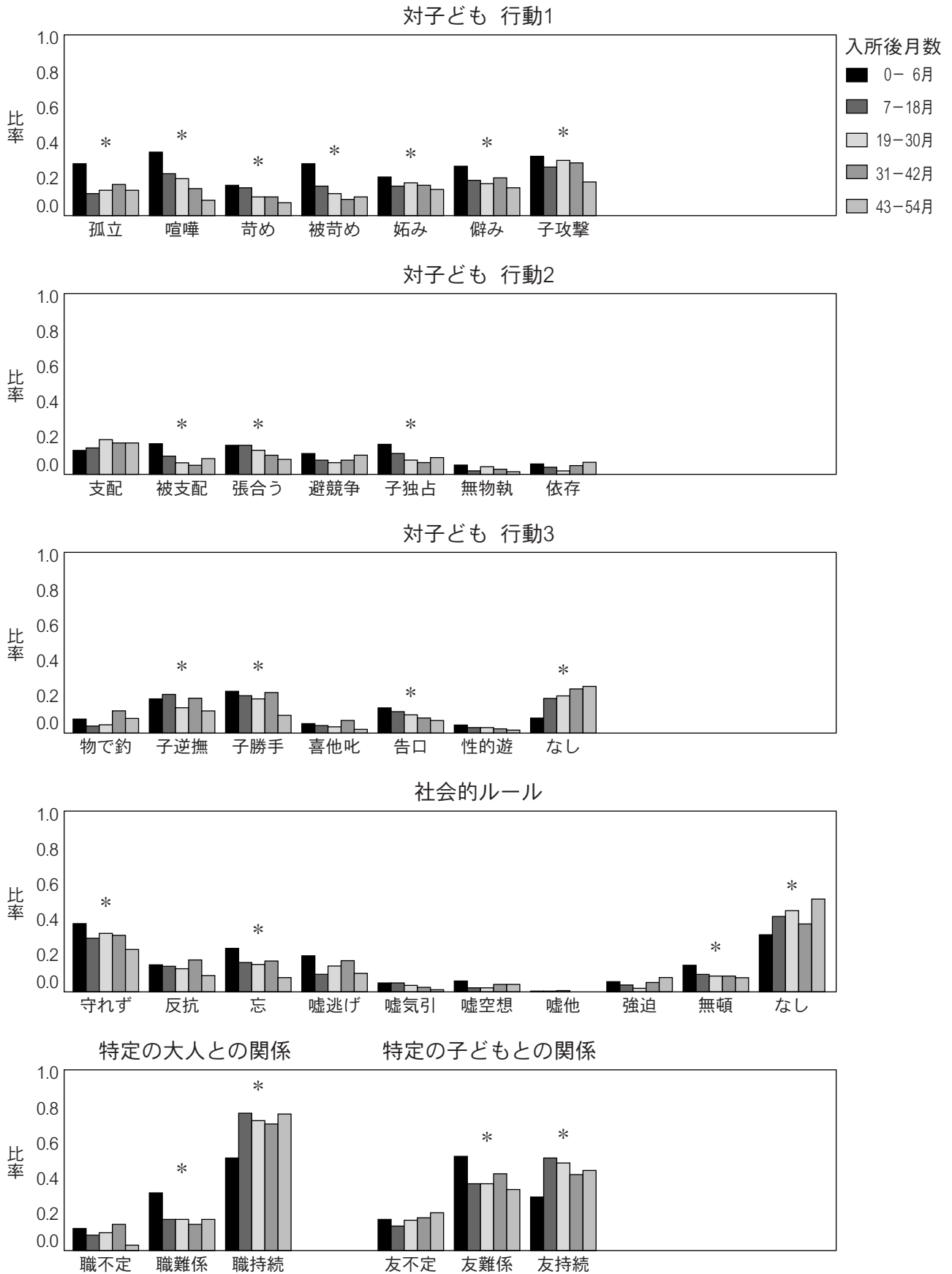


図 6-4

在所期間別、出現率

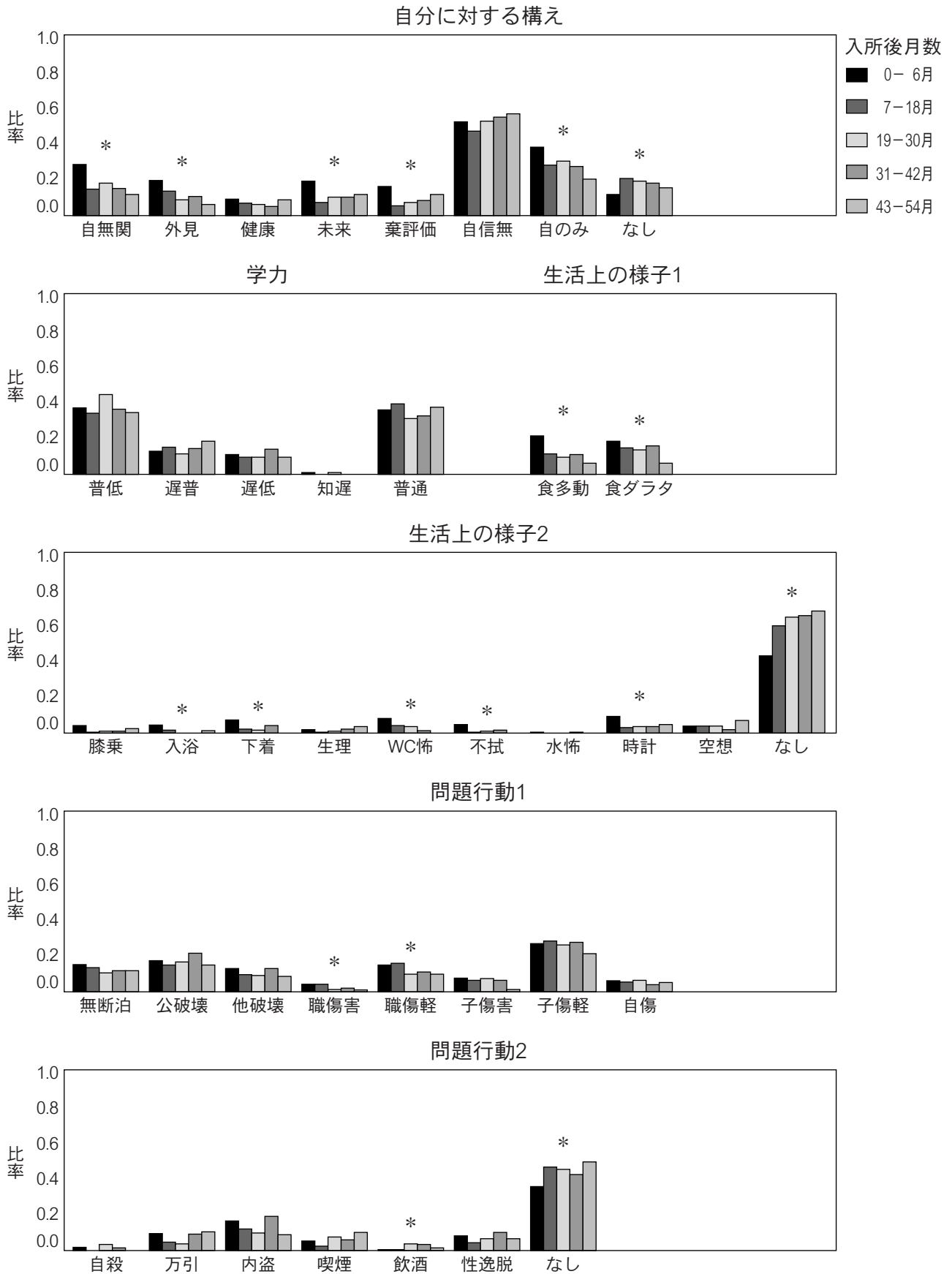
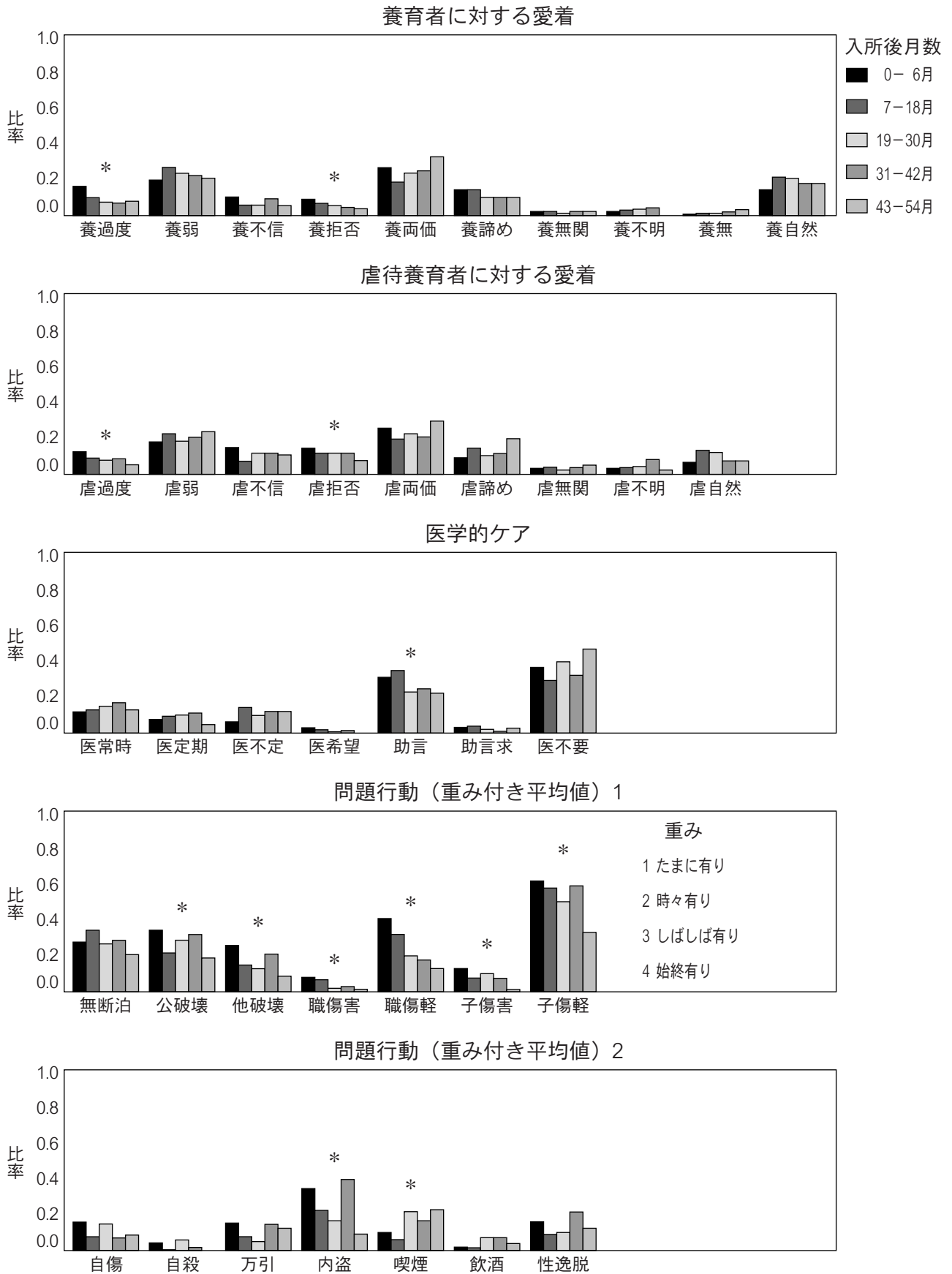


図 6-5

在所期間別、出現率



資料1

アンケート調査

子どもの状態像に関する調査

整理番号

施設No 児童No 被虐待児0・非被虐待児1

入所時の学年 小 中 高 (年) 入所時の年齢 (歳) 性別 (男・女)
入所年月 (年 月) 退所年月 (年 月) 退所時の学年 小 中 高 (年)
調査年月 (年 月)

(1) 身体的状況について

A 睡眠

- 1 ねつきが悪い
- 2 夜中に目を覚ましてしまう、眠りが浅い
- 3 早朝に目が覚めてしまう
- 4 夜泣き、激しい寝ぼけ、夜驚
- 5 悪夢の訴え
- 6 特に問題なし
- 7 その他 (

B 食欲

- 1 食欲がない、拒食傾向
- 2 異常なほどの食欲、過食傾向
- 3 むさぼり食い
- 4 極端な偏食
- 5 極端な味付け (調味料のかけすぎなど)
- 6 盗み食い
- 7 異食症 (食べられないものを食べてしまう)
- 8 食欲の極端なむら
- 9 特に問題なし
- 10 その他

C 排泄

- 1 頻尿
- 2 遺尿もしくは遺糞
- 3 頻尿な夜尿
- 4 トイレ以外 (居室など) での排尿便
- 5 頻繁な便秘
- 6 頻繁な下痢
- 7 特に問題なし
- 8 その他 (

D 身体感覚

- 1 痛みに敏感（わずかな痛みも大きく訴える、わずかな怪我にもパニックなど）
- 2 痛みに鈍感（痛みを感じないかのよう、怪我に気づかないなど）
- 3 暑さ・寒さに敏感（極端に暑がる、寒がる）
- 4 暑さ・寒さに鈍感（夏でも平気で厚着、冬でも平気で薄着など）
- 5 過敏さと鈍感さが混在していて、ちぐはぐ（身体感覚の異常）
- 6 特に問題なし
- 7 その他

E 身体運動

- 1 大きな運動機能のまずさ（転びやすい、ボールがよけられないなど）
- 2 微細な運動機能のまずさ（極端な手先の不器用さ）
- 3 運動発達の遅れ（極端に足が遅いなど年齢に比して著しい運動発達の遅れ）
- 4 特に問題なし
- 5 その他（

F 身体発育

- 1 その年齢の標準に比して低身長・低体重
- 2 特に問題なし
- 3 その他の身体発達上の問題（

(2) 情動の傾向

G 情動の傾向

- 1 元気がない、ふさぎ込み（抑うつが目立つ）
- 2 表情が乏しい、もしくは不活発で硬い表情が目立つ
- 3 すぐ泣き出す、すぐ涙ぐむ、悲しげ（悲哀が目立つ）
- 4 不安、もしくは怯えの表情が目立つ
- 5 過敏な反応（ぎくっと驚愕したり、怯えを示すなど）
- 6 過度の落ち着きのなさ（多動傾向）
- 7 注意の集中や持続の困難が目立つ
- 8 衝動性が目立つ、衝動のコントロールが困難
- 9 不自然なはしゃぎやハイテンションが目立つ
- 10 気分の浮き沈みが激しい、感情が移ろいやすい
- 11 些細な刺激やきっかけで痙攣やパニックが起きる
- 12 周りには訳が分からないことで、突然キレたり激しい痙攣を起こしたりパニックを起こす
- 13 ぼーっとして、心がどこかに行ってしまったような表情を示す、叱られたり注意されたときに起きやすい、その間のことはほとんど頭に入っていない（意識の解離）
- 14 ふつうなら激しい感情反応（泣くとか怖がるとか）が引き出されるはずの状況で、まるで何も感じてないかのような無反応さ・無感情さを示す（感情の解離）
- 15 些細なことへのこだわりが目立つ
- 16 特に問題なし
- 17 その他（

(3) 対人関係の傾向

H 大人（スタッフ）に対する態度

- 1 無関心で関わりを持とうとしない、或いはどうでもよいという様子
- 2 拒否的で関わりを拒む、或いは放っておいて欲しいという様子
- 3 攻撃的で怒りやイライラをぶつけてくる、或いはつっぱった態度
- 4 凍りついたような目つきや様子
- 5 表面的で、心を開かない様子
- 6 おずおずとした態度、おどおどとした態度
- 7 近づきたい様子はあるが、うまく近づけない
- 8 過剰に接近しがち（べたべたする、過度なじゃれつきなど）
- 9 そのときそのときで近づいたり離れたり不安定（安定しない距離の取り方）
- 10 極端な依存や見捨てられ不安がうかがわれる態度（つきまとい、しがみつき）
- 11 オーバーな甘え方と手のひらを返したような無視の態度
- 12 大人に合わせてできるだけ「いい子」として受け入れられようとする態度
（不自然なこやかさ）
- 13 相手の様子にお構いなく身勝手に近づいてくる
- 14 特に気づく点はない
- 15 その他（

I 大人（スタッフ）に対して目立つ行動

- 1 スタッフの注意を引こうとする（逸脱した振る舞いなどによって）
- 2 思いどおりに動かそうとする（操作的）
- 3 裏表のある言動、相手によってまったく異なる言動
- 4 反発や攻撃
- 5 神経を逆なでしたり、かっとさせるような言動
- 6 独りじめしようとする
- 7 顔をうかがう
- 8 甘え（依存）と反発（拒否）が入り混じる（アンビバレンツ）
- 9 スタッフへの好意や愛着を強く示そうとする（過剰なサービス）
- 10 特に気づく点はない
- 11 その他（

J 他の子どもに対する目立った行動

- 1 一緒に遊ばず、孤立している
- 2 すぐに喧嘩や衝突になる
- 3 すぐにいじめる
- 4 いじめられやすい
- 5 ねたみやすい、嫉妬心が強い、すぐうらむ
- 6 ひがみやすい
- 7 攻撃的、他の子を口でやっつけたり、或いは暴力に訴えやすい
- 8 支配的、他の子を思うように動かそうとする

- 9 他の子の言うがままになりやすい
- 10 競争心が強くすぐはりあう
- 11 競争を避ける、しり込みする
- 12 独占欲が強い、物や人を独り占めしたが
- 13 物への執着が薄く、すぐ他児に譲ったり取られても気にしない
- 14 依存的で他の子に頼る、一人ではできない
- 15 物品などで他の子の好意や関心を得ようとする
- 16 神経を逆なでするような、かっとさせるような言動
- 17 その場の様子を気にせず、勝手なので嫌われる（傍若無人）
- 18 他の子が叱られるのを喜ぶ
- 19 告げ口が多い
- 20 性的な遊びをする（同性と）
- 21 特に目立つ行動に気づかない
- 22 その他（

K 社会的なルールや約束

- 1 わかっていても自己コントロールができず守れない
- 2 反抗や反発からわざと破る
- 3 注意されたり指示されたことが残らない、ルールや約束をすぐ忘れる
- 4 虚言が多い
 - 虚言の傾向 a 責められることを避けようとしての嘘
 - b 関心を引こうとしての嘘
 - c 空想やファンタジーがいきりまじった嘘
 - d その他（
- 5 ルールに過度に忠実、融通がきかない、脅迫的にこだわる
- 6 ルールに無頓着
- 7 特に気づく点はない
- 8 その他（

L 特定の大人との関係

- 1 特定の大人（スタッフ）と親しい関係を持ち、その関係は持続的で安定
- 2 特定の大人（スタッフ）と親しい関係を持つが、その相手がよく替わり一定しない
- 3 特定の大人（スタッフ）と親しい関係を持ちにくい
- 4 その他

M 特定の子どもとの関係

- 1 特定の子と親しい友人関係を持ち、その関係は持続的
- 2 特定の親しい友人関係を持つが、その相手がよく替わり一定しない
- 3 特定の子と親しい友人関係を持ちにくい
- 4 その他（

(4) その他

N 自分自身に対する構え

- 1 どうせ・・・となげやりで自分に無関心（どうでもよい）
- 2 自分の外見や人目（身なり、服装や体の清潔など）に無関心で注意を払わない
- 3 自分の健康や身体の状態に無関心で注意を払わない
- 4 自分の未来への関心ないし希望を持たない
- 5 自分が他の人から好かれる（愛される）とは思っていない、或いは好かれる努力を放棄している
- 6 自分にいろいろ自信がない
- 7 自分のことしか考えない、自分のことで精一杯
- 8 特に気づく点はない
- 9 その他（

O 認知能力（知的能力）と基本的な学習能力（読み書き、計算など）

- 1 知的発達は普通で、それ相応の学習能力がうかがわれる
- 2 知的発達は普通なのに、それに比して学習能力の低下やバランスの悪さが目立つ
- 3 境界～軽度の知的遅れがあり、それ相応の学習能力がうかがわれる
- 4 境界～軽度の知的遅れがあるが、それ以上の学習能力の低さやバランスの悪さが目立つ
- 5 中度以上の知的遅れがみられる
- 6 その他（

P 生活上の様子

- 1 食事中ひどく落ち着かない
- 2 だらだら食べていて、なかなか終わらない
- 3 人の膝にのれない、爪切りをこわがる
- 4 入浴中背中を流させない
- 5 下着を取替えない
- 6 生理の始末ができない
- 7 トイレが怖い
- 8 トイレでお尻をふかない
- 9 水が怖くて顔が洗えない
- 10 時計が読めない
- 11 空想の世界に入りきっている姿が目立つ（踊ったり、学級委員などの役割を与えられたときなど、なにかのりうつっているような)
- 12 特に目だった点はない
- 13 その他

Q いわゆる「問題行動」

頻度にも ○ をつけてください

- a しじゅう：毎日のように
- b しばしば：週に1～2度くらい
- c ときどき：月に1～2度くらい
- d たまに：何ヶ月に1度くらい

- 1 無断外出・外泊 (a・b・c・d)
- 2 窓ガラスを割るなど公共物・共有物への器物破壊 (a・b・c・d)
- 3 他人の私有物への器物破壊 (a・b・c・d)
- 4 大人(スタッフ)への、けがを負わせる暴力 (a・b・c・d)
- 5 大人(スタッフ)への、けがを負わせない程度の暴力 (a・b・c・d)
- 6 他の子への、けがを負わせる暴力 (a・b・c・d)
- 7 他の子への、けがを負わせない程度の暴力 (a・b・c・d)
- 8 自傷行為 (a・b・c・d)
- 9 自殺企図 (a・b・c・d)
- 10 施設外での盗み、万引きなど (a・b・c・d)
- 11 施設内での盗み (a・b・c・d)
- 12 喫煙 (a・b・c・d)
- 13 飲酒 (a・b・c・d)
- 14 性的な逸脱行為(内容：) (a・b・c・d)
- 15 その他()
- 16 大きな「問題行動」はない

R 主たる養育者に示す愛着と拒否(全児童について回答してください)

- 1 愛着もしくは愛情欲求が過度に強い
- 2 自然な愛着や愛情欲求が示される
- 3 愛着や愛情欲求を示すが弱い(相手をうかがっているような)
- 4 愛着や愛情欲求よりも不信や拒否感情の方が優位に示される
- 5 愛着や愛情欲求はほとんど示されず、不信や拒否感情が強く示される
- 6 愛着や愛情欲求と不信や拒否感情との間で揺れたり混乱する(アンビバレンツ)
- 7 あきらめたような、さめたような様子でいる
- 8 いずれも示さない、或いは無関心
- 9 不明(よくつかめない)
- 10 養育者がいない
- 11 その他()

アンケート調査 その2

リスクアセスメント

整理番号 -

施設 No 児童 No 虐待経験の有無(被虐待児 0、非被虐待児 1)

入所時の学年 小・中・高()年 年齢()歳 性別(男 女)

入所年月(西暦 年 月) 調査月日(西暦 2003 年 月)

虐待の種類(主◎ 従○ 身体 性的 ネグレクト 心理) 問題の発生年齢()歳

虐待者(親は実、継の別を明記、兄弟等も含む)()

入所時の養育者(同居成人、親は実、継の別を明記)()

こどもの側の要因(MR、脳波異常、未熟児、慢性疾患、身体障害、その他)()

入所経路()

該当項目に○をつけてください。(11~18「養育者」「養育状況」は、虐待者、非虐待者を含む。どちらかに該当すれば○)

1. 傷の程度	生命/重度	中	軽度	不明	部位(頭部・顔面・性器・頸部・内臓・臀部・上肢・下肢) 状態(血腫、骨折、裂傷、火傷、打撲、脱水症状、あざ、みみずばれ、皮膚疾患)
虐待 2. 虐待の継続					繰り返し/常習/子を何日も放置する
待 3. 虐待歴					入院/施設歴
4. 性的虐待					擬/性病/妊娠等
5. 関係機関からの情報					医療/警察/保健/学校/保健所/福祉事務所/民生児童委員/再三の近隣報告
6. 身体状態					障害/持病/発達遅れ/発育不全/アレルギー体質
子 7. 精神的状態					不安/恐れ/鬱的/チック/脱毛/夜尿/遺尿/異食/無表情/攻撃的/暗い表情
ど 8. 日常的状态					衣食住の監護なし/非衛生、不潔/医療の放置/監督不十分
も 9. 問題行動					暴力/盗み/家出/虚言/性的逸脱/自傷行為/深夜徘徊/怠学
10. 意思・気持ち					親を嫌う/帰りがらない/アンビバレントな気持ち
11. 精神的状態					鬱的/精神症状/通院/服薬/疑いはあるが通院歴なし
養 12. 性格的問題					衝動的/未熟/攻撃的/偏り/共感性欠如
育 13. アルコール/薬物					依存/酔うと暴力/有機溶剤や覚醒剤乱用の疑い
者 14. 被虐待歴					被虐待歴/愛されなかった思い
15. 子感情/態度					子ども嫌い/産まなければ/アンビバレントな気持ち
養 16. 虐待自覚なし					問題意識なし/体罰容認/しつけ主張
育 17. 養育意欲/能力					意欲なし/能力低下/知的障害
状況 18. 養育知識					若年親/知識不足/不適切/期待過剰
家 19. 社会的サポート					孤立的/親族の対立/親族過干渉/保育なし/転居
族 20. 夫婦問題					夫婦不和/夫婦間暴力/別居/家出/離婚問題
環 21. 経済問題					ローン/生活苦/失業/転居/計画性欠如
境 22. 生活環境					劣悪住居/安全確保への配慮なし
機 23. 協力態度なし					機関介入拒否/接触困難
関 24. 援助効果なし					調整改善期待できない
25. 子を守る人なし					日常的に子供を危険から守る人がいない/危険な時子の逃げ場がない

退園児に関する調査

整理番号

--	--	--

施設No

児童No

被虐待児 0・非被虐待児 1

入所時の学年 小 中 高 (年) 入所時の年齢 (歳) 性別 (男・女)
 入所年月 (年 月) 退所年月 (年 月) 退所時の学年 小 中 高 (年)
 調査年月 (年 月)

(1) 治療効果について

- 1 改善 2 やや改善 3 不変 4 悪化 5 中断

(2) 退所の形態について (重複回答可)

- 1 症状の軽減や改善が得られて退所
- 2 児の発達や成長を見届けて退所
- 3 家族の変容や成長が得られて退所
- 4 試行錯誤の用意や進路が整い退所
- 5 児の成長にふさわしい居場所 (他施設など) が整い退所
- 6 治療半ばであるが、児及び家族の希望に基づき退所 (治療的判断により)
- 7 施設治療の力量の限界につき、他機関へ紹介
- 8 治療の膠着や、展望が崩れて中断
- 9 児の激しい逸脱行為 (暴力、性的逸脱など) のため中断
- 10 家族の激しい非協力的拒絶 (度重なる帰省の無断延期、強引な引き取り要求など) のため中断
- 11 転居や年齢超過などの都合で中断
- 12 児側が治療にのれなくなり中断
- 13 家族側が治療にのれなくなり中断
- 14 通所措置に変更
- 15 その他 (

(3) 転帰について

- 1 家庭復帰
- 2 祖父母の家庭などへ復帰
- 3 児童養護施設への措置変更
- 4 児童自立支援施設への措置変更
- 5 里親に委託
- 6 ファミリーグループホームに委託
- 7 自立支援ホームに委託
- 8 その他の機関に委託 (
- 9 自立
- 10 その他 (

(4) 進路について

(a) 1 学籍移動 2 進学 3 その他就職など

(b) 学校種別など

- 1 小学校
- 2 中 学
- 3 高 校 全日制
- 4 定時制
- 5 通信制
- 6 サポート校 (通信制提携校)
- 7 専門学校
- 8 大学
- 9 就職 正社員
- 10 アルバイト
- 11 その他 (

(5) 退所後の援助について (重複回答 可)

- 1 施設で援助 通所措置による
- 2 施設で援助 通所措置によらない
- 3 見相で援助
- 4 医療機関で援助 入院による
- 5 医療機関で援助 外来による
- 6 他の相談機関で援助 (相談機関種別)
- 7 その他 (
- 8 退所後の援助 なし